教	科		学科)車工学	科目		材料			対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01
		日乳	J 平 工子							一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科	担当	関根	健、中村	泰史(二	級整備士)						
実務網	Z験教員	授業	非該当	総時限	6時限	授業方法	講	義	評価方法	期末試験		
〔授業	概要・	目的〕										
* <u>三</u> 約	及整備	士試験	食合格レベ	ルに到達す	する上で、タ	必要な自動	加車材	料の	基礎知識	を習得する。		
*自動	動車整	備作業	美に関係す	る自動車の	のリサイクル	レ対応の予	備知詞	哉の習	習得。			
〔授業	の到達	目標)]									
① 金	属材料	料の性	質・種類と	よび加工	処理方法	が理解でき	る。					
② 非	金属	材料の'	性質·種类	頁および加!	工処理方	法が理解で	ごきる 。					
3 J	サイクル	/方法と	と必要性が	で理解でき	3.							
〔学習	評価の)基準〕)									
試験	点数の	の基準	を、「5・4	1 · 3 · 2 ·	1]の5段	階で表わる	す。					
試験	点数の	の評価	は 5:9	0 ~100	点 4:7	75 ~ 89 ₅	点 3	: 60)~ 74点	į		
6 0	点未	満の場~	合は再試	験を行う。	尚、再試賜	険後の評価	がは試	験規	程による。			
〔使用	教科書	書・教材	持 〕									
*『自	動車机	才料』	全国自	動車整備	専門学校	協会 *	自前	ijプリ	ントをレジュ	1メとして、別途配付。	1	
					授	業計画	表					No. 1
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)			
	1	* 総訴	扁/*金属	材料の性質	質							
	1		*鉄鋼材	料(I)								
	1		*鉄鋼材	料(Ⅱ)								
	1		* 非鉄金	属材料								
	1		*非金属	材料								
	1		* 総まとぬ	b								

教	ൊ		学科	科目		図面			対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01
77.		自重	加車工学	1710		ы			ZISVIIX	一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科	担当	中村	泰史 (二	級整備士)								
実務紹	経験教員	授業	非該当	総時限	4時限	授業方法	講	義	評価方法			
〔授業	概要・	目的)										
* 三級	及整備	士試馬	検合格レベ	いに到達す	る上で、	必要な図面	面の基	礎知]識を習得	する。		
* 整備	計士とし	て業績	務で用いる	マニュアル等	等の図が理	里解でき、簡	第単な	図が	描ける知言	戦を習得する。		
〔授業	の到達	目標)									
① 製	図の意	意義と	重要性を理	理解し、線の)種類と用	法を理解す	する。					
② 各	種図》	去表現	の理解とす	寸法の記入	、方法を理	2解する。						
③ 部	品等	主観察	し、簡単な	図が描ける	ること。							
〔学習	評価の)基準)									
評価な	î L											
〔使用	教科書	書・教林	才等〕									
*『製	図』	全国	自動車整備	備専門学	交協会	* 自前	プリント	をレ	ジュメとして		i面サンプル	
					授	業計画	表					No. 1
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)			
	1	製図の	の意義と重	要性及び	規格/図面	面の大きさ及	び様	式				
	1	線、戈	(字、尺度	/図形の表	し方/前期	阴復習/寸流	去記入	、のオ	法			
	1	実物	での確認((演習) /ギ	ギヤの断面	可形状/製品	温図の	現物	での確認			
	1	その他	2の製図に	よる指示方	法/ボルト	による現物	確認	(演	[習) /頭部	部形状の違い、胴部の	の違い	
		ねじ先	この違い/並	位目と細目の	の違い				-			
									-			

1/ -	T.V.	学科		1710	+	™ ⇔₹↓≠⇒	- عدد		+1 <i>4</i> 5.47	専門課程	作成月日	25/04/01
教	枓	自動車コ	匚学	科目	基	礎自動車工	_子		対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科	担当	加賀美 追大塚 光華				: (二級整位 - (一級整位				时九州无子47 1 平	J	
実務網	Z験教員		該当	総時限	8時限	授業方法		義	評価方法			
〔授業	概要・	目的〕										
* 新.	入生に	対して、自	動車の	の全体像を	理解させ	、その後の	本格技	受業/	への意識へ	けけを行う。		
*自動	動車の	専門用語、	専門	単位に触れ	つ、技術者	番の卵として	の意識		けを行う。			
〔授業	の到達	目標〕										
1 [自動車	の概要、基	本構	造を理解す	する。							
② 専	門用	語の意味を	理解	する。								
〔学習	評価の)基準〕										
評	価なし											
〔使用	教科書	i・教材等)									
*『基	礎自動	协車工学』	『基础	楚自動車	怪備作業。]						
					授	業計画	表					No. 1
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)			
	1	導入/自動	加車の	概要(概	要)							
	1	自動車の	概要	(エンジンオ	体 I)							
	1	自動車の	構造	(エンジンオ	体Ⅱ)							
	1	自動車の	機械要	要素/燃料	及び、潤滑	劑						
	1	基礎的な	原理・	法則/基礎	計算能力	」の確認						
	1	自動車の	構造	(動力伝達	≣)							
	1	自動車の	構造	(足回り)								
	1	自動車の	構造	(車体関係	(4) (自動	車の諸元						

+//-		学科	-11-				専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車工学	科目	基礎整備作	業	対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・研究開発学科 1年	開講期	前期
教科	担当	加賀美直人·福油 春原雄一(一級		村智忠 (二級整備士))		[M]211/11/20	-	
実務網	圣験教員		総時限	8時限 加賀美直 人・福泊	講義	評価方法			
〔授業	概要・	目的〕		16.5	•				
・整備	の基礎	楚知識を理解し、	身に付ける	る。・基礎整備作業を	₹理解し、身	まに付ける。)		
・基礎	整備化	作業を理解し、身	に付ける。						
・電流	・電圧	·抵抗·回路等、	義務教育	で学んだ内容の復習	3.				
・サー	キットテ	スタの使用方法を	を覚える。						
〔授業	の到達	目標〕							
·整備	作業の	日標、職場の労	 :働安全、:	安全作業の心得、整	―― と備工場か	ら発生する	 る公害を理解できる。		
・工具	の使用	目的、機能、正	しい使い方	を習得する。					
・回路	図の記	号を覚える。							
・サーニ	キットテ	スタの安全な使用	 用方法を習	3得する					
〔学習	評価の)基準〕							
評価な	Ĵ								
	_								
〔使用	教科書	· 教材等〕							
・基礎	自動車	巨整備作業(教	科書)・P	U工具導入ネジ(拍	受業資料)				
· D V	D (†	かるよ!電流・電流・電流・電	電磁石小学	学校の理科)・基礎	回路セット	(2名で1	セット)		
				授業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限				授業内容	(項目)			
	1	目的・目標/整備	帯作業の目	1標/職場の労働安全	全/安全作	業の心得/	を備工場から発生す	る公害	
	1	基本作業/メート	いねじ説 り	児/工具チェック/スパ	ナ/モンキ・	ノンチ/めが	ねレンチ/ソケット・レン	チ	
		ヘキサゴン・レンチ	F						
	1	・トルク・レンチ・ト	ドライバ・ハン	ンマ・プライヤ・ギヤ・フ	プーラ・タッフ	゚・ダイス・ヘ	リサート		
	1	工具の種類確認	忍テスト/工	.具チェック/まとめ					
	1	電流と電圧・電荷	磁石の復習	₹					
	1	電気回路につい	τ						
	1	サーキットテスタ値	使用方法						
	1	電気基礎回路t	2ット測定						
					_				

教科	4	学科 自動車工学	科目		自動車総論	à	対象級	専門課程サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01
			5025年 店	· ==+H #:	** •/**********************************	* 70°C ;		一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
教科担	当	(二級整備士) 中村	加負美 但 <i>.</i> <u>泰史・中村</u>			₿•偛汨♬	馬史 			
実務経馬	験教員	授業非該当	総時限	10時限	授業方法	講義	評価方法	期末試験		
〔授業根	既要・	目的〕								
*三級	整備	士試験合格レベ	ルに到達す	する上で、,	必要な計算	算方法を	習得する。			
*整備	士とし	て業務で用いる	計算式が	理解でき、	計算方法	を習得す	る。			
〔授業の	D 到達	目標〕								
・車が走	行に	関わる数字が一	<u></u> 連の姿とし	てつながる	ようになる					
・軸重、	減速	、増速、速度に	ついての計	算ができる) 					
・圧力、	体積	、圧縮比について	ての計算が	できる						
〔学習評	平価の)基準〕								
試験只)基準を、「5・4	· 3 · 2 ·	1]の5段	階で表わる	す。				
試験只	点数0)評価は 5:9	0 ~100	点 4:7	'5 ∼ 89 ₅	5 3:	50 ~ 74点	<u> </u>		
6 O s	点未活	端の場合は再試	験を行う。i	尚、再試縣	食後の評価	は試験規	見程による。			
〔使用教	教科書	・教材等〕								
* 自前	前プリ	ントをレジュメとし	て、別途酢	2布。						
				授	業計画	表				No. 1
実務経験 標	標準時限					授業内容	孚(項目)			
	2	1.ギヤの役割	とギヤ比((減速比)	の求め方					
		2. ギヤ比から[回転数、ト	ルクの求め	_)方					
		3. トランスミッシ	ションのギヤ	'比計算						
		4. 終減速比、	デリとタイヤ	ア回転数の	D計算					
		5. 総減速比								
		練習問題(各項	—— 頁目終了ご	でとに演習))					
	2	1. 排気量と総	 排気量の	求め方		・円の面	積、体積計	 ·算		
		2. 圧縮比のす	えめ方			・圧縮比	の意味の理	 里解		
		3. 平均ピスト:	ン速度の求	対方		・平均ピ	ストン速度の	の意味の理解		
		4. カム・リフトと	_バルブ・ク!	Jアランス		・比率計	算の理解			
		5. 出力(仕事	事率)の求	えめ方		・出力	(仕事率) (の意味の理解		
		練習問題(各項	頁目終了ご	ごとに演習))	・練習問	題による実	力養成		

大教	科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車総論	ì	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・	作成月日	25/04/01 後期
							研究開発学科 1年	開講期	仮 期
				授業計画		(-T-)			No. 2
実務経験	標準時限				授業内容				
	2	1.プラネタリ・ギ	ヤとは		・プラネタリ				
							ーナルギヤ		
		2. プラネタリ・:	ギヤの計算				え、その他は正転		
							が大きい場合増速		
		3. プーリーの3			・プーリーの				
		4. プーリーにカ					区動側円周		
		練習問題(各)	真目終了こ	だに演習)	・練習問題	色による実	力養成		
	2	1. 圧力と力と	パスカルの原	京理	・パスカルの)原理及(バ1Paの意味		
		2. ブレーキカ	と油圧計算	Ī	・テコの原理	里から力の	関係		
		3. トルクとは			基本となる	るトルクの	意味の理解		
		4. トルク・レン	チの計算		・アダプタケ	けきの解き	方		
		練習問題(各)	項目終了こ	どに演習)	·練習問題	配よる実	力養成		
	_								
	2	新 力のモーメン		h0.Δ					
			ーメントの金 		·重心				
		(2)重			·軸重 				
		練習問題(各)	真目終了こ	だに演習)	·練習問題	態による実	力養成		

	5	学科								作成月日	25/04/01
教科		,, , 加車工学	科目	パワ	ーユニット様	造		VI)S(II)X	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科担当	(二)	及整偏士)	/3/1/2/2/	旦人・関根	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	止博・	福汨	篤史			
371112	(一約	及整備十)	大塚 光津	き・春原 雄							
実務経験教員	授業	非該当	総時限	40時限	授業方 法	講	義	評価方法	単元·期末試験		

〔授業概要·目的〕

- *二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの
- 基礎知識・技術を習得する。
- *二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得
- *四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

- ① 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。
- ② 燃料の精製・性状・添加剤・取り扱い上の注意を理解する。
- ③ 潤滑剤の目的・種類を理解する。
- ④ 基礎的な原理・法則の電気・磁気を理解する。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書・教材等〕

*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士(総合)』

: 日本自動車整備振興会連合会『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』: 全国自動車大学校・整備専門学校協会

			授 業 計 画 表	No. 1
実務経験	標準時限		授業内容(項目)	
	1	エンジン本体 1	作動/4サイクル・エンジン/4サイクル・エンジン(ジーゼル)/2サイクル・エンジン	
	1	エンジン本体 2	2 構造・機能/シリンダ・ヘッド/シリンダ・ヘッド・ガスケット	
			シリンダ、クランクケース及びシリンダ・プロック/ ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リ	ング
	1	エンジン本体 3	ピストン・リング	
	1	エンジン本体4	コンロッド及びコンロッド・ベアリング/クランクシャフト及びジャーナル・ベアリング	
	1	エンジン本体 5	パルプ機構	
	1	エンジン本体6	トルク管理/締結の方法、注意点/行程関連(単気筒)	
	1	エンジン本体 7	4 気筒の説明/4 気筒の行程関連	
	1	エンジンの計算	トルクの計算	
	1	電装基礎1	電気の基礎	
	1	電装基礎 2	電気回路	
	1	磁気、コイル	磁気/磁場/磁界および磁力線/磁束と密度/電流による磁界/コイル/電磁力/電磁	誘導
	1	リレーとモータ	リレーと回路	
	1	バッテリ 1	第5章 エンジン電気装置・	

		学科	小教科			専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	自動車工学	目	パワーユニット構造	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
			-	授業計画表			-	No. 2
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)			
	1	バッテリ2	形式表示	/充放電反応/容量/放電率/	起電力/放	双電終止電圧		
	1	バッテリ3	放電特性	:/電解液比重と各要素との関係	系/バッテリ	-の整備・保守取り扱	रुरा	
	1	エンジンの計算	オームの法	5則/排気量				
	1	始動装置1	始動装置	/概要・整備				
	1	始動装置 2	マグネット・	・スイッチ/作動				
	1	配線図1	電気回路	図(始動装置)				
	1	配線図2	電気回路	(二輪車)				
	1	冷却装置1	冷却装置	/概要/構造・機能				
	1	冷却装置 2	ラジェータブ	及びサーモスタット				
	1	冷却装置3	サーモスタ	ット/ファン/不凍液				
	1	冷却装置4	ラジェータス	及びサーモスタット/点検・修正				
	1	潤滑剤	潤滑剤の	作用				
	1	潤滑剤、潤滑装	潤滑剤の	種類				
	1	潤滑装置	オイルの循	環·構造·機能				
	1	潤滑装置	整備作業					
	1	燃料	燃料及び	潤滑剤/排出ガス浄化装置				
	1	燃料・燃料装置	燃料装置	「「ガソリン・エンジン」・概要				
	1	燃料装置	インジェクタ	タ・フューエルポンプ/タンク/パイフ	۴			
	1	燃料装置	整備					
	1	吸排気装置 1	吸排気装	置·概要/構造				
	1	吸排気装置 2	排出ガス湾	争化装置				
	1	点火装置1	点火装置	・概要/構造				
	1	点火装置 2	気筒別独	立点火方式(ダイレクト				
	1	充電装置1	バッテリ	(復習)				
	1	充電装置 2	充電装置	・概要/構造				
	1	充電装置3	レクチファイ	イヤ/ボルテージ・レギュレータ				
	1	エンジンの計算、	トルク、アク	タッチ付きトルク、行程関連				

			1					1		
±z/-:	IN	学科	1110		> > #1 /#-		+ +4 7. 4π	専門課程 サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01
教	科	自動車工学	科目		シャシ構造		対象級	一級自動車整備学科・		前期
教科	——— 担当	(二級整備士)			息・日居 史也	<u> </u>		研究開発学科 1年		
		<u>(一級整備士)</u> 	<u>春原 雄─</u> 総時限		授業方法	講義	評価方法	単元·期末試験		
	概要・		19001917	70 PJ	1文来/3/五	Xt tH		170 7771 12-020		
		 輪自動車のシャ	い.女.壮罢)	-0UT =	ませたしく	ታ 	たまれて 江田岳	なり的とする		
	XO.F.	押ロ割牛ツング	グボ衣垣	とういし、左	S/平/伸/旦C1	ロがバスしゃ	ト当ルル王所	#で日的C9 の。		
小拉森										
				如口小処宝	コレ 大松 台に 小 2	13/日 』	//c 垂h / 垂h=	き)と動力伝達の習	/B	
					か省侍	* 电风()	<i>。</i> 全 使 計 昇	[の習得 *電気装置 	直の作動の	首侍 ————————————————————————————————————
		としての、心構え	.,基礎知							
)基準〕								
								5段階で表わす。		
5:	特に成	績優秀なもの 4	1:成績良	のもの 3:	成績普通の)もの 2	:成績やや	学るもの 1:成績特	持に劣り、不	合格のもの
各試	験点数	の評価は 5:5	90 ~100;	点 4:75	~ 89点	3:60 ~	74点			
		6	0 点未満の	場合は再試	ば験を行う。 は	5、再試験	後の評価は	試験規程による。		
レポー	-トの評	価は 5:非常	に優れている	3 4:優々	こている 3	: 普 通	2:やや3	劣る 1:劣る(再提	出の必要が	ある)
〔使用	教科書	書・教材等〕								
三級自	自動車	総合,電装品	構造,HN	1SE3級,	テキスト,	他				
				授	業計画	表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
	4	●授業項目((前半) 重	助力伝達装	置 導入	クラッチ1	, 2, 3			
		Ⅱ 動力伝達	装置							
		1 概要/2	構造・機能	į						
	3	●授業項目(ランスミッシ	ニン1、2、	. 3		_		
	1	●授業項目(後半) ト	 トランスファ、	LSD					
	2	 ●授業項目((前半)	プロペラシャブ	 フト、ドライフ	ブシャフト				
	2	●授業項目(
	2	●授業項目(スペンション	1、2				
		●授業項目(レ・ナット型 [:]	 を除く)		
		●授業項目(_						
		●授業項目(· ,			
	3	●授業項目(
	1	●授業項目(
	_	●授業項目 (●授業項目 (
			_							
	1	●授業項目(A)				
	1	●授業項目(別半) -	_輪サスペン	ンション					

1 +4	1 10	学科	1 +/- 1 1 -		F14	1167.67	専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	自動車工学	小教科目	シャシ構	适		サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
			•	授 業 計	画 表				No. 2
実務経験	標準時限				授業内容	(項目)		•	
	1	●授業項目(〔後半) <u> </u>	輪ステアリング					
	1	●授業項目(〔後半) ∨	/マチック単体(二	輪)				
	1	●授業項目((前半) 電	氢等入 I					
	1	●授業項目(前半) 電	氢等入Ⅱ					
	2	●授業項目((前半) 基	基礎理論Ⅰ、Ⅱ	(電気回路の	計算)			
	2	●授業項目((前半) 基	基礎理論Ⅲ、Ⅳ	(電流と電圧	, 抵抗の	計測)		
	2	●授業項目(後半) 灯	「火装置 I					
	2	●授業項目((後半) 灯	「火装置 Ⅱ					

	5	学科								作成月日	25/04/01
教科		車整備	科目	パワ	ノーユニット素	を備 しゅうしゅ		71300	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
教科担当	(二)	以整偏士)	加賀美 년	旦人・関根	健•細川.	上博・	届汨	馬史	•		
软件担当	(一約	及整備十)	大塚 光津	き・春原 雄							
実務経験教員	授業	非該当	総時限	34時限	授業方 法	講	義	評価方法	単元·期末試験		

〔授業概要·目的〕

- *二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの
- 基礎知識・技術を習得する。
- *二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得
- *四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

- ① 前期学習内容を再確認しながら基本的な点検、測定、良否判定、調整方法を習得させる。
- ② 電子制御燃料噴射装置の基本的な構造、機能を理解する。
- ③ 排気ガス対策の基本的な構造、機能を理解する。
- ④ 基礎的な原理・法則、自動車の諸元に関わる計算方法を理解する。

〔学習評価の基準〕

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

〔使用教科書·教材等〕

*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士(総合)』

: 日本自動車整備振興会連合会『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』: 全国自動車大学校・整備専門学校協会

授業計画表												
実務経験	標準時限		授業内容(項目)									
	2	前ローテ	・前期 – 後半の学科内容を復習									
	2	燃焼・排出ガス	排出ガス・燃焼に必要な空気量/熱効率/熱の移動/燃焼の状態/排出ガス									
	2	ジーゼル・	・内燃機関の分類(作動方式による分類、燃焼方式による分類、着火又は点火	方式による、								
		エンジン	燃料の種類及び供給方式による分類)									
			ジーゼル・エンジン(概要、作動、燃焼、排出ガス)									
	2		・エンジン本体(構造・機能)/コモンレール式高圧燃料噴射装置									
	2	始動装置	リダクション式・整備									
	1	充電装置	充電制御1									
	1	充電装置	充電制御2									
	2	バッテリ	充電と異常検知/充電方法									
	1	電子制御装置	概要・構造/機能									
	1	電子制御装置	吸気系統/燃料系統									
	1	電子制御装置	点火/制御系統									
	2	復習	これまでの練習問題									

1 +4	1 1.	学科	小教科	10 1 +6++	1100	専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	自動車整備	目	パワーユニット整備	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
	•		-	授業計画表				No. 2
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)			
	1	復習	前半振り	亙り				
	1	潤滑·冷却	整備					
		装置整備						
	1	エンジン本体	シリンダ・^	、ット、シリンダ及びシリンダ・ブロ	ック			
		整備1						
	1	エンジン本体	ピストン、ヒ	ピストン・ピン、ピストン・リング、 コ	コンロッド、コ	コンロッド・ベアリング		
		整備2						
	1	エンジン本体	クランク・シ	ヤフト				
		整備3						
	1	エンジン本体	クランク・シ	ヤフト、ジャーナル・ベアリング、フ	フライホイー	・ル、リング・ギヤ		
		整備4						
	1	エンジンの計算	トルク、平	均ピストン速度、排気量、圧縮	比			
	1	総合復習	3級エンシ	ブン領域復習				
	1	復習	前半振り	亙り				
	1	点火装置1	復習:自	己誘導作用、相互誘導作用、	イグナイタ	、回転センサ		
	1	点火装置 2	復習: イタ	ヴニッション・コイル、スパークプラ	グ			
	1	二輪車電気装置	充電装置	、バッテリ				
	1	二輪車電気装置	点火装置	、始動装置				
	2	復習	練習問題					

								専門課程	作成月日	25/04/01			
教	科	学科	科目		シャシ整備対象	対象級	サービスエンジニア学科・	1FDX月口	25/04/01				
		自動車整備	,		- ,,		7 3 23 11117	一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期			
教科	担当	(二級整備士) (一級整備士)			·日居 史t	13	<u>!</u>	加九州光千符 1 4	<u> </u>				
実務経	圣験教員	<u> </u>	総時限		授業方法	講義	評価方法	単元·期末試験					
〔授業	概要・	L 目的〕		1									
二輪及	及び四	輪自動車のシャ	シ系各装置	置について、	基本構造	の復習と	更なる理解		 う				
「授業	の到達												
			の各装置(こついて. 基	本構造の	理解度を	上げると共に	こ、整備法の基本を	理解させる。				
						<u> </u>		THE STATE OF THE S	<u></u>	<u> </u>			
各部品の点検, 調整, 測定, メンテナンスの要領習得 													
	四輪車両において、定期点検(12カ月点検)及び記録簿の記入要領の習得 〔学習評価の基準〕												
			√証/無ひせ	S業のEmples	みを必合	1.7 [.4.3.2	 ・1 Jの 5 段階で表ね	h a t				
								・1 」の 3 段階で表4 					
									いいかり、个句	コ俗ツもツ			
店 各	い映点を	数の評価は 5	: 90 ~1	00点 4:	75 ~ 8°	9点 3	$60 \sim 72$	" 点 ————————————————————————————————————					
			< < ++·	# 410 4 11	 =	11	ー ニルEへ <i>バ</i> ィ	ゎ ニボ /ボノ ニ-上 K ヘ +ロ 1 ロノー					
レボ-	− トの							D評価は試験規程に :やや劣る 1:劣		この必要があ			
る)		平価は 5:非						D評価は試験規程に :やや劣る 1:劣		この必要があ			
る)										されている			
る) 〔使用	教科	平価は 5:非	常に優れ((いる 4:	優れている	3:置	1 通 2	: やや劣る 1 : 劣		この必要かあ			
る) 〔使用	教科	平価は 5:非 書・教材等〕	常に優れ(こいる 4: 品構造,三	優れている	3 : 晋]動車, F	1 通 2	: やや劣る 1 : 劣		30必要かあ No. 1			
る) 〔使用 三級自	自動車	平価は 5:非 書・教材等〕	常に優れ(こいる 4: 品構造,三	優れている 一般 一	3 : 晋]動車, F	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	自動車	平価は 5:非 書・教材等〕	京に優れ(こいる 4: 品構造, 三 授:	優れている 金級二輪自業計 画	3 : 晋 計動車, ト 記 表	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	自教科書 自動車 標準時限	評価は 5:非清 書・教材等〕 整備士(総合)	京に優れ() , 電装((前半)	いる 4: 品構造,三 授: 走行性能曲	優れている 級二輪自業計 画	3 : 晋 計動車, ト 記 表	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	自動車 標準時限 2	平価は 5:非 書·教材等〕 整備士(総合) ●授業項目(京に優れ() , 電装((前半) 前半) ク	いる 4: 品構造,三 授: 走行性能曲	優れている 級二輪自業計 画	3 : 晋 計動車, ト 記 表	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	自動車 標準時限 2 2	評価は 5:非常書・教材等〕整備士(総合)●授業項目(●授業項目(京に優れ() , 電装i (前半) : 前半) : 後半) : 3	にいる 4: 品構造, 三 授 走行性能曲 プラッチ整備?	優れている	3 : 晋 計動車, ト 記 表	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	a 事動車 標準時限 2 2 1	評価は 5:非常書・教材等〕整備士(総合)●授業項目(●授業項目(●授業項目(京に優れ() , 電装i (前半) : 前半) : 後半) : 5	にいる 4: 品構造, 三 授 走行性能曲 プラッチ整備が 安全装置	優れている	3 : 晋 計動車, ト 記 表	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	a 数科語 自動車 標準時限 2 2 1 2	評価は 5:非常書・教材等〕整備士(総合)受援薬項目(受援業項目(受援業項目(受援業項目(京(で優れ() , 電表(前半) , 後半) , 前半) , 前半) ,	にいる 4: 品構造, 三 授 走行性能曲 フラッチ整備が 安全装置 トルク・コンバ	優れている	3 : 智 動車, ト 国 表 授業内容	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	a 数科語 自動車 標準時限 2 2 1 2 2 2 2	評価は 5:非常書・教材等〕整備士(総合)受援業項目(受援業項目(受援業項目(受援業項目(受援業項目(京(で優れ() , 電装(前半) , 後半) , 前半) , (後半) , (も) , ((も) , ((も) , ((((((((((((((((((にいる 4: 品構造, 三 走行性能曲 フラッチ整備が 安全装置 トルク・コンバ A T	優れている	3 : 智 動車, ト 国 表 授業内容	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	#####################################	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) 受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(京(優和(),電装(前半) 6 6 6 6 6 7 6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	にいる 4: 品構造, 三 走行性能曲 フラッチ整備 安全装置 トルク・コンバ AT 動力伝達装	優れている 級二輪自 業計画	3 : 智 動車, 上 三 表 授業内容	f 通 2	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	類科語 自動車 標準時限 2 2 1 2 1 1	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) 受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(京(優和(),電装(前半) 6 6 6 6 6 7 6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	にいる 4: 品構造,三 技行性能曲 フラッチ整備 安全装置 トルク・コンバ AT 動力伝達装 アクスル・サス	優れている	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	教科語事動車標準時限2211	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) 受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(受業項目(京(で優れで) , 電装(前半) , ででででできます。	にいる 4: 品構造, 三 提行性能曲 フラッチ整備 マクションバ AT 助力伝達装 アクスル・サス	優れている	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	事事標準時限22114	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) 受援業項目(京に優れ() , 電装() , 電装() , 1 () , 1 () , 2 () , 2 () , 3 () , 4 () ,	にいる 4: 品構造, 三 走行性能曲 フラッチ整備 マク・コンバ AT 動力伝達装 アクスル・サス アイヤ・ホイー トイール・アラ	優れている	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	標準時限 2 2 1 2 1 1 1 4 2	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) ●授業項目(京(優和(),電装(),電装(),電装(),電装(),電装(),電装(), (前半)), (前半)), (前半)), (数十)), (数十) (), (), (), (), (), (), (), (にいる 4: 品構造, 三 走行性能曲 フラッチ装置 トルク・コンバ AT 動力スル・サス アイヤ・ホイー ドイール・アラ ボレーキ整備	優れている	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	教科語事事標準時限211422	 評価は 5:非常 書・教材等〕 整備士(総合) ●授業項目(京に優れ() , 電装 (前半) / 3 (前半) / 3 (((((((((((((((((((にいる 4: 品構造, 三 走行性能曲 フラッチ装置 トルク・コンバ AT 動力スル・サス アイヤ・ホイー ドイール・アラ ボレーキ整備	優れている	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	標準時限 2 2 1 2 1 1 4 2 1	 評価は 5:非 書・教材等〕 整備士(総合) ●授業項目(京に優れ(前半) が後 後 後 後 後 前 後 平) が 後 半) が 後 半 半) が が 後 半 半) が が が 後 半 半) が が が か が か が か が か が か か か か か か か か	にいる 4: 品構造, 三 走行性整置 シルク・コンバ AT はカカスル・ホイー ドイイー キカ ボレー キカ ボレー も ボレー も が も ボレー も ボレー も も ボレー も ボレー も が ま が ま が ま が ま が ま が ま が ま も が ま も が ま も を も ま を ま を ま を も を も も を も も も も も	優和では、一番をルイ法のでは、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を用きます。	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					
る) 〔使用 三級自	標準時限 2 2 1 2 1 1 4 2 1 1	 評価は 5:非 書・教材等〕 整備士(総合) ●授業項目(常に優れいのでは、「前半)が後前前後後後後前後がある。」が、「前半)が、「一手」」が、「一手」が、「一手」」が、「一手」」が、「一手」」が、「一手」」が、「一手」が、「一手」が、「一手」が、「一手」」が、	にいる 4: 品構造, 三 走行 好 整 置 トルイ	優和では、一番をルイ法のでは、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を開発しては、一番を用きます。	3 : 智 動車, h 国 表 授業内容	HMSE 3級 (項目)	: やや劣る 1 : 劣					

		学科							専門課程	作成月日	25/04/0)1
大教	科目	自動車工学	小教科目		シャシ整	孫備		対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年		後期	
			<u>-</u>	授	業計	画	表		-	-	Νo.	2
実務経験	標準時限					招	受業内容	(項目)				
	2	●授業項目	(前半) 言	計器 1、2								
	2	●授業項目	(前半) 「	フイパ 1、2	<u>)</u>							
	2	●授業項目	(後半)	[アコン								
	2	●授業項目	(後半) /	パーツ・カタ [コグ							

***		学科	~·! —		+ 0 +	_			専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備	科目	-	二輪車整備	Ħ		対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・	開講期	後期
		(二級整備士)	加密主 百		₽.XWIII .L+i	事,7□ヾ□	J ##		研究開発学科 1年	713673703	12777
教科	担当		加貝夫 邑 <i>。</i> <u>泰史・中村</u>			对 "阳/I	一馬	工			
実務組	E験教員	損授業 非該当	総時限	11時限	授業方法	講	義	評価方法	期末試験		
〔授業	概要・	目的〕									
二輪目	動車	の基本構造・機	能を理解し	、安全では	確実な点検	食•整值	前が	できる技術	と知識を習得させる		
整備	ことして	の責任感や法令	適守の意	識を育てる	ることを目的	」とする	1				
〔授業	の到達	 [目標〕									
			い習得研	 在認							
		各部品の役割と									
		ころ			Fの基礎	*習得	確認	忍			
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		.,							
「学習	評価の										
			評価及授	業の取り終	 月みを総合	して、「	5 ·	4 · 3 · 2	 ・1 Jの 5 段階で表ね	 hす。	
											 合格のもの
		数の評価は 5									
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,								·灬 D評価は試験規程に	 よる。	
			5 6 M(5)(4)	317 % [10	1 3 12000 C 1		-31	3120/3/(12)	21 m(0.12%)3//2011-1-		
「使田	教 私国										
			ホンガレ	IMSES	・ 級テセフト		論)				
	1#J#	走佣工 (心口)	、ハンノ	INSES	がメノイベト	(Fm /	、电干			N o 1
実務経験	煙淮時阳					运 举 7	h宓	(項目)			No. 1
X17/PENX		 二輪PU 1	一些行羽	±*# k	ナット、ワッシ		חבונ	(現口)			
	1						>. <i>H</i>	カニトカ	 シャフト、バルブ機構		
						トン・リ	<i>J</i> ')	<i>、</i> クリング•	ンドノド、ハルノが残円		
	1	二輪PU 3	冷却装置			F.1.35		# <i>h </i>			
	1	二輪PU 4							は、点火順序 		
	1	二輪PU 5			各作用、二 	.輪車)	刊工	ンシン・オイ	ルの特徴		
	1	二輪シャシ 1	復習動				-y				
	1	二輪シャシ 2			/ション・ステ			直			
	1	二輪シャシ3			ホイール・フ						
	1	二輪シャシ4	プレーキ装	置、フレー	-ム及びボラ	デー、ブ	レー	+の点検			

大教	科目	学科 自動車工学	小教科 目		二輪車整	を備		対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・	作成月日開講期	25/04/ 前期	
				+122	** ≡T	ieni.	=		研究開発学科 1年	州岬州		
実務経験	+m34:0+00			TX.	業計			(陌口)			No.	2
美扮栓腋			こい命名	- y+ ===		13	業内容	(坦日)				
	1	二輪シャシ 5	シャシ電気									
			灯火装置		ホーン							
	1	二輪総合	総合復習									
			理解度確	心								

			学科							専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	関	車整備に する法規	科目		自動車法規			7.3.23.11.20	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
教科	担当	(=;	級整備士) 中村	加賀美 直. 泰史・中村			専・福洋	日篤	史			
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限	4時限	授業方法	講	義	評価方法			
〔授業	概要・	目的)									
自動耳	車整備:	±とし	て必要な「゛	道路運送車	画両法」の基	基本的な法	令知詞	識を見	身につけ、			
法令	こ則った	適正	な整備・点	検業務を	行える基礎	を養う。						
〔授業	の到達	自標	Į)									
自動車	車整備	士とし	て、法律を	:理解して「	してはいけ	ないこと」「	守るべ	こきご	と」を判断で	できる 		
点検・	整備は	関す	る法定点核	食•記録簿(の保存など	を理解し、	実務	にどう	関わるかを	説明できる。		
保安基	基準に	ついて	、主要な項	目(灯火	′類、ブレー	·キ、タイヤ	など)	につい	ハて説明で	きる。		
〔学習	評価の)基準	1)									
評価な	3 U											
	教科											
図解	3級法	令(红	論社)									
												No. 1
実務経験							授業区	内容	(項目)			
	4		『習中に習っ			法の復習						
			章 道路通									
			2章 道路通		保安基準	関係						
		● 塩	上解度確認									

		中羽	1						専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	実習 自動車整備作	小教科	基礎	整備作業	実習		対象級	サービスエンジニア学科・	1 F/JX/7 LI	25/04/01
		業	目						一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科	担当	(二級整備士)									
実務組	圣験教員		総時限	10時限	授業方	講		評価方法	<u>竹村 敬一郎</u> :		
〔授業	概要・	 目的〕			<u></u> 法						
実習し	ノポート	の作成			-						
E機器	引二輪	車・	工具の名前	 jを覚えて{	 吏い方を理	 Ł解	•=!	輪自動車	 の理解		
C工具	導入_	/ジャッキ・お客	 様の財産を	 ž扱うという	意識を持	たせる	·整	備作業を	安全にのルールを理解	——— 解	
〔授業	の到達	[目標]									
・実習	レポート	が作成できる									
・トラス	ター内の	D工具チェックがで	きる								
・車両	チェック、	CSキットの脱着	が確実に行え	 える							
・車両	のジャツ	キアップ、ダウン時	に安全作業	が確実に行	える						
〔学習	評価の)基準〕									
	評価な	J									
〔使用	教科	書・教材等〕									
・レポ-	- 卜作5	戏(ipad)									
				授	業計画	画 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業内	内容	(項目)			
	1	・実習レポートの	D目的/評価	5ポイント討	胡/注意	事項					
	1	・実物の見学/	レポート作品	支、例題に	よる演習						
	1	・実習説明、エ		・ラスターエ	.具チェック						
	1	・工具(トルク	ノンチ) の係	した おいた 説明	、測定作	業ノギ	スのイ	更い方説の	归		
	1	・二輪自動車に	三触れる、ス	ーパーCUI	3の歴史						
		・部品(キャリブ	⁷)の脱着(作業・ノギス	ス測定作	業					
		•道路運送車両	5法の保安	基準につい	て説明						
	1	・日常点検につ	いて説明、	日常点検	動画						
	1	·実習場使用の)注意事項								
	1	・ガレージジャッ	‡使用方法	説明(動	画含む)	、リジッ	ドラ	ック、ジャッ	キアップ時の注意事具	頁 ————	
	1	・十字レンチ使	用によるトル	<i>、</i> クダウン/タ 	イヤ脱着	/タイヤ	デプ	スゲージ使	用方法		
	1	・タイヤ残量測	定/タイヤ取	付時の注意	急点共有,	/トルク	レン :	チ説明、使	用方法		

	実習						専門課程	作成月日	25/04/01	
教科	自動車整備作業	科目	パワ			スコタベルス	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期	
教科担当	(二級整備士)	加賀美 년	旦人・関根	健・細川」	上博・	届汨	馬史			
3X1-11=-1	<u>(一級整備十)</u>	大塚 光津	<u> </u>							
実務経験教員	損授業 非該当	総時限	88時限	授業方 法	演	習	評価方法	単元·期末試験	レポート評価	
〔授業概要・目的〕										
*二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの										

基礎知識・技術を習得する。

- *二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアHMSE3級習得に向けての基礎習得
- *四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得

〔授業の到達目標〕

- ① 整備士としての、心構え、基礎知識及び基本作業が実践できること。
- ② 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。

〔学習評価の基準〕

各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。

試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点

60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。

レホートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 迪 2:やや劣る 1:劣る (再提出の必要かあ

〔使用教科書・教材等〕

*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士(総合)』: 日本自動車整備振興会連合会

『電装品構造』: 全国自動車大学校・整備専門学校協会、『エンジン構造電装テキスト』『実習用テキスト』

			授業計画表	No. 1
実務経験	標準時限		授業内容(項目)	
	8	GX120	(前半)	
		分解・組立	・4サイクル・ガソリン・エンジン(OHV型)の基本構造の理解	
			・4サイクル・ガソリン・エンジンの行程の理解	
			・部品名称と機能の理解	
			・分解・組立の作業技術の習得	
	4	二輪4サイクル	(前半)	
		エンジンの構造	・4サイクル・ガソリン・エンジン(OHC型)の行程、部品名称、役割の理解	
		C50シリンダ	・OHC型空冷単気筒ガソリン・エンジンの分解・組立の習得	
		分解組立		
	8	R20Aシリンダ・	(前半)	
		ヘッド分解・	・4気筒の行程関連を理解	
		組立	・タイミング・チェーンの脱着技術の習得	
			・シリンダ・ヘッドの構造・機能を理解	
			・分解・作業の技術を習得	

		実習	小教科			専門課程	作成月日	25/04,	/01		
大教	科目	自動車整備作業	目	パワーユニット構造	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期	Ħ		
				授業計画表				Νo.	2		
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)						
	2	電装基礎	(前半)								
			・アナログコ	式サーキット・テスタの取り扱いを	習得する						
			・電装の基	基礎的な原理を理解する							
	4	ねじ切	(前半)								
		、ヘリサート	リサート・基礎自動車整備作業に用いる主な工具								
			・ねじ切り加工、ヘリサート加工を習得								
	4	電流と磁気	流と磁気 (前半)								
			・電装の基本的な原理を理解								
	4	始動装置	(前半)								
		(単品)	・始動装置	置の回路の構成を理解							
			・スタータ・	モータの作動を理解							
			・直結式ス	スタータ・モータの構成部品を理	解						
			・直結式ス	スタータ・モータの分解・組立技術	がを習得						
	4	始動装置	(前半)								
		(実車)	・バッテリの)点検技術を習得							
			・スタータ・	モータの作動回路、各部の名称	かを理解						
			・リダクショ	ン式スタータ・モータ(外接式) (D分解·組	立技術を習得					
	2	スキルチェック	(前半)								
			·実習授美	業のスキル確認を実施							
	4	D16Aエンジン	(後半)								
		分解•組立	·SOHC型	<u></u> 単ガソリン・エンジンのタイミング・/	ベルト脱着	作業の習得					
			·SOHC型	型、DOHC型のバルブ機構の理	解						
			・4サイクル	がソリン・エンジンの行程管理	を理解						
	16	R20A	(後半)								
		冷却装置•	・シリンダ・	ヘッドの分解・組立の復習							
		潤滑装置	・冷却装置	置の部品名称、構造、機能を理	上解						
			·冷却装置	置の循環経路を理解							
			・潤滑装置	置の部品名称、構造、機能を理	上解						
			・潤滑装置	置のオイル循環経路を理解							
			・シリンダ・	ブロックの分解・組立手順を習行	导						
	2	行程関連	(後半)								
			・行程関連	車を理解/バルブ・クリアランスの流	則定技術	習得/実機エンジンより	0点火順序	が判断			

		実習	小教科			専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	自動車整備作 業	目	パワーユニット構造	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
				授業計画表				No. 3
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)			
	4	点火装置 2	(後半)					
		(実車)	・回路図と	生実車の構造を理解する				
			・基本的な	は点火装置の構造を理解する				
	4	充電装置 1	(後半)					
		(単品)	・オルタネー	-タの部品名称、構造、機能を	理解する			
			•交流発生	生の原理を理解する				
	4	充電装置 2	(後半)					
		(実車)	・オルタネ-	-タ、バッテリ、電気負荷の関係	回路を理	解する		
			・ジャッキ・	アップ作業の習得				
			・オルタネー	-タベルトの張力測定				
	4	吸排気・燃料	(後半)					
		装置(実車)	・吸排気製	長置の名称、構造、機能を理角	弾する			
			・燃料装置	置の名称、構造、機能を理解す	る			
	2	スキルチェック	(後半)					
			・実習授業	業のスキル確認を実施				
			1					

		実習					専門課程	作成月日	25/04/01
<u> </u>	美音 自動車整備作	科目	シャミ	横造	対象級	サービスエンジニア学科・			
		業					一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科:	担当	(二級整備士) (一級整備士)		中村 智思・佐原	滕 和美・松沢 高	高志•臼居 .	史也・竹村 敬一郎		
実務経	Z験教員	授業 非該当	総時限	88時限 授業	方法 実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験		
二輪及	爻び四!	輪自動車シャシの	の各装置に	ついて、基本様	造,作動, 機	能,名称	の習得を目的とする。	0	
授業	の到達	[目標]							
* 基	本構造	きと名称の習得	* 各部品	の役割と機能の	の習得 * 作動	動(動き)	と動力伝達の習得		
* 電	気の基	一礎知識を習得	* サーキ	ットテスタの構造	造を理解し、正し	ノい取り扱(の習得		
<u> </u>	輪につ	いては、HMSE-3	3級修了に	向けての基礎習	習 ※整備士と	しての、心	構え,基礎知識,	及び基本作	業
学習	評価の)基準〕							
子試馬	食点数	の基準、レポート	評価及授	業の取り組みを	総合して、「 5	. 4 . 3 . 2	・1 」の5段階で表	りす。	
5:	特に成	績優秀なもの 4	:成績良の	もの 3:成績	普通のもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績特	まに劣り、不合	合格のもの
各試	験点数	数の評価は 5 :	: 90 ~10	0点 4:75	~ 89点 3:	60 ~ 74	4点		
		6	50点未満	あ場合は再試	は験を行う。尚、	再試験後の	の評価は試験規程に	よる。	
レホ- 3)	一下の記	半価は 5:非済	引に慢れ(いる 4:優れ	にいる 3:世	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	この必要かあ
	教科書	書・教材等〕							
三級自	自動車	整備士(総合)	,基礎自	動車整備作業	能,電装品構造	き,HMSE	3級, テキスト, 他	<u> </u>	
三級目	自動車	整備士(総合)	,基礎自		能,電装品構造 計 画 表	造,HMSE	3級,テキスト,他]	No. 1
	自動車	整備士(総合)	,基礎自			<u> </u>	∃3級, テキスト, 他	ļ	No. 1
	標準時限	整備士(総合) 日常点検+ジヤ			計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	3	No. 1
	標準時限			授業	計画表 授業内容	<u> </u>	: 3 級,テキスト,他]	No. 1
	標準時限	日常点検+ジヤ		授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限	日常点検+ジャ トルク・レンチ		授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限	日常点検+ジャ トルク・レンチ タイヤ・ゲージ	ッキアップ	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級,テキスト,他	}	No. 1
	標準時限	日常点検+ジャ トルク・レンチ タイヤ・ゲージ デプス・ゲージ	ッキアップ	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他]	No. 1
	標準時限	日常点検 + ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ	ッキアップ	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限	日常点検+ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ WII - 1 ガレージ・日常点検	ッキアップ ジ・ジャッキ 脱着	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限	日常点検+ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ 「デプス・ゲージー」がレーシャ日常点検タイヤ&ホイール	ッツキアップ ジ・ジヤツキ 脱着 マ	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4	日常点検+ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ WII - 1 ガレージ・日常点検タイヤ&ホイール・タイヤ・チェンジャ	ツキアップ ジ・ジャッキ 脱着 ヤ	授業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4	日常点検 + ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ・日常点検タイヤ&ホイール・タイヤ・チェンジ・ 乾式単板クラッチ	ツキアップ ジ・ジャッキ 脱着 ヤ	授 業	計画表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4	日常点検 + ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ・日常点検タイヤ&ホイール・タイヤ・チェンジ・ 乾式単板クラッチ	ッキアップ ジ・ジャッキ 脱着 マ ・サ F	授 業	計画表 授業内容	<u> </u>	E3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4 4 4	日常点検 + ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ・田常点検タイヤ・チェンジ・ホイール・バランを式単板クラッチ	ツキアップ ジ・ジャッキ 脱着 ヤ サ F シション脱着	復習 後記 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	計画 表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4 4 4	日常点検+ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ・日常点検タイヤをホイール・バランを式単板クラッチトランスミットアースミックスを対しています。	ツキアップ ジ・ジャツキ 脱着 マ サ チ ッション脱着 びディファレ	復習 後記 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	計画 表 授業内容	<u> </u>	:3級, テキスト, 他	}	No. 1
	標準時限 4 4 4	日常点検 + ジャトルク・レンチタイヤ・ゲージデプス・ゲージ 「「」 ガレージ・日常点検タイヤ&ホイール・タイヤ・チェンジ・ホイール・バラン 乾式単板クラッチトランスミット R 用トランスミッファイナルギヤ及で機能,名	ツキアップ ジ・ジャツキ 脱着 マ サ チ ッション脱着 びディファレ	授 業 復習 を できます (複習 を できます) できます (できます) でき	計画 表 授業内容	<u> </u>	E 3 級,テキスト,他	}	No. 1

		実習				専門課程	作成月日	25/04/01		
大教	科目	自動車整備作 業	小教科目	シャシ構造	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期		
				授業計画表				No. 2		
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)					
	4	サスペンションとア	"クスル							
		サスペンション、アクスルの構造理解								
		ストラット型(独立懸架)								
	4	ブレーキ装置 1								
		ブレーキ装置の観察								
		マスタ・シリンダ(単品)								
		ディスク式	ディスク式ブレーキ(フロント)							
	4	ブレーキ装置 2								
		ドラム・ブレ	/- + (リt	7)						
	4	ステアリング操作	機構・ギヤ	 機構(ラック・ピニオン型)						
		ステアリング	グ操作機構	<u> </u>						
			オン型ステ							
		●授業項目(復	後半) ボ	ール・ナット単品						
		使用教材 ボー	ル・ナット型	ステアリンク単体						
	4	ステアリング・ギヤ	′機構(ボ	ール・ナット型)						
		ボールナッ	ト型ステア	リング機構						
	2	〔2輪〕ベルト式	無段変速	幾(Vマチック)						
		構造,機	能,名称	,役割						
	4	〔2輪〕フロント・	フォーク							
		フロント・フ	オーク分解	² ,組立						
		名称,種	類,特徴	, 各部の役割						
	4	〔2輪〕湿式多枝	反クラッチ <	(A p e >						
		名称,種	類,特徴	, 各部の役割						
	4	電気工作	はんだ、配	線						
	4	電気基礎								
		•配電ボー	-ドでの結約	泉と測定						
	2	電圧測定1(自								
		プラス制御								
	_	マイナス制御回路								
	2	電圧測定 2 (復習)								
		不具合箇所の特定								
	4	灯火装置 1								
		灯火装置の配線図、配線色の解読、スイッチ類の導通点検,接続								

		実習						専門課程	作成月日	25/04/	01
大教	科目	自動車整備作 業	小教科目		シャシ構	造	対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・研究開発学科 1年	開講期	前期	l
				授	業 計	画 表				Νo.	3
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)				
	4	灯火装置 2									
		灯火装置	置の実体配	線図の解	军 読						
		テスタによ	る電圧降	下の点検	į						
		スイッチ類	の導通点	検							
		バルブ交	———— 換								
	2	灯火装置3(2輪ボード)							
		*回路図	とボードの回	回路比較	ξ						
	2	灯火装置4(2 輪実習)								
		*回路図	と実車の回	路比較							
		*テスタに	よる導通点	検、抵抗	亢点検						
	2	スキルチェック(シャシ)								
			総合復習								
		スキルチェック(
		授業項目(前			(シャシ)						
	2	授業項目(前	半・後半)	計算	(電装)						

-		実習			_	_			専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備業		科目		ノーユニット杢		対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
教科	担当	(二級整((一級整(人・関根 ・春原 雄		止博・福川	第史		-	
実務終	圣験教員	見授業 非		総時限	94時限	授業方 法	講義	評価方法	単元·期末試験	レポート評価	
受業	概要・	目的〕									
<u>_</u> #	及整備	士試験合材	各レベル(に到達す	る上で、必	必要となる	三級自動]車整備士	ノベルの二輪及び4軸	角自動車エン	ンジンの
基础	楚知識	・技術を習	得する。								
<u>_</u> #	倫につい	ハては、ホン	ダ2輪サ	ナービスエ	ンジニアH	IMSE3	級習得(に向けての基	基礎習得		
四軸	倫につい	ハては、ホン	ダ四輪サ	ナービスエ	ンジニア 3	級に向け	ての基礎	習得及び国	家資格3級レベルの	D習得	
授業	の到達	達目標〕									
整	経備士と	としての、心	構え、基	礎知識	及び基本の	作業が実活	践できるご	.E.			
) =	輪∙匹	輪の各装置	置の概要	・構造・	機能・整備	備を理解す	する。				
学習	評価の	の基準〕									
計	検点数	の基準、レ	ポート評	価及授	業の取り組	目みを総合	ひて、「5	• 4 • 3 • 2	・1 」の5段階で表	わす。	
試験	(姓点)	の基準を、「	5 · 4 ·	3 · 2 · :	1]の5段	'階で表わ [']	す。				
試験	上米 七/	Λ≡π/ π /+	- 00	100	F 4.7	- 00	⊨ Դ./	O a . 744	-		
H- 4.32	スタボン	グ音 一川は	5:90	~1009	금 4:/	5 ~ 89 ₅	त्त ३ : ६)U /			
6 0	点未	満の場合は	再試験を	を行う。か	———— 尚、再試験	 食後の評価	がは試験を			· / - /	17/1 17 mm 1 5/1 -
6 0 レホ	点未		再試験を	を行う。か	———— 尚、再試験	 食後の評価	がは試験を		: 한한第る 1 : 美	る(再提出	この必要かあ
6 0 レホ 。)	点未 - 下の記	満の場合は	再試験を	を行う。か	———— 尚、再試験		がは試験を			る(再提出	この必要があ
6 C レホ) 使用	点未 - トの記 教科記	満の場合は 評価は 5 書・教材等)	再試験を	を行う。i _優れて	尚、再試験 いる 4:	美後の評価 優れている	5 3:1	見程による。 音 通 2			
6 C レホ (i) 使用 《『基	点未 - 下の記 教科記 - 一敬	満の場合は 評価は 5 書・教材等〕 動車工学』	再試験を: 非常に	を行う。h _優れてい 動車がと	尚、再試験 いる 4: リン・エンシ	検後の評価 優れている	版は試験を る 3: 1 及二輪自!	見程による。 音 通 Z 動車』『基码	: やや劣る 1 : 多	:日本自動	
6 C レホ (i) 使用 《『基	点未 - 下の記 教科記 - 一敬	満の場合は 評価は 5 書・教材等〕 動車工学』	再試験を: 非常に	を行う。h _優れてい 動車がと	尚、再試験 いる 4: 川ン・エンジ D車大学校	検後の評価 優れている	Mは試験なる 3:間 る 3:間 及二輪自 門学校協	見程による。 音 通 Z 動車』『基码	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未 - 下の記 教科記 - 一敬	満の場合は 評価は 5 書・教材等〕 動車工学』『 『電装品構	再試験を: 非常に	を行う。h _優れてい 動車がと	尚、再試験 いる 4: 川ン・エンジ D車大学校	後の評価 優れている ジン』『三級	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	見程による。 音 通 Z 動車』『基码	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 (D レホ (i) 使用 《『基 連	点未注	満の場合は 評価は 5 書・教材等〕 動車工学』『 『電装品構	再試験を:非常に	を行う。h _優れてい 動車がと	尚、再試験 いる 4: 川ン・エンジ D車大学校	後の評価 優れている ジン』『三級	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注	満の場合は 評価は 5 書・教材等〕 動車工学』『 『電装品構	再試験を : 非常に	を行う。心を行う。心を行う。心を行う。心をを持ちますが、というというという。	尚、再試験 いる 4: 川ン・エンジ D車大学校	後の評価を でといる でという でとを備専 業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注	満の場合は 5 書・教材等〕 動車工学』 『電装品構 前期エンジ	再試験を : 非常に	を行う。 ic Legation (できる) in Le	尚、再試験 いる 4: 川ン・エンジ D車大学校 授	後の評価を でといる でという でという でとを備専業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は 5 書・教材等〕 動車工学』 『電装品構 前期エンジ	再試験を : 非常に [*] 三級自! 造』: 全 ・ に ・ F	を行う。 ic Legation (できる) in Le	尚、再試験 いる 4: リン・エンジ 車大学校 授	後の評価を でといる でという でという でとを備専業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 (D レホ (i) 使用 《『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に [*] 三級自! 造』: 全 ・ に ・ に	を行う。 ic Le を行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを行うを	尚、再試験 いる 4: リン・エンジ 車大学校 授	後の評価を でといる でという でという でとを備専業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』 『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に ² 三級自! 造』: 全 ・ に ・ ・ に	を行う。 を行う。 ででする。 ででする。 動車が、 ショ自動 の16A R20A (前半) 点火装置	尚、再試験 いる 4: リン・エンジ 車大学校 授 エンジンの行	後の評価を でといる でという でという でとを備専業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』 『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に [*] 三級自! : 造』: 全 ・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・ 「・	を行う。 を行う。 ででした。 動車がい かいまには、 がいまた。 前半) には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	が、再試験 いる 4: パン・エンジ 加車大学校 授 エンジンの行 エンジンの行	後の評価を でといる でという でという でとを備専業計画	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 (D レホ (i) 使用 《『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に ³ 三級自! : : : : : : : : : : : : :	を行う。心 を行う。心 を優れてい 動車が シコ 6 A ス 2 0 A (前半) 点、電 装 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	が、再試験 いる 4: パン・エンジ 加車大学校 授 エンジンの行 エンジンの行 置の復習 置の復習	後の評価を表する。	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	: やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	:日本自動	助車整備振!
6 0 レホ) 使用 『基 連	点未注一下の記 教科記 礎自動 合会、	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に [*] 三級自! : 造』: 全 ・ に ・ に ・ ・ が ・ い	を行う。心 を優れてい 動車自動 前16A 320A 前火電料気 場気を燃料気	が、再試験 いる 4: パン・エンジ 加車大 授 エンジンの行 エンジンの行 置の復習 置の復習 置の復習	後の評価を表する。	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	:やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	: 日本自動	助車整備振!
6 (0 レホ (i) 使用 *『基 連	点未注一下の記 教科記 一体自動 合会、 2 2	満の場合は評価は 5 書・教材等)動車工学』『電装品構前期エンジ復習	再試験を : 非常に ご三級自! : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	を行う。心 を優れてい 動車自動 前16A 320A 前火電料気 場気を燃料気	が、再試験 いる 4: リン・エンジ 関連大 授 エンジンの行 エンジンの行 エンジンの行 電の復習 電の復習 電の復習 電の復習	後の評価を表する。	Tid試験表 3:1 3:1 3:1 3:1 5:1 5:1 5:1 5:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 7:1 8:1 7:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8:1 8	現程による。 音 通 2 動車』『基码 3会、『パワー	:やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	: 日本自動	助車整備振!
6 (0 レホ (i) 使用 *『基 連	点未注一下の記 教科記 一体自動 合会、 2 2	満の場合は評価は 5 書・教材等〕動車工学品構前期エンジ復割 前期電装 復習	再試験を : 非常に ご三級自! : こ。 : こ。 : こ。 : こ。 : こ。 : こ。 : こ。 : こ。	を行うにできる。 を優れてでいる。 を優れてでいる。 かりは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	が、再試験 いる 4: リン・エンジ 関連大 授 エンジンの行 エンジンの行 エンジンの行 電の復習 電の復習 電の復習 電の復習	後の評価でいる。	mは試験表 る 3:電 吸二輪自調 門学校協 面 表 授業内容	現程による。 音 連 2 動車』『基研 3会、『パワー 字(項目)	:やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	: 日本自動	助車整備振
6 (D レホ (i) 使用 《『基 連	点未注一下の記 教科記 一体自動 合会、 2 2	満の場合は 評価は 5 書・教材等) 動車工学』 『電装品構 前期エンジ 復習 前期電装 復習	再試験(a) (a) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c	をでしている。 前、 に 然 及 ら 前 に を で と の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	が、再試験 いる 4: リン・エンジ 加車 授 エンジンの行 置の復習 置の復習 置の復習 置の復習 置の復習 こンジンの行	後の評価でいる。このでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切	は試験表 る 3 : 音 及二輪自語 及二輪自語 授業内容	現程による。 音	:やや劣る 1 : 多 世自動車整備作業』	: 日本自動	助車整備振

人 教	(科目	実習 自動車整備作	小教科	エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01
八叔	(1711	業	目	エンノン 走 畑	\130\\X	一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
	1			授業計画表				No. 2
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)			
	4	ジーゼル・	(前半)					
		エンジン	・汎用ジー	-ゼル・エンジンの分解・組立				
		分解·組立						
	4	始動装置	(前半)					
		(単品)	・始動装置					
			・始動装置	置の整備				
	4	始動装置 (中本)	(前半)	. ►1V				
		(実車)	・バッテリの					
	4	 充電装置	·始動装置 (前半)	旦の点快				
	7	(単品)						
	8	CB400SF	(前半)					
		分解・組立		 倫車整備の事例				
				 	- 扣 生器)			
	4	 充電装置	(前半)	EIM(DONCエクノノ本体、/Ti	₩衣匣/			
	7	(実車)						
	4	電子制御	(前半)	の心电衣色の病足、無快				
		装置(単品)		 単体の電子制御装置				
			・排出ガス					
	4	電子制御	(前半)					
		装置(実車)	・実車上の	D電子制御装置				
	2	実習電装	(前半)					
		スキルチェック	•後期-前	半の実習授業内容の復習				
	2	エンジン実習	(前半)					
		スキルチェック	•後期-前	半の実習授業内容の復習				
	2	前ローテ	(後半)					
		電装復習	•後期-前	半の実習授業内容の復習				
	2	前ローテ	(後半)					
		エンジン復習	•後期-前	半の実習授業内容の復習				
	8	R20A	(後半)					
		エンジン整備	・エンジン	本体の整備項目、測定具、測況	 定方法及	び良否判定の習得		
	4	GX120測定	(後半)					
			・エンジン	 本体の整備項目、測定具、測況	 定方法及	 び良否判定の習得		

大教	科目	実習自動車整備作	小教科目	エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・		25/04/01 後期				
		業				研究開発学科 1年	用神州	仮期				
				授業計画表				No. 3				
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)							
	4	E0 7Z	(後半)									
		分解·組立	・エンジン	単体の電子制御装置類の復習								
			・スロットル・ポジション・センサの点検									
			-接点式スロットル・ポジション・センサの抵抗測定									
			・3気筒の行程関連									
	2	点火装置	(後半)									
		(単品)	・点火装置	置の回路全体を理解する								
	2	点火装置	(後半)									
		(実車)	・実車点グ	火装置の整備の習得								
	4	二輪始動装置	(後半)									
			・二輪車の	D始動装置の構造、機能を理解	弾する							
			・二輪車の	D始動装置の整備を習得								
	4	二輪点火装置	(後半)									
			・二輪車の	D点火装置の構造、機能を理角	弾する							
			・二輪車の	D点火装置の整備を習得								
	4	二輪充電装置	(後半)									
			・二輪車の	の充電装置の構造、機能を理解	弾する							
			・二輪車の	の充電装置の整備を習得								
			・パーツ・リ	ストの見方								
	4	エンジン	(後半)									
		総合整備	・特定整備		ごン整備の)習得						
	2	実習スキル	(後半)									
		チェック	•後期-後	半の実習授業の復習								
	4	エンジン測定・	(後半)									
		整備	・測定作	¥								
			・エンジン	問整								
			・エンジン組立作業									
			・ねじ加工									
			・ブロークン・ボルト及びねじ切作業									

		ch 77						専門課程	作成月日	2E/04/01
教	科	実習 自動車整備作 科目 シャシ整備 業 ***		対象級	サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01			
37			'				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
教科	担当	(二級整備士) (一級整備士)		・中村 智思	息・佐滕 和詞	美・松沢 高	高志•臼居 .	史也·桁科·敬一郎		
実務網	怪験教員		総時限	94時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 単元·期末試験		
〔授業	概要・	目的〕								
二輪及	及び四軒	論自動車シャシの各	S装置につい	て、基本構	ちょう ちょうちょう ちょうしょう はいい はいまし はいまし はいま はいま はいま はいま はいま はいま はい	,機能,名	名称の復習 の	と各装置の整備法の習	得を目的と	する。
〔授業	の到達	達目標〕								
各类	き置の点	点検,調整,測	定の要領を	を習得、定	期点検(12カ月点	検)導入	,及び記録簿の記え	入要領の習	————— 得
シャシ	電装品	品各装置の機能・	·構造·作動	動・整備項	目の理解、	電装品の)簡単な点	検と良否判定の習得	导	
НМ	S E 3 紀	級資格取得に向け	ての習熟	※整備士と	しての、心桿	構え, 基礎	知識の習熟	と、応用作業が実践と	出来る基礎の)習得
〔学習	評価の	D基準〕								
各試	験点数	の基準、レポート	評価及授	業の取り	組みを総合	して、「5・	4 · 3 · 2	・1 」の5段階で表	わす。	
5:	特に成	績優秀なもの 4	:成績良の)もの 3:	成績普通0	りもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績特	持に劣り、不合	合格のもの
各詞	大験点	数の評価は 5	: 90 ~10	00点 4	: 75 ~ 8	9点 3:	60 ~ 74	4点		
								の評価は試験規程に		1 40 4 mm ± 1 -
レホ る)	− ト の	評価は 5:非常	吊に優れし	いる 4:	慢れている	3 3 : 晋		: やや劣る 1:劣	る(再提出	この必要かめ
〔使用	教科	書·教材等〕								
三級	自動車	整備士(総合)	,電装品	·講造, :	三級二輪自	動車,H	IMSE3級	と、テキスト、他		
	1			授	業計画	表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
	4	●授業項目(前	前半) 導	入実習						
		日常点検、オイ	ル交換他							
	4	●授業項目(前	前半) A	T 1						
		オートマティック・	トランスミッ	ション構造						
	4	●授業項目(前	前半) A	T 2						
		油圧制御	の理解							
	4	●授業項目(前	半) タイヤ	7復習						
ļ		タイヤ・ホイール整	整備Ⅱ							
		タイヤの取	ぬり外し、取	り付け手	順(前期後	复習)				
		タイヤの諸	番元の読み	取り・サイス	ズの算出					
<u> </u>		タイヤ・ホー	イールの脱り	着/ホイー	ル・バランス					
		車載工具	とタイヤ・オ	「イールの点	点検·測定					
	8	●授業項目(前	前半) ブ	レーキ						
		ブレーキ整備Ⅰ、	, II							
		フロント・ラ	ディスク・ブレ	/ーキ(単	品)	リヤ・ブレ-	- キ単品で	の構造,機能復習		
		フロント・ラ	ディスク・ブレ	 /ーキ(実	 !車)					

		実習					専門課程	作成月日	25/04/01
大教	科目	自動車整備作 業	小教科目	シャシ整	経備	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
			•	授 業 計	画 表		1917 117176 1 171 1 -		No. 2
実務経験	標準時限				授業内容	(項目)		•	
	4	●授業項目(復	後半) 制	動倍力装置					
		制動倍力装置构	構造とPバル	Jブ構造					
	4	●授業項目(征	後半) 制	動倍力装置の点	検				
		制動倍力	装置の機	能点検					
	8	●授業項目(征	後半)ホ	イール・アライメント	`				
		●授業項目(前	前半) ク	ラッチ単品 2					
		使用教材 エン	ジン、トラン	スミッション単体					
	4	クラッチの作動点	検と整備						
		クラッチ脱	着(前期	复習)					
	4	●授業項目(前	前半)(二輪)リヤ・サスク	ペンション				
		リア・フォー	-ク種類と特	持 徴					
	4	●授業項目(征	後半) (二輪)ディスク・フ	ブレーキ				
		構造,機	能,整備	法 ————————————————————————————————————					
	4	●授業項目(征	後半) 1	2ヶ月点検(二	輪)				
		12ヶ月点検	(2輪)						
	4	●授業項目(征	後半) 1	2ヶ月点検(4)	輪)				
		1 2ヶ月定期点	検+日常	'点検 					
	4		半) 電装	復習実習(PW	/)				
		復習							
		電圧、電流							
		回路の組							
			インド実習						
	4	●授業項目(後							
			、トランジス						
	_		・ コンデン!		II°\				
	4			安装置1(ワイル	(()				
	4	保安装置1(5			go \				
	4	●授業項目(前		安装置2 (計					
	4	●授業項目(前		火装置1 (単					
	4	●授業項目(前 ●授業項目(初		· 火装置 2 (四· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
		● 授業項目(A ● 授業項目(A							
	2	●授業項目(1 ●授業項目(1		「火装置4 (復 ―――― ワーウインド	= /				
	4	●授業項目(1		ソーシャント アコン					
	4	▼汉未以曰(作	タ十) 丄	<i>ア</i> コノ					

								専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備作業	科目		二輪車整備	i	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	後期
≠ /54.1	+ □+	春原 雄一(一級	自動車整備	士)・中村	泰史·関根	健·臼居。	と也・中村 :			
教科		加賀美 直人・細川	正博·福泊	白 篤史·谷	口 啓·大塚	光善(一)	級自動車整	備士)		
実務終	圣験教員	損授業 非該当	総時限	9時限	授業方法	実習·実技	評価方法	期末試験		
〔授業	概要・目	目的〕								
* =	輪車エ	ンジン、フレーム、電	電装の各装	置について、	基本構造	と整備の理	解度試験			
〔授業	の到達	目標〕								
* 基	本構造	きと名称の習得確	認							
* 2	S部品0)役割と機能の習行	导確認							
* ホ	ンダ2輌	侖サービスエンジニ ア	7HMSE	の基礎習得	確認					
〔学習	評価の	基準〕								
各試驗	点数0)基準、レポート評	価及授業σ	取り組みを	総合して、	Г5 · 4 · 3	· 2 · 1 Jの	5段階で表わす。		
5:	特に成	績優秀なもの 4	:成績良の	もの 3:	成績普通の	かもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績特	に劣り、不	合格のもの
各試	験点数	の評価は 5:9	0 ~100点	4:75	~ 89点	3:60~	74点			
		6 0	点未満の場	易合は再試	験を行う。)	尚、再試験	後の評価は	試験規程による。		
〔使用	教科書	•教材等〕								
3級二	輪自重	协車、ホンダHMS	SE3級テキ	Fスト (二軸	龠)、電卓					
										No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
	8	二輪授業全般の	総復習							
	1	二輪授業全般復	習 、ホンダ	`2輪サービ	スエンジニア	7HMSE)復習			

									専門課程	作成月日	25/04/01
教	(科	一般	科目		安全運転学			対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	通期
教科	担当	(二級整備士) 中村							竹村 敬一郎		
実務約	圣験教員		総時限		授業方法			評価方法			
〔授業	概要・	目的〕				•					
・自動	車業界	早の一員であるこ	とを自覚し	、規律のス	大切さと他。	人との抗	協調	を養う。			
・安全	運転の)思想『人間尊重	1を学ぶ。								
〔授業	の到達	目標〕									
① 芳	全運	気を中心に実施す	するが、整体	備時の安全	全に対する	取り組	みま	で広げて理	里解させる		
こさ	ทรเร	り、交通社会に	おいて安全	運転の実	践のみなら	す"、					
職	場(昇	具体的には整備化	作業) での	安全作業	能力を養	ō.					
〔学習	評価の)基準〕									
評価な	なし										
〔使用	教科書	·教材等〕									
HON	DA危险	検予測トレーニン	グ(KYT)								
セーフ	ティ・ラ	イディング、セーフ	ティー・ドラ	イビング							
実地記	訓練、相	甬川レインボーモ·	ータースク-	-ル							
				授	業計画	11 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業内	P容	(項目)		•	
	8	①四輪安全運輸	运講習								
		桶川レインボーモ	ータースク	ールにて実	施						
		交通教育センタ	ーもてぎ								
	4	KYT (危険	予知トレー	ニング) I				·危険予知	印のトレーニング		
		■三つの?	フラグ					・グループ(こよる討議/発表		
			・前心配と	_後心配							
	2	安全運転学						①Honda	が交通安全に取り組む	理由	
								②これまで	の歴史		
								②1)=毕士	んに求められていること		
								© C M E C	7012-3109-3411-01-10-22		
								④車両を扱			
								④車両を扱			

										専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	一般 科目 (二級整備士) 加賀美 直人·関根 俊中村 泰史·中村 智惠·佐藤			接客実務			7.32002	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	<u>通期</u>	
教科	担当	(<u> </u>								竹村 敬一郎		
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限		授業方法			評価方法			
〔授業	概要・	要・目的〕 に対し働くことの意味を理解させ、										
* —£	手生に	対し働	くことの意味	未を理解さ	せ、サクセス	スプランに糸	吉び付	ける。	,			
*特(:販社(に対し	、興味をも	たせるように	こする。							
〔授業	の到達	目標)									
① 就	職活動	動時に	必要となる	るスキルを身	に付けさも	 ±る。						
② 広	〈接遇	の基準	本マナーを身	身に着け、旨	最小限のマ	- ?ナーを身(こつける	させる) _o			
3 H	IONI	DΑσ	企業活動	の理解を通	 延、接遇(の基本を理	里解する	る。				
4]	ミュニケ	ーショ	ン能力の向	可上を図る。	,							
〔学習	評価の)基準)									
評価な	¥U											
〔使用	教科書	፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟	材等〕									
専科研	开修新	人サ-	-ビススタッフ	7の基礎と持	 妾遇							
専科研	开修新	人サー	-ビススタップ	7の基礎と <u>持</u>		業計画	画 表					No. 1
専科研		人サ-	-ビススタッフ	7の基礎と <u>f</u>		業計画		内容	(項目)			No. 1
		(1)		の基礎と打	授	業計画		内容		可を基本として活動し	,T	No. 1
	標準時限		HONDA		授		授業区		・企業が何	可を基本として活動し ONDA、HONDA関		No. 1
	標準時限		HONDAG HONDAG	の企業活動	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何 いるか、H			No. 1
	標準時限		HONDAG HONDAG	の企業活動の基本理念・運営方針	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何 いるか、H を例に理解	ONDA、HONDA関		No. 1
	標準時限	1	HONDAG HONDAG 及び社是	の企業活動の基本理念 ・運営方針 ・進とは	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何いるか、Hを例に理解・販売店の	ONDA、HONDA関 解を深める]連企業	No. 1
	標準時限	1	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利	の企業活動の基本理念 ・運営方針 益とは この利益	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何いるか、Hを例に理解・販売店の	ONDA、HONDA関 解を深める D利益とは何か]連企業	No. 1
	標準時限	1	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様	の企業活動の基本理念 ・運営方針 益とは この利益	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何いるか、Hを例に理解・販売店の	ONDA、HONDA関 解を深める D利益とは何か 利益確保のために接]連企業	No. 1
	標準時限	1	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様	の企業活動の基本理念 ・運営方針 益とは の利益 求と確保	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何いるか、H を例に理解 ・販売店の いかに大ち	ONDA、HONDA関 解を深める D利益とは何か 利益確保のために接	到連企業 受遇が	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基	の企業活動の基本理念 ・運営方針 益とは の利益 求と確保	技動	平等・信頼	授業区		・企業が何いるか、Hを例に理解・販売店の販売店のいかに大切・自己分析	ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接	到連企業 登遇が	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己認識	の企業活動の基本理念・運営方針 益とは の利益 求と確保	対念(自立・計・企業活動	平等·信束動	授業区		・企業が何いるか、日を例に理解・販売店のいかに大切・自己分析就きたい作品	ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接 のかを知る	記連企業 登遇が 分が 認識	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己認識 自分の強	の企業活動の基本理念 ・運営方針 益とは の利益 求と確保 本1 の重要性	授 効 念 (自立・ 十・企業活動	平等·信束動	授業区		・企業が何いるか、H を例に理解 ・販売店の いかに大切 ・自己分析 就きたいた する。Gr.(ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接切かを知る frを行い、本当に自然	登遇が分が認識の	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己認識 自分の強	の企業活動の基本理念・運営方針 益とは の利益 求と確保 本1 の 乗性 格、	授 効 念 (自立・ 十・企業活動 タイプを知	平等・信頼動	授業区		・企業が何いるか、H を例に理解 ・販売店の いかに大切 ・自己分析 就きたいた する。Gr.(ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接切かを知る ffを行い、本当に自然 上事は何かを理解・試	登遇が分が認識の	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己認識 自分の強	の企業活動の基本理念・運営方針 益とはの利益の利益を確保本1の更性性を、み、性格のと他己紹介を	授 効 念 (自立・ 十・企業活動 タイプを知	平等・信頼動	授業区		・企業が何いるか、H を例に理解 ・販売店の いかに大切 ・自己分析 就きたいた する。Gr.(ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接切かを知る ffを行い、本当に自然 上事は何かを理解・試	登遇が分が認識の	No. 1
	標準時限	②	HONDAG HONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己認識 自己紹介 接遇の基	の企業活動の基本理念・運営方針をはい利益を保本する。 水と確保 本 1 を 世格、 と 他 こ お で で 本 の 1 つ で で	授 か 京(自立・ ト・企業活! タイプを知 ト ある傾聴の	平等・信頼動	授業区		・企業が何いるか、H を例に理解 ・販売店のいかに大切 ・自己分析 就きたいでする。Gr.(クラスメー	ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接切かを知る frを行い、本当に自然 上事は何かを理解・認 こなり自分の事を他の	記されています。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	No. 1
	標準時限	 ① ② 	HONDAG PONDAG 及び社是 企業の利 販売店様 利益の追 接遇の基 自己紹介 接遇の基 自己紹介 接遇の基	の企業活動の基本理念・運営方針 益とはの利益の利益を確保本1の更性性を、み、性格のと他己紹介を	授 か え(自立・ ナ・企業活! タイプを知 ト ある傾聴の 価値観	平等・信束 動 る Oスキル	授業区		・企業が何いるか、Hを例に理解・販売店のいかに大大・自己分析する。Gr.(イクラスメークラスメークを	ONDA、HONDA関係を深める D利益とは何か 利益確保のために接切かを知る ffを行い、本当に自然 上事は何かを理解・試	到連企業 登遇が 一般である。	No. 1

+//-		40	77.0	-	24 4 21 4 2			1167.67	専門課程	作成月日	25/04/01
教	阧	一般	科目	美	践自動車整			対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・研究開発学科 1年	開講期	<u>通期</u>
教科	担当	(二級整備士)							竹村 敬一郎		
実務紹	経験教員		総時限		授業方法			評価方法			
〔授業	概要・	目的〕		コンプー / フンフナIII 422 ナフ							
自動車	整備	士の役割、社会	D役割、社会的使命とコンプライアンスを理解する								
タイヤミ	空気充	工の反前、社会的使品とコン									
〔授業	の到達	さてん作業特別教育の受講 達目標〕									
●コン:	プライブ	⁷ ンス									
·各八	ラスメン	小を理解してる									
•交通	事故、	交通違反がない	١								
・3級	整備:	程度の道路運	送車両法を	を理解して	いる						
● [タ	か空気	気充てん作業」									
•「タイ [·]	ヤ空気	充てん作業」の特	寺別教育力	終了して	いる						
〔学習	評価の)基準〕									
評価な	il.										
〔使用	教科書	書・教材等〕									
ホンダ	学園キ	ヤンパスガイド、図	図解3級法	き令、タイヤ	7充填テキ	スト					
				授	業計画	画 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業四	内容	(項目)			
	1	2●自動車整備	士の使命	2_自動	車整備士	としての	DıÇv	構え			
		学園生活をしてい	いくうえで必	姿なルー	ルと、基本	的な社	会	人基礎力に	こ必要な内容を理解	する	
		服装、身	だしなみ、言	言葉使い							
		時間意識	(時間管	理、ウォー	ニングシス	テム)					
		コンプライブ	アンス理解	(法令遵	守、学則過	遵守)					
		3 Sの徹	底								
	1	20●個人情報	保護法	固人情報。	とは、取扱	いルー	ル				
		学則説明	_肖像権·	著作権・「	商標権・個	人情報	报				
		SNS =	モラルとマナ								
		SNS =	モラルとマナ	-							
		10●道路交通	法1_安	全運転・ヒ	ヤリハット						
	安全運転学(KYT)の中で、再度指導										

大教科目		一般				専門課程	作成月日	25/04/01			
			小教科目	実践自動車整備	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年		<u>通期</u>			
				授 業 計 画 表	•		•	No. 2			
実務経験	標準時限	授業内容(項目)									
	1	15●刑法1_薬物、盗難、闇バイト、時事ニュース、留学生犯罪									
		賞罰規程 別表 2 学則違反の内容と罰の運用例									
		(1) 道路交通に関して極めて好ましくない行為があったとき									
		(2) 麻薬、覚醒剤、賭博などを行い、またはこれら該当物を携帯した									
		(3) 学校教具・機器材または、他人の所有物を横領・窃盗したとき									
		(6) 社会秩序に関し、極めて好ましくない行為があったとき									
	1 11●道路交通法2交通違反(違反、速度超過)免停、取消、欠格期間										
	賞罰規程 別表3 交通違反と事故の内容と罰の運用例										
		運転免許の重要性									
		※本校は、交通機関にたずさわる関係上、特に厳しく処罰する。									
		死亡事故		酒酔い運							
		重症事故	Ţ	速度超過	速度超過						
		軽傷事故	Į.	無免許適	無免許運転						
		被害者			違反点数						
		加害者		その他の	その他の違反						
		人身事故									
		物損事故									
	1 13●道路交通法4交通事故を起こすと										
		賞罰規程口別表3 交通違反と事故の内容と罰の運用例									
				の損傷主部位(構成率)							
			テクター着月	月のお願い							
		過失割合									
		日牧里は	里牧石誦色	3」制度について							
1 14●自動車保険 自賠責保険と任意保険とその賠償内容											
	т	14●自動車保険_自賠責保険と任意保険とその賠償内容 自転車損害保険等への加入義務について									
		本校の学生による事故事例									
		過失割合									

大教科目		40				専門課程	作成月日	25/04/01				
		一般	小教科目	実践自動車整備	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年		<u>通期</u>				
		授業計画表										
実務経験	標準時限	授業内容(項目)										
	1	9●道路運送車両法 5保安基準・不正改造										
		通学車両及び寮生車両許可										
		道路運送車両法の保安基準、近接排気騒音の規制値 近接排気騒音の規制値										
	装備品について											
18●ハラスメント1_ハラスメントとは、防止に向けて												
											会話の中に、セクハラの内容が入っている	
人が不快と思うことは、行わない												
1 1●自動車整備士の使命1自動車整備士としての社会的使命												
												夢の実現 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――
		資格の重要性について 「自動車整備士」の資格が必要とされる職業に関して										
を備士の資格が必要な理由												
	1	16●刑法2	薬物、盗難	・ É、闇バイト、時事ニュース、留	学生犯罪							
薬剤師による、薬物に関する講話												
	1	19●ハラスメント2_パワハラ、セクハラ等										
		後期スタート										
		ハラスメントについて再徹底										
		17●刑法3_薬物、盗難、闇バイト、時事ニュース、留学生犯罪										
		刑法につい 	いて再徹底									
	1	1●労働安全征	新牛規則 第	3 6条「特別教育を必要とる	お業務!	「タイヤの空気・充てん	 ,業務 l					
			による「特別			ナる事故防止VTR						
	1	1 ● 労働安全衛生規則第 3 6 条 「特別教育を必要とする業務」 「タイヤの空気充てん業務」										
		外部講師	による「特別	 別教育}								
		\ \ Pichtani										

		₩.	斗 101					専門課程	作成月日	25/04/01		
教	科		車工学	科目	自動車総論Ⅱ			対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・	開講期	25/04/01 前期	
										研究開発学科 2年		
教科	担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道(一級自動車整備士)										
		前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑										
実務経験教員授業 非該当 総時限 17 授業方法 講 義 評価方法 学科試験												
〔授業	〔授業概要·目的〕 											
・二級自動車整備士(総合)試験の2級、3級に出題される総論・工学の計算問題を解けるようになる。												
〔授業の到達目標〕												
・出題	される	計算問	問題(総論	論・工学)	を理解し、	問題を解く	知識	を身の	こつける。			
・計算問題を解くための単位・公式を覚え、計算問題方法を理解する。												
〔学習	評価の)基準))									
・試験	点数0)評価(は 5:9	0 ~100 <u>,</u>	点 4:7	5 ~ 89点	₹ 3	: 60) ~ 74点	į		
・学科	試験0)点数	が60点未	満の場合は	は再試験を	行う。尚、	再試	験後	の評価は	試験規程による。		
〔使用	教科書	 書・教札	 才等〕									
・計算		ノウハウ		 ¦版社)、/	パワーポイン	 ント資料、	プリント	資料	斗、i-Pad			
					授	業計画	1 表					No.1
実務経験 標準時限 授業内容(項目)												
	2	2 ■自動車総論 I SI単位と用語、荷重の計算 I										
	2	■自動	動車総論]	I	荷重の計算 II、圧力の計算							
	2	■自動	動車総論I	I	ギヤ比の計算							
	2	■自動	動車総論I	V	性能曲線の計算 I 、性能曲線の計算 II							
	2	■自動	動車総論、	V	走行性能の計算							
	2	■自動	動車総論\	/I	トルクの計算、排気量関係の計算							
	2	■自動	動車総論V	/II	電気の計算、基礎工学の復習							
	2	■自動	動車総論	総復習	実務経験1から実務経験7までの問題を総合復習							
	1	■自動	動車総論記	式験	実務経験1から実務経験7までの理解度を確認する							

教科	学科	斗 1C)1							専門課程		作成月日	25/04/01		
教	科	自動	車工	学	科目	応用	パワーユニ:	ット1		対象級	サービスエンジー級自動車勢研究開発学	整備学科・	開講期	前期	
#411	HT NZ	駒崎原	勝紀	・木野	内英和	•渡部孝	诏•塩川棚	虱・浅丸	井直	道(一組	及自動車整		-		
教科:	担当	君塚	真之	.佑											
実務組	E験教員	授業	非談	亥当	総時限	26	授業方法	講	義	評価方法	ļ	期末試験			
〔授業	概要・	目的〕										·			
ガソリン	ン・エン	ジンの行	各装	置(二	二級自動車	車整備士	(総合) 0	のエンジ	ン令	類域)の構	造・機能及	び電気装	置の仕組	みを理解する。	
〔授業	の到達	目標))												
・エンシ	エンジン (総論、本体、バルブ機構) の構造、役割を理解する。 各装置 (潤滑、冷却、燃料、点火、吸排気) の構造、役割を理解する。														
・各装	各装置(潤滑、冷却、燃料、点火、吸排気)の構造、役割を理解する。 電気装置、電子制御の役割、機能を理解する。														
・電気	電気装置、電子制御の役割、機能を理解する。 														
	477=T/IT () \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \														
〔学習	学習評価の基準〕														
・試験	点数0)評価(ま 5	5 : 90) ~100g	点 4:7	5 ~ 89点	≅ 3	: 60	~ 74点	į.				
・学科	試験0)点数t	が60,	点未清	端の場合(は再試験を	行う。尚、	再試馬	倹後	の評価は	試験規程に	よる。			
・学科	試験0)点数b	が60,	点~6	59点の場合	合は特別す	再試験を行	ゔ。							
〔使用	教科書	書・教材	(等)												
二級自	自動車	整備士	- (糸	総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、	、パ <u>「</u>	フーポイント	·資料、i-Pa	ad			
						授	業計画	表						No.1	
実務経験	標準時限							授業内	容	(項目)					
		応用F			.,	エンジン総	(注)	ン本体	た、 ハ	バルブ機構	の構造・役割	割			
		応用F					i、冷却装i								
		応用F					i、点火装i			装置の構	造·役割				
		応用F					バッテリの様								
		応用F					の構造・役								
	4	応用F	² 1	(学科	1) 6	始動装置	。充電装記	置の構	造•	役割					
	2	応用F	² 1	(学科	1) 7	実務経験	1から実剤	络経験	6 ‡	での問題	を総合復習]			

***		学科	斗 101	~4 F3			-		専門課程	- 	作成月日	25/04/01		
教	科 	自動	車工学	科目	心用	パワーユニッ	ット2 	対象級	サービスエンジュ 一級自動車整 研究開発学科	隆備学科・	開講期	前期		
教科	下 田	駒崎朋	券紀・木野	 野内英和	•渡部孝	诏•塩川棚	虱・浅井直	道(一組	及自動車整	備士)	•			
ŦX1~1.	12=1	君塚真	真之佑											
実務網	E験教員	授業	非該当	総時限	20	授業方法	講義	評価方法	期	用末試験				
〔授業	概要・	目的〕												
ガソリン	ノ、ジー	-ゼル・コ	Eンジン及	びハイブリッ	ド自動車の	の各装置	(二級自動	動車整備士	上(総合))	の機能	・構造及び	ゾ仕組みを理解 [・]		
〔授業	の到達	目標〕												
・ガソリ	ン・エン	ンジンの	機能、構	造、排気が	ブス対策等	の仕組みを	を理解する	10						
・ジーt	ヹル・エ	ンジンの	の機能、構		ガス対策等	等の仕組み	を理解する	3.						
・ハイフ	ブリッド <u>፤</u>	車及び	電気自動	車の機能、	構造を理	解する。								
	が翌証価の其准〕													
〔学習	習評価の基準)													
・試験	· 最近													
・学科	試験0)点数t	が60点未	 満の場合(よ再試験を	で行う。尚、	再試験後	の評価は記	試験規程によ	はる。				
・学科	試験0)点数t	 が60点~	 69点の場 ^を	合は特別は	再試験を行	ゔゔ。							
〔使用	教科書	書・教材	 持〕											
二級自	動車	整備士		【日本自	動車整備	振興会連往	合会】、パ	ワーポイント	~資料、i-Pad	d				
					授	業計画	惠表					No.1		
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)						
	4	応用F	2 (学科	斗) 1	予熱装置	量、吸排気数	装置、燃料	料装置の機	能•構造					
	4	応用F	2 (学科	斗) 2	燃料、潤	滑油の機能	能·役割							
	4	応用F	2 (学科	斗) 3	ガソリンエ	ンジン排気	ガス対策、	ジーゼルエ	ンジン排気が	ガス対策の	の機能・構	造·役割		
	4	応用F	2 (学科	斗) 4	ガソリンエ	ンジン故障	原因探求	、ジーゼル	エンジン故障	原因探	求			
	2	応用F	2 (学科	斗) 5	ハイブリット	ド自動車及	び電気自	動車の機能	能•構造					
	2	応用F	2 (学科	斗) 6	実務経験		9経験4a	たの問題	を総合復習					

.=.=		学科	101					専門課程	~	作成月日	25/04/01				
教	科	自動車	工学	科目	応用シャシ		対象級		ジニア学科・ 重整備学科・ <u>²科 2年</u>	開講期	前期				
教科	田井	河智是	明·大石	尚輝·氵	浅井直道(一級自!	動車整備	(士)	-		-					
32/1-1		前田優	佑·成松	公樹生・小	川 幸雄				T						
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限	26 授業方法	講義	評価方法	学科試験	期末試験						
〔授業	概要・	目的〕													
車両0	D保安:	基準適合	性や車	両の動力	伝達等(二級自動車	車整備士	(総合)	のシャシ領	域)の構造	告、機能、M	作動を理解す				
		目標〕													
								5・機能のエ							
					置、ホイール及びタイヤ										
電気装置、計器・警報装置、外部診断機、空気調和装置、電気装置の配線、付属装置の概要、構造・機能の理解保安基準適合性の確保、点検の目的・要領・記録簿の記入方法の理解															
・保安	保安基準適合性の確保、点検の目的・要領・記録簿の記入方法の理解														
)基準〕 ———													
					点 4:75~89点										
					は再試験を行う。尚、		の評価は	試験規程(こよる。						
・学科	·試験 <i>0</i>)点数が6	50点~6	59点の場	合は特別再試験を行	う。									
(=	ナルエハ=	₽ * ₽	/د)												
		いまます いまり また 			新末数 萨振卿会饰。		コポハ	L次业 : r)_ d						
	3 數 毕	登佣工	(総合)	【日本日	動車整備振興会連合	三会人人!	ノーハイン	N負科、I-I	² ad						
										I	No 1				
主教公平会	標準時限					型 衣 ———— 授業内容	(頂田)				No.1				
大 4万章主司欠		 応用 C	(学科)	1	総論、保安基準適合			(12か日:	5拾)						
		応用 C			動力伝達装置I(元1天 <i>)</i>						
		応用 C			動力伝達装置Ⅱ				雷気生	置 (多重)	系 <i>(</i> 量)				
		応用 C			アクスル及びサスペン					点(グ生)	<u> </u>				
		応用 C			ホイール及びタイヤ	/ 1/ 、电		(文工公臣	.,						
		応用 C			ステアリング装置、ス:	 キャン・ツー			器)						
		応用 C			実務経験1から実務										
		"∪∕⊞ С	(3-11)	,	ペッカリエ州大 エ ガン大分	ッ小工門大 U み		(4)(1)(1)(1)(1)	=						

		学科	102						専門課程	作成月日	25/04/01			
教	科	自動	車整備	科目	総合	うパワーユニ	ニット	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	後期			
教科	担当	駒崎勝	辞紀・木野	内英和·源	度部孝昭・	塩川楓・淳	良井直道	(一級自動	加車整備士)					
3211.		君塚真	之佑											
実務組	Z験教員	授業	非該当	総時限	18	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験					
〔授業	概要・	目的〕												
・電気	自動車	車の整体	前業務及 征	ゾHonda፤	車の電子制	訓御装置、	HYBRID	システムの	機能、構造、役割を	理解する。				
〔授業	の到達	を 目標)												
・電気	装置()基本的	りな知識と	電圧点検	要領を理	解する。								
						D基本的な								
・エンシ 身につ		ステムの	構造、機能	能、作動を	理解すると	とともに、基	本点検作	業、自己記	診断機能による点検。	、構成部品	品の脱着要領を			
		ノステム・	の構造、様	幾能、作動	を理解する	るとともに高	電圧回路	·整備全般	(についての知識を身に	こつける。				
〔学習	習評価の基準〕													
	『智評価の基準』 『験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点													
・学科	試験の	D点数加	が60点未	満の場合(は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は	 試験規程による。					
						再試験を行			- 					
〔使用	教科書	書・教材] 持〕											
二級自	自動車	整備士	(総合)	【日本自	動車整備	振興会連	 合会】、パ'	 フーポイント	 \資料、i-Pad					
電気自	自動車	等の整	備業務に	おける特別	 リ教育テキ	スト、HAS	T SE3級	(ハード編						
						 業 計 画					No.1			
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)						
	4	総合F	(学科)	1	電気自動	車等の整	備業務に	おける特別						
	4	総合F	(学科)	2	電気装置	 の基本、ラ	スタの知言	哉、HDSの		アニュアル				
	4	総合F	· (学科)	3	PGM-FI	(センサ、フ	アクチュエー	·タ)、VTI	EC、アイドリングストッ	 プ				
	4	総合F	· (学科)	4	HYBRID	システム(Hondaハ	 イブリッドシ	 /ステムの構造・機能・	·制御)				
	2	総合F	(学科)	5	実務経験	₹1から実績	9経験 4 a	での問題	 を総合復習					

		₩.	斗 102						専門課程	作成月日	25/04/01	
教和	4	子作	4 102	科目		総合シャシ	,	対象級	サービスエンジニア学科・	作成月日	25/04/01	
	•	自動	車整備			1.3.4.5			一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	後期	
オトエソ 1		河智是	是明・大石	尚輝・浅井	‡直道(-	一級自動車	整備士)			-		
教科技		前田伽	憂佑・成松	樹生・小川	幸雄							
実務経	験教員	授業	非該当	総時限	18	授業方法	講義	評価方法	学科試験元·期末試	験		
〔授業権	既要・	目的〕										
Honda	a車の	ミッショ	ン、シャシ輩	長置、補器	類の機能	、構造、作	動を理解	する。				
〔授業の	の到達	目標)									
·Hond	da車の	D安全	装置、基本	卜性能を支	援する運	転支援シス	ステムの構造	成、機能、	作動を理解する。			
·Hono	da車の	D基本	点検作業	、自己診圏	新機能によ	る点検、構	構成部品の	脱着要領	を身につける。			
·Hond	da車の	Dシャシ	領域のシ	ステム全般	の構造、村	幾能、作動	を理解する	5.				
〔学習記	習評価の基準〕											
·試験,	点数0)評価(よ 5:9	0 ~100 _F	点 4:7	5 ~ 89点	ā 3:60) ~ 74点	Ţ			
・学科詞	式験0)点数;	が60点未活	満の場合(は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は	試験規程による。			
・学科詞	式験0)点数	が60点~(59点の場	合は特別す	再試験を行	īう。					
〔使用	教科書	書・教林	排 〕									
二級自	動車	整備士	L (総合)	【日本自	動車整備	振興会連行	合会】、パワ	フーポイント	~資料、i-Pad			
HAST	SE3	級(ハ	(ード編) 5	テキスト								
					授	業計画	表				No.1	
実務経験 柞	票準時限						授業内容	(項目)				
	4	総合C	(学)1		4 WDシ	ステム、SR	Sエアバック	ジ ステム、	多重通信			
	4	総合C)(学) 2		CVT, DO	CT、Hond	aスマートキ	Fーシステ <i>L</i>	7			
	2	総合C	(学) 3		電動パワー	ーステアリン	グ、VSA、	振動·騒	当			
	2	総合C	(学)4		オートエア	コン、電動	サーボブレ	ーキシステ	Д、EPB			
	1	総合C	(学) 5		実務経験	1から実務	络経験4ま	での問題	を総合復習			
											-	

		学科	斗 102						専門課程		作成月日	25/04/01
教	科	自動	車整備	科目	ŧ	ビリティ技術	ប៊ី	対象級	サービスエン 一級自動車 研究開発学	整備学科・	開講期	前期
教私	担当	駒崎	勝紀・木野	野内英和	・渡部孝	诏·塩川楓	・河智是	明·大石	-		(一級自重	加車整備士)
3 217	r)==	前田	優佑・成権	公樹生・小	川 幸雄	•君塚真》	之佑					
実務	経験教員	慢授業	該当	総時限	6	授業方法	講義	評価方法				
〔授業	概要・	目的〕										
·Hor	ndaの耳	取り組ん	でいる活	動、最新技	支術、運転	支援システ	ムなどを理	と解する。				
〔授業	の到達	主目標))									
・運転	支援	システム	(Honda	a SENSIN	NG)の機	能、構造、	作動を理算	解する。				
·Hor	ndaで耳	取り組む	SDV (S	oftware	Defined	Vehicle)	について基	里解する。				
(学習	評価の	カ其淮`	<u> </u>									
「子巨	3pT1ЩV	0全年,	,									
「使用]教科	書•教札	 オ等ì									
			、i-Pad、	配布資料								
				10 11 2 1 1								
						 業 計 画	 i 表					No.1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)				
0	3	M技術	析C		運転支援	きシステム I	Hond	a SEN	NSINO	3		
					(Honda	sensin	Gの機能	・構造の理]解)			
0	3	M技術	析C		SDV (S	oftware [Defined \	Vehicle)	の機能・棒	構造		
					SDVにつ	いて考える	(思考授	業)				

		学 和	斗 104							専門課程		作成月日	25/04/01	
教	科			科目	E	自動車検査	<u> </u>		対象級	サービスエン	ジニア学科・	11-136/7 LI	23/04/01	
		自動	車検査							一級自動車 研究開発学	■整備学科・	開講期	前期	
教科	田水	河智:	是明·大石	5尚輝・港	扶直道	(一級自	動車	整備	計士)	-				
3X141	123	前田	優佑・成材	公樹生・小	川 幸雄									
実務紹	E験教員	授業	非該当	総時限	13	授業方法	講	義	評価方法	学科試験	期末試験			
〔授業	概要・	目的〕												
車両の	保安	基準通	合性、ブロ	ノーキ装置	、電気装置	置等(二網	級自動	車	と備士 (約	総合) のシ	ヤシ領域)	の構造、	機能、作動を理	
〔授業	の到達	桂目標))											
•保安	基準道	適合性	確保の点	検(24カ)]点検、梭	(査関係)	を理解	解する	3 。					
・ブレー	-‡装i	置(エ	ア・ブレーキ	-、電子制	御、補助等	等)の構造	き、作動	カをŦ	里解する。					
	4333至77年の甘油													
〔学習	学習評価の基準〕													
•試験	子督評価の基準) 試験点数の評価は 5:90 ~100点 4:75 ~ 89点 3:60 ~ 74点													
・学科	試験0	D点数	が60点未	満の場合に	は再試験を	行う。尚、	再試験	负後	の評価は	試験規程(こよる。			
・学科	試験0	D点数	が60点~	69点の場	合は特別す	再試験を行	ゔ。							
〔使用	教科書	書・教林	才等〕											
二級自]動車	整備コ	上 (総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、	、八°	フーポイント	───── 資料、i-F	Pad			
HAST	SE 3	級(ハード編)	テキスト										
					授	業計画	画 表						No.1	
実務経験	標準時限						授業内	容	(項目)					
	4	■検査	查(学科)	1	保安基準	適合性確	保の点	検	Ⅱ(24力)	月点検)	、先進安全	⋵技術		
	4	■検査	查(学科)	2	保安基準	適合性確	保の点	禄	Ⅲ(検査	関係)、警	警報装置			
	2	■検査	查(学科)	3	ブレーキ製	美置 I (エ	ア・ブレ	/-:	-)、製図					
	2	■検査	查(学科)	4	ブレーキ器	長置Ⅱ(電	子制征	卸•ネ	浦助)、フ	レーム及び	バボデー			
	1	■検査	查(学科)	5	電気装置	(冷暖房	装置)	, į	故障原因抗	架求				

							1							
教科		学科 105		_	, -, 	_		· -	専門課程	作成月日	2025/5/15			
教	科 — <u>—</u>	自動車整備に 関する法規	科目	<u> </u>	自動車法規	₹ 		対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	前期			
*****	+□ 1 V	駒崎勝紀・木野	内英和·源	度部孝昭・	塩川楓・河	J智是	明·	大石尚輝	•浅井直道(一級自	動車整備	i士)			
教科	担当	前田優佑・成松	樹生・小り	幸雄・君	塚真之佑	ī								
実務網	Z験教員	損授業 非該当	総時限	11	授業方法	講	義	評価方法	学科試験 期末試験					
〔授業	概要・	目的〕												
・自動	車整値	備士に必要な法規	見(道路)	重送車両流	去、道路運	送車向	可法	の保安基	準)を理解し、実践	できるように	こなる。			
〔授業	の到達	目標〕												
・自動	車整値	開士として業務を	実施する」	で関係す	る法令を理	2解する	る。							
・教科	書の内	容、用語などを	実車写真為	及び過去問	引をもとに理	解する	3.							
〔学習	評価の	面の基準〕												
・試験	点数の	数の評価は 5:90~100点 4:75~ 89点 3:60~ 74点												
・学科	武験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。													
〔使用	教科書	 小数材等 〕												
法令教		公論出版】、パワ・	 -ポイント資	Manage of the second of the s	d									
				———— 授	業計画	表					No.1			
実務経験	標準時限					授業内	容	(項目)						
	1	法規 I		1. 自動	車の種類	2.	登録	制度						
	1	法規Ⅱ		3. 保安	·基準 4.	点検	整何	開制度						
	1	法規Ⅲ		5. 検査	制度 6.	認証	E制度	芰						
	1	法規IV		7. 指定	制度 8.	そのイ	他							
	1	法規V		『』車両	法』の総合	復習								
	1	法規VI		1. 自動	車の構造	2.	自動	車の装置	(原動機及びシャシ	/関係)				
	1 法規VII 3. 自動車の装置(車体関係) 4. 自動車の装置(公害防止関係)													
	1	法規Ⅷ		5. 自動	車の装置	(灯火	く関イ	系) 6.	自動車の装置(運	転操作)				
	1	法規IX		7. 緊急	自動車等									
	1	 法規 X		『Ⅱ 保安	基準』の総	合復	2							
	1	自動車法規 註	験	実務経験		务経験	1 0	までの理:	 解度を確認する					

		宇羽	图 203						専門課程	作成月日	25/04/01				
教	科	自動車	車整備作 業	科目	応用	パワーユニ	ット1	対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・	開講期	前期				
				5次	•渡部孝	四•恒川村	圖•浅井店	道 (一組	研究開発学科 2年 吸自動車整備士)						
教科	担当		真之佑	יוראלני זני	//文印子	<u>'</u>	* <i> X</i> / E		《口勤辛走帰工》						
実務経	E験教員	授業	該当	総時限	26	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験元·期末試	ノポート評価	ī				
〔授業	概要・	目的〕													
・エンジ	ン領域	或の各	装置につい	て、構造、	機能、整	備作業に	ついて実習	を通じて理							
〔授業	の到達	目標))												
·HDS	(外部														
・オシロ	コスコー	プの操	作方法を	理解し、セ	ンサ、アクラ	チュエータの	波形を読む	めるようにた	;;る。						
•直列:	3気筒	(E07	7)のタイミ	ミングベルト	の脱着作	業が指定の	時間内に実	施できる。	ようになる。						
·電気	装置、	点火装	表置の電気	気の流れ、	電圧の有無	無を推測し	測定に相ば	量が無いよ	うになる。						
		の甘油													
〔学習	評価の	平価の基準〕													
·試験	当評価の基準」 験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「 5・4・3・2・1 」の 5 段階で表わす。														
・レポー	-トの評	平価:	5 : 非常	に優れてい	る 4:個	憂れている	3:普:	通 2:	やや劣る 1:劣る	(再提出	の必要がある)				
•試験	点数0	評価	: 5 : 90	~100点	4:75	~ 89点	3:60	~ 74点							
			60点未活	満の場合(る	は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程による。						
〔使用	教科書	書・教材	(等)												
二級自	動車	整備士	- (総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パワ	フーポイント	~資料、i-Pad、電子	モジュール	シート				
					授	業計画	画 表				No.1				
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)							
0	4	実応F	P 1 – 1		導入(実	習授業の	進め方、注	意点等を	理解する)						
0	4	実応F	P 1 – 2		外部診断	機(HDS	5) の機能	、操作方法	去						
0	4	実応F	P 1 – 3		オシロスコ	ープの操作	方法、冷	却装置の	構造・機能・電気回路	各の理解					
0	4	実応F	71-4		直列3気	筒のタイミ	ングベルト原	兑着作業、	電気回路の電圧測	定					
0	4	実応F	P 1 – 5		V型 6 気	筒のタイミン	ングベルト朋	着作業、	電気回路の電圧測況	ŧ					
0	4	実応F	1-6		点火装置	の機能・構	構造の理解	、実車での	D測定作業						
0	2	実応F	P 1 – 7		実務経験	1から実	務経験6ま	での授業	内容を総合復習						

教科	実習 203						専門課程	- 1	作成月日	25/04/01					
教	科	自動車整備作 業	科目	応用	パワーユニ	ット2	対象級	サービスエンジニア学 一級自動車整備学 研究開発学科 24	≠科・	開講期	前期				
数私	担当	駒崎勝紀·木野	野内英和	•渡部孝	昭・塩川棚	虱·浅井直	道 (一組	及自動車整備:	士)						
1 217	1==	君塚真之佑													
実務網	圣験教員	員授業 該当	総時限	30	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 期末詞	試験ノス	ポート評価					
授業	概要·	·目的〕													
エンシ	ジン領	域の各装置につい	て、構造、	機能、整	備作業に	ついて実習	を通じて理	解度を高める。							
授業	の到達	全目標〕													
ジーゼル・エンジンの機能、構造を理解し、分解組付、測定作業より理解度を高める。 吸排気装置(ターボ・チャージャ)の機能、構造を理解し、点検整備、走行テストより理解度を高める。															
充電	充電装置の機能、構造、作動を理解し、点検、測定作業より理解度を深める。 点検項目の内容、点検方法を理解し、実施できるようになる。														
点検	 表検項目の内容、点検方法を理解し、実施できるようになる。														
点状央ロッN3台、点状刀広で注所U、天心しどるよりになる。 ────────────────────────────────────															
(学習	評価の	の基準〕													
試験	点数の	の基準、レポート語	平価及授業	業の取り組	しみを総合し	て、「5・	4 · 3 · 2 ·	1」の5段階で	表わす	•					
レポ-	-トのi	平価:5:非常	に優れてい	る 4:位	憂れている	3:普	通 2:	やや劣る 1:	劣る	(再提出の	の必要がある				
·試験	点数の	の評価:5:90	~100点	ī 4:75	5 ~ 89点	3:60	~ 74点								
		60点未注	満の場合(は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程による。							
使用	教科	書・教材等〕													
二級目	自動車	整備士(総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パ	フーポイン	~資料、i-Pad、管	電子モ	ジュールシ	/ - -				
				授	業計画	表					No.1				
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)								
0	4	実応 P 2 – 1		GD320	(ジーゼル)	凡用機)(の分解組作	付及び測定作業	業						
0	4	実応 P 2 – 2		始動装置	量(車両)の	機能・構造	及び電気	回路の測定作業	ŧ						
0	4	実応 P 2 – 3	-	ターボチャ	ージャの機	能•構造の	理解、走	行テストによるデ・	ータ測	定					
0	4	実応 P 2 – 4		サプライボ	ププ(単位	上部品)σ	分解組み	立て、ジーゼルの	構造	・機能の確	全認				
0	4	実応 P 2 – 5		充電装置	置(車両)の	機能・構造	及び電気	回路の測定作業	Ě						
0	4	実応 P 2 – 6		KD1 (I	ンジン単体	、) の分解	組み立て	及び測定作業							
0	4	実応 P 2 – 7		点検整備	輔①(受付	、点検作	業、整備認	兑明)							
0	2	実応 P 2 – 8		実務経験	第1から実著	タ経験 7 a	での授業	内容を総合復習]						

4.1		実習 203						専門課程	作成月日	25/04/01						
教	科	自動車整備作 業	科目		応用シャシ	,	対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・	開講期	前期						
		河智是明•大石	 5尚輝・浅	L B井直道	(一級自	動車整備	士)	研究開発学科 2年								
教科	担当	前田優佑・成村	公樹生・小	川 幸雄												
実務網	E 験教員	損授業 該当	総時限	26	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 期末試験	ノポート評価	<u> </u>						
〔授業	概要・	目的〕														
・シャシ	領域	の各装置について	、構造、	幾能、整備	作業につ	いて実習を	通じて理角	確度を高める。								
〔授業	の到達	[目標]														
・基本	的な割	整備手順、点検ブ	う法を理解	し、実施で	できるように	なる。										
・電気	装置0)構造、機能、作	動を理解	し、点検、	測定作業	より理解度	を高める。									
・日産	4 AT	の機能、構造、作	F動を理解	し、分解約	且付、部品	を確認する	ることで理角	解度を高める。								
			■ 注注 〕													
〔学習	評価の	D基準〕														
・試験	点数0	平価の基準」 気数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「 5・4・3・2・1 」の 5 段階で表わす。														
・レポ-	-トの評	平価: 5 : 非常	に優れてい	る 4:個	憂れている	3:普	通 2:	やや劣る 1:劣る	(再提出	の必要がある)						
・試験	点数0)評価:5:90	~100点	4:75	i ~ 89点	3:60	~ 74点									
		60点未注	満の場合(井試験を	:行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程による。								
〔使用	教科書	·教材等〕														
二級目	自動車	整備士(総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パワ	フーポイント	 - 資料、i-Pad、電子	モジュール	シート						
				授	業計画	画 表				No.1						
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)									
0	4	実応C1		導入(実	[習授業の	進め方、注	意点等を	理解する)								
0	4	実応C2		シャシ基礎	楚整備①	(基本的な	作業所作	、及び機器の使用を	理解し習	得する)						
0	4	実応C3		12か月点	(検①											
				(12ヶ月	点検整備	項目の内容	容及び点標) 安領(日常点検急	含む)の理	解と実践)						
0	4	実応 C 4		灯火&保	安装置((灯火装置	の構造・機	幾能の理解)								
0	4	実応C5		日産4A	T① (プ	ラネタリギヤ	の基本作	動及び各部の名称と	上働きの理解	解)						
0	4	実応C6		日産 4 A	T2											
				(各レン	ジの作動と	働き(1~	4速、1	速固定、2速固定、	Rレンジ)	の理解)						
0	2	実応 C 7		実務経験	1から実	務経験6ま	での授業	内容を総合復習								

		実習 203							専門課程		作成月日	25/04/01			
教	科	自動車	車整備作 業	科目	総合	3パワーユニ	ニット	対象級	サービスエン: 一級自動車 研究開発学	整備学科・	開講期	後期			
tri-ru i		駒崎原	勝紀・木里	野内英和	•渡部孝	沼·塩川椒	風・浅井直	道(一約			'				
教科:	世当	君塚	真之佑												
実務経	経験教員	授業	該当	総時限	30	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験	期末試験	ノポート評価	Ī			
〔授業	概要・	目的〕	•												
・エンシ	ジ領域	或の各	装置につい	て、構造、	機能、整	備作業に	ついて実習	を通じて理	解度を高	める。					
〔授業	の到達	目標)													
・電気	安全の)一般的	内な知識と	電気自動	車等の整	備作業を	理解し、実	施できるよ	うになる。						
各シア	ステム	装置の	不具合に	ついて総合	的な判断	より故障原	因を探求	することがて	できる。						
·点検	項目の)内容、	点検方法	た理解し	、実施でき	るようにな	る。								
			□												
〔学習	評価の	基準〕													
・試験	点数0	の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1 Jの5段階で表わす。													
・レポー	-トの評	平価:	5:非常	に優れてい	る 4:個	憂れている	3:普	通 2:	やや劣る	1:劣る	(再提出	の必要がある)			
・試験	点数0)評価	: 5 : 90	~100点	4:75	~ 89点	3:60	~ 74点							
			60点未活	満の場合(は再試験を	行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程は	こよる。					
〔使用	教科書	書・教材	持 〕												
二級自	動車	整備士	(総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パワ	フーポイント	△資料、i-F	Pad、電子	モジュールミ	シート			
					授	業計画	画 表					No.1			
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)							
0	4	実総「	P 1		導入(実	習授業の	進め方、注	意点、車	両の取扱し	ハ等を再確	翻する)				
0	4	実総F	2		救急法の	習得、低原	王活線作業	ŧ							
0	4	実総「	3		故障探求	(エン	ジン不調の	車両につい	て故障探	求、整備語	説明を実施	į)			
0	4	実総「	9 4		故障探求	② (始動	装置に関	重した故障	探求、整	備説明を	実施)				
0	4	実総「	P 5		故障探求	③(充電	装置に関	重した故障	探求、整	備説明を	実施)				
0	4	実総「	6		点検整備	②(受付	、点検作	業、整備診	(明)						
0	4	実総「	7		故障探求	(様々	なシステム	の異常探	求、整備認	说明を実施	<u>i)</u>				
0	2	実総F	8		実務経験	1から実涯	務経験 7 ま	での授業	内容を総合	合復習					

341-		実習 203					専門課程		作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備作 業	科目	総合シャシ		対象級	サービスエン: 一級自動車 研究開発学	整備学科・	開講期	後期
粉彩	担当	河智是明·大石	石尚輝・淳	读井直道(一級自	動車整備	士)				
1 2,111	123	前田優佑・成村	公樹生・小	川 幸雄						
実務約	圣験教員	員授業 該当	総時限	30 授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験	期末試験	/ポート評価	i
授業	概要·	·目的〕								
シャ	う領域	の各装置について	、構造、構	機能、整備作業につ	いて実習を通	通じて理解	解度を高め	る。		
授業	の到達	達目標〕								
24b	月点	検の点検記録簿	を確認し、	点検作業ができるよ	うになる。					
·検査	機器の	の使い方、調整方	法を理解	し、実施できるように	なる。					
·Hor	ida Ca	ars(販売店)で	で使用する	e-Dealer & PIT管	語理の操作が	できるよ	うになる。			
·各シ	ステム	装置の不具合に	ついて総合	的な判断より故障原	見を探求す	ることが	できる。			
 〔学習	評価の	の基準〕								
試験	点数の	の基準、レポート語	平価及授業	美の取り組みを総合し	ノて、「5・4	.3.2.	1]の5段	と階で表わ	す。	
レポ・	- トの፤	评価:5:非常	に優れてい	る 4:優れている	3:普通	至:	やや劣る	1:劣る	(再提出(の必要がある
·試験	点数の	の評価:5:90	~100点	i 4 ⋅ 75 ~ 89占						
				(1175 O5/m	3:60 ~	~ 74点				
		60点未注	満の場合(は再試験を行う。尚、			式験規程に	よる。		
		60点未注	満の場合は				式験規程に	こよる。		
使用	教科	60点未注 書・教材等〕	満の場合(る				式験規程に	こよる。		
		書•教材等〕			再試験後の	評価は			モジュールシ	シート
		書•教材等〕		は再試験を行う。尚、	再試験後の	評価は			モジュールシ	ンート
		書•教材等〕		は再試験を行う。尚、	再試験後の合会】、パワー	評価は			モジュールシ	∨-⊦ No.1
二級[書·教材等〕 連整備士(総合)		は再試験を行う。尚、	再試験後の合会】、パワー	評価は記			モジュールシ	
二級[自動車標準時限	書·教材等〕 連整備士(総合)		は再試験を行う。尚、	再試験後の 合会】、パワ・ 画 表 授業内容(評価は記しています。 アイント (項目)	∖資料、i-F	Pad、電子		No.1
二級[自動車 標準時限 4	書・教材等〕		は再試験を行う。尚、動車整備振興会連 授業計 [再試験後の 合会】、パワー 画 表 授業内容(4ヶ月点検作	評価(は記 ーポイン) (項目) F業と指定	、資料、i-F	Pad、電子 配子 配子 配子 配子	ない ない ない ない ない ない ない ない ない かい	No.1 法の習得)
二級[実務経験	事動車 標準時限 4 4	書·教材等〕 主整備士(総合) 実総C1		は再試験を行う。尚、動車整備振興会連 授業計區 24か月点検①(2	再試験後の 合会】、パワー 画 表 授業内容(4ヶ月点検作 4ヶ月点検作	評価は記 ーポイン! (項目) F業と指定	、資料、i-F 定整備記錄 定整備記錄	Pad、電子 最等の理解 最等の理解	ない ない ない ない ない ない ない ない ない かい	No.1 法の習得)
三級[自動車 標準時限 4 4 4	書·教材等〕 主整備士(総合) 実総C1 実総C2		#再試験を行う。尚、動車整備振興会連授業計 [24か月点検①(224か月点検②(2	再試験後の 合会】、パワー 動表 授業内容(4ヶ月点検作 4ヶ月点検作 4ヶ月点検作	評価(は記 一ポイン) (項目) 手業と指定 で法と調整	、資料、i-F 定整備記録 定整備記録 整作業の習	Pad、電子 最等の理解 最等の理解 3得)	を記入方法 と記入方法	No.1 法の習得) 法の習得)
□ 級[表	事動車 標準時限 4 4 4	書·教材等〕 主整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3		#再試験を行う。尚、動車整備振興会連授業計區 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査様	再試験後の合会】、パワームを表しています。 表 授業内容 (4ヶ月点検作4ヶ月点検作4ヶ月に検作4ヶ月に対けった。) S及びサーニ	評価(は記) ーポイン(項目) ・業と指定 ・	、資料、i-F 定整備記録 定整備記録 整作業の習	Pad、電子 录簿の理解 录簿の理解 引得) の故障診	を記入方法 を記入方法 断の実践に	No.1 法の習得) 法の習得)
	事動車 標準時限 4 4 4 4	書·教材等〕 整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3 実総C4		#再試験を行う。尚、動車整備振興会連授業計區 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査を 故障探求①(HD	再試験後の 合会】、パワー る会】、パワー を要素内容(4ヶ月点検作 4ヶ月点検作 8番の使用方 のS及びサーニ 管理②(e-	評価(は記) -ポイン(項目) ままと指うでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	を 主整備記録 主整備記録 整作業の習 タを用いて 1 e r 8	ad、電子 录簿の理解 景等の理解 引得) の故障診 は PIT	を記入方法 を記入方法 断の実践に	No.1 法の習得) 法の習得)
□級	事動車 標準時限 4 4 4 4 4	書·教材等〕 整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3 実総C4 実総C5		#再試験を行う。尚、動車整備振興会連授業計區 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査様 故障探求①(H D e-Dealer & PIT管	再試験後の合会】、パワーム 表 要業内容(4ヶ月点検作4ヶ月点検作3を及びサージで理②(e-サーボン)に対応(実践的	評価(は記) (項目) (項目) (項目) (対 に	主整備記録 主整備記録 を作業の習 タを用いて I e r 8	ad、電子 最等の理解 器等の理解 の故障診 は PIT	を記入方法 を記入方法 断の実践に 管理の復習	No.1 法の習得) 法の習得)
表別を表現を表現を表現しています。	事動車 標準時限 4 4 4 4 4 4	書·教材等〕 整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3 実総C4 実総C5 実総C6		#再試験を行う。尚、 動車整備振興会連 授業計 [2 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査機 故障探求①(H D e-Dealer & PIT管 接客応対(接客対	再試験後の 合会】、パワー	評価(は記) (項目) 「業と指す デ業と調整 キットテス ロールファス キットテス コールファス マーカー キットテス マーカー マールファス マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカ	資料、i-F主整備記録整件業の習 タを用いて I e r 8プレイ)の実タを用いて	Pad、電子 環等の理解 には の故障診 は PIT に践) の故障診	を記入方法 を記入方法 断の実践に 管理の復習	No.1 法の習得) 法の習得)
表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	事動車 標準時限 4 4 4 4 4 4	書·教材等〕 整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3 実総C4 実総C5 実総C6		東国試験を行う。尚、 動車整備振興会連 授業計區 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査検 故障探求①(HD e-Dealer & PIT管 接客応対(接客対 故障探求②(HD	再試験後の 合会】、パワー	評価(は記) (項目) 「業と指す デ業と調整 キットテス ロールファス キットテス コールファス マーカー キットテス マーカー マールファス マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカ	資料、i-F主整備記録整件業の習 タを用いて I e r 8プレイ)の実タを用いて	Pad、電子 環等の理解 には の故障診 は PIT に践) の故障診	を記入方法 を記入方法 断の実践に 管理の復習	No.1 法の習得) 法の習得)
級[事動車 標準時限 4 4 4 4 4 4	書·教材等〕 整備士(総合) 実総C1 実総C2 実総C3 実総C4 実総C5 実総C6		東国試験を行う。尚、 動車整備振興会連 授業計區 24か月点検①(2 24か月点検②(2 検査ライン(検査検 故障探求①(HD e-Dealer & PIT管 接客応対(接客対 故障探求②(HD	再試験後の 合会】、パワー	評価(は記) (項目) 「業と指す デ業と調整 キットテス ロールファス キットテス コールファス マーカー キットテス マーカー マールファス マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカー マーカ	資料、i-F主整備記録整件業の習 タを用いて I e r 8プレイ)の実タを用いて	Pad、電子 環等の理解 には の故障診 は PIT に践) の故障診	を記入方法 を記入方法 断の実践に 管理の復習	No.1 法の習得) 法の習得)

		実習 203					専門課程		作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備作 業	科目	整備作業シャ	ァシ	対象級	サービスエン: 一級自動車 研究開発学	整備学科•	開講期	後期
李小子公	担当	河智是明·大石	石尚輝・港	浅井直道(一級自	動車整備	i士)			-	
3 214	123	前田優佑·成村	公樹生・小	川 幸雄						
実務約	圣験教員	員授業 該当	総時限	30 授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験	期末試験	/ポート評価	
〔授業	概要・	目的〕								
・シャミ	う領域	の各装置について	、構造、	機能、整備作業につい	ハて実習を	通じて理角	解度を高め	る。		
〔授業	の到達	[目標]								
·24カ	月点	めの点検記録簿	を確認し、	点検作業ができるよう	うになる。					
・トラン	ノスミッ	ション、エンジンの	基本点検	(オイル交換及び付降	随作業、ス	トール回転	ふの点検)	を理解し	実施できる。	
·Hon	ida Ca	ars(販売店)で	で使用する	e-Dealer & PIT管	理の操作	ができるよう	うになる。			
・各シ	ステム	装置の不具合に	ついて総合	的な判断より故障原	因を探求	することがで	できる。			
〔学習	評価の	D基準〕 								
・試験	点数0	D基準、レポートi	平価及授業	美の取り組みを総合し	/て、「5・4	1 · 3 · 2 ·	1]の5段	と階で表わ	す。	
・レポー	-トの語	平価:5:非常	に優れてい	る 4:優れている	3:普:	通 2:	やや劣る	1:劣る	(再提出の	の必要がある)
・試験	点数0)評価:5:90	~100点	4:75~89点	3:60	~ 74点				
		60点未注	満の場合(は再試験を行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程に	よる。		
〔使用	教科	書·教材等〕								
二級国	自動車	整備士(総合)	【日本自	動車整備振興会連	合会】、パワ	フーポイント	〜資料、i-F	Pad、電子	モジュールシ	/-
									1	
				授業計画	表					No.1
実務経験	標準時限				授業内容	,				
0	4	実整C1		24か月点検③(24						
0	4	実整C2		トランスミッション・エン						テスト)
				作業習熟度チェック				.,		
0		実整C3		e-Dealer & PIT管					管理の復習	1)
0		実整C4		故障探求②(灯火						
0		実整C5		エンジン脱着①(車						
0		実整C6		エンジン脱着②(車						
0		実整C7		故障探求(各システ						
0	2	実整C8		実務経験1から実務	外経験 7ま	での問題	を総合復習	≅		

		÷33 20°	,					専門課程	/c#85	25/04/01
教	科	実習 203 自動車整備	44	3	実践力養质	犮	対象級	等口課性 一級自動車整備学科:	作成月日	25/04/01
		業	31.					研究開発学科2年	開講期	通期
教科	担当	駒崎勝紀・ス	木野内英和・	渡部孝昭・	・塩川楓・沱	可智是明・	大石尚輝	・浅井直道(一級目	自動車整備	i士)
32/1-1		前田優佑·凡	成松樹生・小	川 幸雄・郡	含塚真之体	i				
実務網	Z験教員	損授業 非該	当 総時限	44	授業方法	実習·実技	評価方法			
〔授業	概要・	目的〕								
・必要	な知識	機や技術を実	践的な授業法	えびコンテス	ストや外部原	展示会等を	通して、知	識や技術を習得し	や自分の考	えをまとめ発表で
 〔授業	の到達	[目標]								
・サーヒ	ごス技行	析コンクールや	外部展示会	を見学する	ることで、必要	要な知識が	対技術を学	び自分の考えを発え	長できる	
•4輪	、2 輪	の実践整備	作業及び整備	前説明を実	€践しできる	ようになる				
・点検	整備、									
〔学習	評価の	D基準〕								
〔使用	教科書	書·教材等〕								
二級目	自動車	整備士(総	合)【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パロ	フーポイント	~資料、i-Pad		
新人t	ナービス	スタッフの基準	本学習(ハー	ド編、ソフ	ト編)					
				授	業計画	表				No.1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
	2	課題説明会	、課題準備	課題発表	長の仕方、身	見学会の説	胡			
				見学会の	事前準備					
	2	見学会		外部会場	易(サービス	技術コンク	7ール等)	の見学をする		
	10	課題準備		課題発表	長のための資	資料作り				
	2	課題発表		自分たち	の考えをまる	とめたものを	発表する			
	4	4輪実践 1		外部診断	f機(HDS	ら)を使用	した基本的	的な故障探求及び交	換作業を	実施
	4	4輪実践 2		車両より	部品脱着	(燃料タン	ク等)を実	 E施		
	4	2輪実践 1		車両より	エンジン脱着	手を実施				
	4	2輪実践 2		2 4 カ月	点検整備	作業を実施	包			
	4	4輪 点検索	 Median	点検整備	開及び基本	的な部品を	 交換(エン	 ⁄ジンオイル、ワイパー	ラバー等)	を実施
	4	2輪 点検整	 Median	点検整備	開及び基本	的な部品を	 交換 (エン	 ·ジンオイル等)を実	 施	
	4	実践作業		実践授業	美で実施して	てきた点検	整備作業	の習得度を確認する	5	
				1						

-	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	実習	₫ 203	1	±6./++.//	- AHE 11°-			専門課程	作成月日	25/04/01
教	科		車整備作 業	科目	整備化	「業パワー」	ユニット	対象級	サービスエンジニア学科 一級自動車整備学科 研究開発学科 2年		後期
教科	和水	駒崎周	券紀・木里	野内英和	•渡部孝	诏•塩川棚	風・浅井直	道(一組	及自動車整備士)	•	
软件	担当	君塚	真之佑								
実務約	圣験教員	授業	該当	総時限	30	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験 期末試験	ポート評価	<u> </u>
〔授業	概要・	目的〕									
・エンシ	ジン領域	或の各	装置につい	て、構造、	機能、整	備作業に	ついて実習	を通じて理	解度を高める。		
〔授業	の到達	目標)									
で電気・	安全の)一般的	内な知識と	電気自動	車等の整	備作業を	理解し、実	施できるよ	うになる。		
各シ	ステム	装置の	不具合に	ついて総合	的な判断	より故障原	因を探求	することがで	できる。		
・点検	項目0)内容、	点検方法	た理解し	、実施でき	るようにな	る。				
〔学習	評価の)基準〕									
・試験	点数0)基準、	レポート語	平価及授業	美の取り組	みを総合し	て、「5・4	4 · 3 · 2 ·	1」の5段階で表れ)す。	
・レポ-	-トの影	平価:	5:非常	に優れてい	る 4:個	憂れている	3:普	通 2:	やや劣る 1:劣を	3(再提出	の必要がある)
・試験	点数0)評価	: 5 : 90	~100点	4:75	~ 89点	3:60	~ 74点			
			60点未活	満の場合(る	は再試験を	:行う。尚、	再試験後	の評価は記	式験規程による。		
〔使用	教科書	書・教材	持 〕								
					授	業計画	11 表				No.1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
0	4	実整F	P 1		故障探求	(エン	ジン不調の	車両につい	いて故障探求、整備	説明を実施	<u>i</u>)
0	4	実整F	2		故障探求	徳(デー ク	タより故障の	固所の推測	削、原因を推測、エン	ノジン部品の)脱着作業)
0	4	実整F	3		ハイブリット	ド車の構造	・機能の理	関解及び構	成部品の脱着作業		
0	4	実整F	9 4		F20C	(ベンチエン	<i>、</i> ジン)の5	分解組付件	作業及び測定点検		
0	4	実整F	P 5		アクティエン	ンジンの取り	り外し作業	1日目			
0	4	実整F	6		アクティエン	ンジンの取り	り付け作業	2日目			
0	4	実整F	7		点検整備	3(受付	、点検作	業、整備診	·明)		
0	2	実整F	8 9		実務経験	1から実涯	務経験 7 ま	での授業	内容を総合復習		

			1							
		実習 203		_	-1 "-1	· iv=		専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車整備作	科目	ŧ	ビリティ技行	桢	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・	開講期	前期
		業	<u> </u>					研究開発学科 2年		
教科	担当	駒崎勝紀・木	野内英和	•渡部孝	诏•塩川村	虱·河智是	明·大石	尚輝·浅井直道((一級自重	加車整備士)
		前田優佑·成	松樹生・小	川幸雄	・君塚真	之佑				
実務網	圣験教員	夏授業 該当	総時限	16	授業方法	実習·実技	評価方法	I	レポート評価	<u> </u>
〔授業	概要・	目的〕								
·Hon	daの旨	最新技術、運転	支援システ	ムなどを点	検整備、作	作動確認な	どを実施す	することで理解度を深	める	
〔授業	の到達	直目標〕								
·Hon	da先ì	生安全技術を 理	と解し、どの。	ように取り糺	且んでいくか	を考え発え	長できるよう	うになる。		
·Hon	da SI	ENSINGの機能	· 、構造、作	動を理解	し、点検作	業、調整	乍業を実が	面することで理解度を	高める。	
・ハイン	ブリッドュ	車、電気自動車	の構造、機	能、作動	 を理解し、	点検作業	整備作業	美を実施することで理	解度を高ぬ	かる。
·Hon	daの耳	 類組みについて	が、実践、	作業を通	して理解度	を高める。				
〔学習	評価の)基準〕								
·試験	点数0)基準、レポート	評価及授業	美の取り組	 みを総合し	、て、「5・ィ	1 · 3 · 2 ·	1]の 5 段階で表わ	す。	
・レポ-	- トのii	 平価: 5 : 非常	きに優れてい	る 4:個	憂れている	3:普	通 2:	 やや劣る 1:劣る	(再提出	 の必要がある)
〔使用	教科書									
					業 計 圓	■ 表				No.1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)		<u>_</u>	
0	4	 実M技術C1		先進安全	技術 思	 考授業				
				HONDA	SENSIN	Gの取扱い	1			
				CMBS、/	パーキングノ	パイロットの	機能及び代			
0	4	 実M技術 C 2		レーダーエ	イミング					
				カメラエイ	 ミング					
				4輪アライ	 イメントテス	ター				
					ボブレーキ					
					·					
0	4	 実M技術 P 1		自動車((EV、ガソリ	ルー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ブリッド) (
-										
0	4	 実M技術 P 2			· ·機能、操作			- 111 / 111 / 111		
	•					字3.公 接客(ロー)	プレ)			
					12/130/03	хц (ц .				

		実習 204				専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	自動車検査作 業	科目	自動車検査	対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	前期
教科	左击	河智是明·大石	尚輝・浅井	井直道(一級自動車整備士)	•	-	
3 X14:	担当	前田優佑·成松	樹生・小り	幸雄				
実務網	圣験教員	到授業 非該当	総時限	30 授業方法 実習・実	支 評価方法	実習試験 期末試験	ノポート評価	Ī
授業	概要・	目的〕						
シャミ	が領域	の各装置について	、構造、構	機能、整備作業について実習	を通じて理解	解度を高める。		
各作	業にお	ける中間検査、	完成検査の	の手順を理解する。				
授業	の到達	[目標]						
12か	月点村	めい点検記録簿	を確認し、	点検作業ができるようになる。				
シャミ	う領域	(エアコン装置、	パワーステ	アリング、大型ブレーキ等)の	構造、機能	、点検方法を理解し	、実施でき	るようになる。
Hon	da Ca	ars(販売店)で	で使用する	e-Dealer & PIT管理の操作	Fができるよ	うになる。		
各シ	ステム	装置の不具合に	ついて総合	的な判断より故障原因を探え	ドすることが [.]	できる。		
〔学習	評価の)基準〕						
·試験	点数0	D基準、レポート語	平価及授業	美の取り組みを総合して、「5	4 · 3 · 2	・1 」の 5 段階で表わ	す。	
1 48	トの部	平価: 5 : 非常	に優れてい	る 4:優れている 3:普	通 2 ·	: やや劣る 1 : 劣る	(再提出)	ひ込亜がある
・レホ-			101321110		, L			UNCE TO CO
				1 4:75~89点 3:6				
		D評価:5:90	~100点)~ 74点		, (1-31/CLL)	יטייטיקעניקעניקעניקעניקעניקעניקעניקעניקעניקענ
		D評価:5:90	~100点	1 4:75~89点 3:6)~ 74点			JUS STONE
・試験	点数0	D評価:5:90	~100点	1 4:75~89点 3:6)~ 74点		(H)JELLI	
・試験	点数 <i>0</i> 教科)評価:5:90 60点未注 書・教材等〕	~100点 満の場合は	1 4:75~89点 3:6) 〜 74点 後の評価は	試験規程による。		
•試験	点数 <i>0</i> 教科	D評価:5:90 60点未注 書・教材等〕	~100点 満の場合は	〔 4:75 ~ 89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験行) 〜 74点 後の評価は	試験規程による。		
•試験	点数 <i>0</i> 教科	D評価:5:90 60点未注 書・教材等〕	~100点 満の場合は	〔 4:75 ~ 89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験行) 〜 74点 後の評価は	試験規程による。		
·試験 〔使用 二級目	点数 <i>0</i> 教科	D評価:5:90 60点未注 書・教材等〕	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表) 〜 74点 後の評価は	試験規程による。		シート
(使用二級目	教科書	D評価:5:90 60点未注 書・教材等〕	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 客(項目)	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子	モジュールシ	V> No.1
(使用二級目	教科書 自動車 標準時限 4	D評価: 5:90 60点末 書·教材等〕 整備士(総合)	~100点 満の場合は	(4:75~89点3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表 授業内容) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 腎(項目) 作、及び機	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子 器及び専用工具の仮	モジュールシ	V> No.1
(使用二級目	数科言 割動車 標準時限 4 4	D評価: 5:90 60点末 書·教材等〕 整備士(総合) 実検査1	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表 授業内容 シャシ基礎整備②(作業所) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 腎(項目) 作、及び機	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子 器及び専用工具の仮	モジュールシ	V> No.1
(使用二級目	数科言 割動車 標準時限 4 4	D評価: 5:90 60点末 書·教材等〕 整備士(総合) 実検査1 実検査2	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表 授業内を シャシ基礎整備②(作業所 エアコン①(構造・機能の理) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 写(項目) 作、及び機 解(冷凍t	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子 器及び専用工具の復 けイクルの理解))	モジュールシ	シート No.1 ン習得する)
(使用二級目	数科 自動車 標準時限 4 4	D評価: 5:90 60点末 書·教材等〕 整備士(総合) 実検査1 実検査2	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、 授業計画表 授業内を シャシ基礎整備②(作業所 エアコン①(構造・機能の理 12か月点検②) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 写(項目) 作、及び機 解(冷凍 [†]	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子 器及び専用工具の使けイクルの理解)) 検要領(日常点検急	モジュールシ	シート No.1 No :1 Washington Washington Washington
(使用二級目	数科言 動車 標準時限 4 4 4	D評価: 5:90 60点末 書·教材等〕 整備士(総合) 実検査1 実検査2 実検査3	~100点 満の場合は	(4:75~89点 3:6 は再試験を行う。尚、再試験を 動車整備振興会連合会】、/ 授業計画表 授業内を シャシ基礎整備②(作業所 エアコン①(構造・機能の理 12か月点検② (12ヶ月点検整備項目のP) ~ 74点 後の評価は パワーポイン 写(項目) 作、及び機 解(冷凍サ 写容及び点に Sの構造の	試験規程による。 ト資料、i-Pad、電子 器及び専用工具の使けイクルの理解)) 検要領(日常点検 管理解と脱着作業に供	モジュールシ 使用を理解	シート No.1 Wall Wall

シャシ基礎整備③(12ヶ月点検整備項目の内容及び点検要領の理解と実践)

実務経験1から実務経験7までの問題を総合復習

e-Dealer & PIT管理(e – Dealer & PIT管理システムの概要の理解)

実検査6

実検査7

実検査8

4

2

±/-		一般 303						専門課程	作成月日	25/04/01
敎	科	安全運転	科目	安	全運転等	Ż	対象級	サービスエンジニア学科・一級自動車整備学科・研究開発学科 2年		通期
教科	担当	駒崎勝紀·木野 前田優佑·成村					明·大石	· 尚輝·浅井直道	(一級自動]車整備士)
実務網	圣験教員		総時限	T T		実習·実技	評価方法			 評価無し
授業	概要・	 目的〕	<u> </u>							
自動	 車業界	 早の一員であるこ	 とを自覚し	、交通社会	において	安全運転の	 D実践と普	 及(アドバイス)す [、]	 ることが出来	そるようになる
(ラ	イディン		 (二輪)、 ⁻	セーフティコー	 -ディネー·	ター (四輔	 i)の資格			
授業	の到達									
日常	運転		 ノーニングを	通して、安全	全運転の	実践とアド	バイスが出	来るようになる。		
安全	運転の	D思想(人間尊	 重)から、	整備時の安	全に対す	る作業の	重要性を理	 里解する。		
 教育	プログ	ラムを通じて、規ん	津の大切さ	や他人との	協調性を	養う。				
学習	評価の	D基準〕								
使用	教科	書・教材等〕								
安全	運転教	教育テキスト ・交	通教育セ	ンターレイン	ボー埼玉	教習車両	(二輪、四	四輪)		
i-Pa	d、KY	Tレポート用紙								
				授美	美計 通	画 表				No.1
務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
		■ライディングアト	ドバイザー							
	2	二輪コース(1	日目)	安全な乗り	方のアド	バイス方法	を習熟			
				救急法:贫	気道確保	ł、止血、A	EDの使用	方法実践		
	2			車両の取り	回し方法	実践				
				二人乗りア	ドバイファ	L\L = 555				
	4	二輪コース(2	\		17(1//	う法の習熟	Ų			
			日目) ————	慣熟走行	17(1)	う法の習熟	Ļ			
			日目) 					-ム、タンデム走行、/	ABS/CBS∜	本験
			日目)		ブ: 目標に	制動、パイ	ロンスラロ-	-ム、タンデム走行、A	ABS/CBS∜	本験
			日目) 	ブレーキング	ブ: 目標: : 生理的	制動、パイ	ロンスラロ-認	-ム、タンデム走行、A	ABS/CBS∜	本験
		■セーフティコー		ブレーキング 反応制動 コーナリング	ブ: 目標: : 生理的	制動、パイ	ロンスラロ-認	-ム、タンデム走行、A	ABS/CBSt	本験
	4	■セーフティコー: 4輪コース(1	ディネーター	ブレーキング 反応制動 コーナリング	: 目標: : 生理的 : オフセ:	制動、パイ 限界の確	ロンスラロ- 認 ム		ABS/CBS∜	本験
	4		ディネーター	ブレーキング 反応制動 コーナリング	: 目標: : 生理的 : オフセ: : 日常点	制動、パイ 限界の確 ットスラロー 検・運転姿	ロンスラロ- 認 ム 矢勢・乗降		ABS/CBS¢	本験
	4		ディネーター 日目)	ブレーキング 反応制動 コーナリング - 静的実技	が: 目標i : 生理的 : オフセ: : 日常点 が: 急制i	制動、パイ 限界の確 ットスラロー 検・運転登 動・反応制	ロンスラロ- 認 ム 公 姿勢・乗降 動		ABS/CBS¢	本験
	•	4輪コース(1	ディネーター 日目)	ブレーキング 反応制動 コーナリング - 静的実技 ブレーキング	が: 目標: : 生理的 : オフセ! : 日常点 が: 急制! : 車庫入	制動、パイ 限界の確 ットスラロー 検・運転登 動・反応制 れ・縦列馬	ロンスラロ- 認 ム S勢・乗降 動 註車	車·視死角	ABS/CBS	本験
	•	4輪コース(1	ディネーター 日目)	ブレーキング 反応制動 コーナリング - 静的実技 ブレーキング 車両感覚	が: 目標: : 生理的 : オフセ! : 日常点 が: 急制! : 車庫入	制動、パイ 限界の確 ットスラロー 検・運転登 動・反応制 れ・縦列馬	ロンスラロ- 認 ム S勢・乗降 動 註車	車·視死角	ABS/CBS¢	本験
	4	4輪コース(14輪コース(2	ディネーター 日目) 日目)	ブレーキング 反応制動 コーナリング ・ 静的実技 ブレーキング 車両感覚 ロールプレイ	が: 目標(: 生理的 : オフセ) : 日常点 が: 急制! : 車庫入	制動、パイ IR界の確 リトスラロー I検・運転受動・反応制 れ・縦列駅 安全運転フ	ロンスラロ- 認 ム 安勢・乗降 動 注車 アドバイス要	車·視死角		本験

		—舟	货 322						専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	接智	客実務	科目		接客実務		対象級	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	通期
教科技	οж	駒崎原	勝紀・木野	野内英和	•渡部孝	诏•塩川棚	風·河智是	明·大石	尚輝·浅井直道	(一級自重	加車整備士)
72141	23	前田伯	優佑・成材	公樹生・リ	川 幸雄	•君塚真	之佑				
実務経	験教員	授業	非該当	総時限	10	授業方法	実習·実技	評価方法			
〔授業	概要・	目的〕									
·Hond	da Ca	arsのサ	ービス部門	りの仕事を	理解し、ち	ナービス活動	動とフロント	業務の知詞	識を習得する。		
〔授業	の到達	目標)									
・サービ	え部門	門の業	務内容が	里解できる	0						
・初歩の	のフロン	ント業剤	务に必要な	接遇応対	けができる。	(ロープレ	実施)				
・基本に	的な受	を付~な	お引きお渡	し業務が	できる。(ロ	コープレ実施	施)				
〔学習	評価の)基準〕]								
〔使用	教科書	書・教材	(等)								
HAST	SE3	級 ソフ	小編テキス	くト、パワー	ポイント資	料、i-Pad	、教材補助	カプリント	(ロープレ資料)		
					授	業計画	画 表				No.1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
	2	■接額	客実務 1・	2	チャプター 1	L 接遇の基	本				
	2	■接額	客実務3・	4	チャプター 2	2 サービスの)基本、チャ	プター4 整	備業務の基本、チャブ	ター 5 周辺	2知識
	2	■接容	客実務5・	6	チャプター3	3 フロント業	終の基本				
	4	■接額	客実務7・	8 • 9 • 1	ロープレ実	施					
					・あいさつ	訓練					
					・受付の説	说明(□-	プレ)				
					・電話応答	答(ロープ	レ)				
					・お引渡し	, (ロープレ	/)				

		—舟	设 321						専門課程		作成月日	25/04/01
教	科	特別	削講座	科目	実置	美自動車 整	è 備	対象級	サービスエンジニス 一級自動車整備 研究開発学科	備学科・	開講期	通期
李 /43	担当	駒崎朋	券紀・木里	野内英和	•渡部孝昭	沼·塩川棚	虱·河智是	明·大石	尚輝·浅井區	直道(一級自重	加車整備士)
软件	担当	前田僧	憂佑・成材	公樹生・小	川 幸雄	•君塚真	之佑					
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限	50	授業方法	実習·実技	評価方法				評価無し
〔授業	概要・	目的〕										
・授業	及び教	対書 に	内容の理解	解を深める	ことで、国家	家二級自動	動車整備コ	L(総合)	資格に合格す	するため	めの基礎知	識を身につける。
〔授業	の到達	目標〕										
・教科	書の証	電載内容	字を部品が	で車両など	で確認し、	構造・作動	か理解度	を向上させ	せる。			
·登録	試験問	引題のと	出題内容、	、苦手項目]を理解す	ることで勉	強する分野	がを明確に	する。			
〔学習	評価の)基準〕										
〔使用	教科	書・教材	持 〕									
二級国	自動車	整備士	(総合)	【日本自	動車整備	振興会連	合会】、パワ	フーポイント	·資料、i-Pad	、登録	試験対策	問題、関連する
					授	業計画	表					No.1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)				
	2	応用パ	ワーユニット	、2 (学科)	教科書の理	里解度確認	、解説を実	施する				
	7	自動車	検査(学	科)	教科書の理	里解度確認	、解説を実	施する				
	2	自動車	検査 学科	料見直し	自動車検	査の学習内	容を復習す	る				
	1	自動車	法規		自動車法	規の学習内	容を復習す	る				
	2	モビリテ	7技術(学	4科)	Hondaの新	新技術につ	いて学習する	3				
	4	総合パ	ワーユニット	、(学科)	教科書の理	里解度確認	、解説を実	施する				
	4	総合シ	ヤシ(学科	‡)	教科書の理	里解度確認	、解説を実	施する				
	28	登録対	策		登録試験	対策のため	問題(過去	問題・オリ	ジナル問題)を	実施し、	理解度を高	高める

				I				1		1	_
教	科	学科 自動車技術	科目	自動車の	運動力学	(前期)	対象級	専門課程 研究開発	፟ 学科3年	作成月日 開講期	25/04/01 前期
教科	担当									1713613743	133743
	 圣験教員			総時限	23時限		授業方法	講義		評価方法	期末試験
	概要・			7705-13 FEX	237912		1久米/1/仏	אל נוע	<u>l</u>	вт іш/ 5/25	ングコントレロエクルラン
		<u> </u>	学について	学習し、	 学生レベル	 の底上げを	 <u>r</u> 図る。				
〔授業	の到達	 [目標]									
公式(D暗記	 だけではなく、物理	里の原理原	見則を理解	゚゚すること。						
〔学習	評価の)基準〕									
期末記	式験結	果により、「5・4	. 3 · 2 ·	1」の5段	:階で表わる	す。					
5:特	寺に成糸		: 成績良	のもの 3	:成績普)	通のもの 2	2:成績や	や劣るもの	り 1:成	績特に劣り	、不合格のもの
60,	点未満	を不合格とし、再	試験を行	う							
〔使用	教科	書·教材等〕									
プリン	卜、教科	抖書「はじめての自]動車運動)学」							
				授	業計画	惠表					No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)				
	2	単位の構成、接	頭辞、単位	位の換算							
	2	速度と加速度、	vt線図のi	売み方							
	2	自由落下、投げ	上げ、投げ	扩下ろし、翁	斗方投射						
	6	重力と接触力((垂直抗力	,張力、强	単性力、摩	擦力)、	重動の三流	去則			
	4	質点と剛体、力の	のモーメント	トのつり合い	ハ、重心						
	2	エネルギーと仕事	事、摩擦がる	ある場合の	エネルギ保	存則、回	転エネルギ	<u>`</u>			
	4	度数法と弧度法	、等速円	運動と運動	协方程式						
	1	期末テスト									
4											

教	科		学科 車技術	科目	自動車の	運動力学	(後期)	対象級	専門課程研究開発	学科3年	作成月日	25/04/01
おんまい	+D 114								ᄁᄭᇌᄳᆓ		開講期	後期
教科		佐久間			4/\n±7⊟	201±77		1111 111	# *		===/==->	#□-+
	を験教員 	目的〕	非該当		総時限	29時限		授業方法	講義		評価力法	期末試験
			ケか電動	力学を i	前田に学ん	だ基礎力	学をベーフ	ロケ学羽				
		目標)		刀子で、月	リ州に子ん	心茎啶刀-	子でハース	にして子首	900			
				ている事柄	が、理論的	りにはどう裏	受付けられる	るかを理解	できるよう(こなる。		
〔学習	評価の)基準〕										
期末詞	式験結	果により	0、「5・4	.3.2.	1」の5段	階で表わる	す。					
5:特	きに成績	責優秀	なもの 4	:成績良	のもの 3	:成績普遍	通のもの 2	2:成績や	や劣るもの) 1:成	漬特に劣り	、不合格のもの
6 O F	点未満	を不合	格とし、再	試験を行	う							
〔使用	教科書	書・教材	持 〕									
プリント	、教科	書「は	じめてのÉ	動車運動	力学」							
					授	業計画	. 表					No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)				
	4	静荷重	の力学									
	2	サスペン	ンションのフ	スプリングレ								
	2	タイヤの	D力学									
	3	加速性	能									
	3	制動性	能									
	1	Excel	による加速	区/制動性	上能のシミコ	レーション	実習					
	3	走行担	抗									
	3	走行性	上能線図									
	1	Excel	による走行	厅性能線区	図の作成実	'習						
	5	旋回性	能									
	1	シミュレ	<i>/</i> ーターによ	るステア特	特性の違い	体験						
	1	期末テ	スト									

										作成月	
教	科	基本技術	科目		材料実験			対象級	専門課程	H	25/04/01
		加工技術							研究開発学科3年	開講期	<u>前期</u>
教科	担当	大柿政彦、保家	茂則(自	動車研究		ı					
実務終	圣験教員	授業 該当	総時限	18時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	パート評価	<u> </u>
〔授業	概要・	目的〕									
・自動	車やオ	ートバイ、ロボット	等に使わ	れている材	料の基本	持性と	使い	方を学び、	実際に実験を行う		
・材料	にかか	る力やひずみ、疲	受労破壊な	どの特性を	学ぶ						
〔授業	の到達	目標〕									
・いろい	ハろな会	金属材料の特徴	や使い方か	説明でき	3						
・引張	試験0)素材を準備出来	来て、実際	に試験が	テえる						
・材料	にかか	る力やひずみを計	†算で求め	ることができ	 ₹る						
〔学習	評価の)基準〕		_							
									・1 」の 5 段階で表れ		
5: 格の#		X額慢秀なもの	4:成績	艮のもの	3:	普通(のもの) 2:5	又績やや劣るもの I	:成績特	に劣り、个台
		数の評価は 5	: 90 ~10	00点 4	: 75 ~ 8	9点	3 :	60 ~ 74	1 点		
		(6 0 点未満	あ場合は	再試験を	行う。	尚、i	再試験後の	D評価は試験規程に	よる。	
レホ ス)	一下の記	平価は 5:非済	引に優れく	いる 4:	優れている	5 3	:晋	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	この必要かあ
〔使用	教科書	書・教材等〕									
配布。	ノート、	関数電卓									
				授	業計画	画 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業	内容	(項目)			
0	1	荷重と応力									
0	1	せん断とひずみ									
0	1	疲労破壊									
0	1	熱ひずみ									
0	3	鉄の種類と特徴	7								
0	1	熱処理									
0	2	アルミニウム									
0	2	その他の金属とし	ノアメタル								
0	1	錆									
0	1	めっき									
0	4	引張試験									

		基本技術							専門課程	作成月	25/04/01
教	科	設計技術	日 開講期	 <u>前期</u>							
教科	担当										
実務総	圣験教員	製授業 該当	総時限	36時限	授業方 法	演	習	評価方 法	期末試験		
〔授業	概要・	目的〕			<u> </u>	I					
作り上	げた仕	様に対して製造	者が生産・	加工可能	な図面作	成を行	テえる	。 ようにする	0		
〔授業	の到達	[1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1] [1]									
·第三	.角法(よる表現が行え	る。								
·製造	するた	めの必要な指示	と仕様要す	えを満たすだ	ための図面	指示	が行	える。			
·CAT	IAにお	ける2Dオペレー:	ションが行え	こ る。							
〔学習	評価の)基準〕									
									・1 」の 5 段階で表れ		
5 : 格の#		X績優秀なもの	4:成績	艮のもの	3:成績	普通(かもの) 2:5	双績やや劣るもの 1	:成績特	に劣り、个台
		数の評価は 5	: 90 ~10	00点 4:	: 75 ~ 8	9点	3:	60 ~ 74	4点		
									の評価は試験規程に		
レホ る)	一下の詞	平価は 5:非済	引に優れく	いる 4:	優れている	5 3	:普	迪 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	日の必要かあ
	教科	書·教材等〕									
				授	業計画	11 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業	内容	(項目)			
0	1	CATIAの設定と	図枠の設定	Ē							
0	1	各線のコマンド・	拘束コマン	ドの使用法	Ė						
0	1	第三角法の理角	7 牛								
0	6	第三角法の図面	面表現								
0	1	寸法の図面指示	Ā								
0	5	断面図の表現									
0	1	製品のスケッチ									
0	4	製品の製図1									
0	1	普通公差の理解									
0	1	寸法公差の図面	指示								
0	2	はめあいの理解	と図面指示	.							
0	2	幾何公差の図面	指示								
0	2	表面粗さの図面	指示								
0	〇 2 溶接指示										
0	2	組立図の作成									

大教	£N 🖂	基本技術	小教科	CATIA-DR	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/0)1
八孔	14日	設計技術	目	CATIA-DR	为小多个形文	研究開発学科3年		<u>前期</u>	
				授 業 計 画 表				Νo.	2
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)				
0	2	工業製品図面の	D作成 2						
0	2	工業製品図面の	0作成3						

教	₹N	基本	技術	科目		ATIA-PD	т	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01
	1 -1	設計	技術	171	<i>C.</i>	AIIA-PD	1	为136小汉	研究開発学科3年	開講期	<u>前期</u>
教科	担当	菊地 浩	之(自動	動車研究開	発)						
実務網	Z験教員	授業	該当	総時限	44時限	授業方 法	実習・実 技	評価方法	期末試験		
〔授業	概要・	目的〕									
·CAT	IAによ	る初歩的	りなソリッ	ドモデリンク	jを習得す	る					
〔授業	の到達	目標〕									
・基礎	的なコ	マンドを係	吏用する	、簡単な用		リング手法	を理解出	来る。			
・与え	られた	条件下に	おけるソ	リッドモデル	の作成が	出来る。					
·作成	したソ	Jッドをアt	センブリし	、3次元に	おけるL/0)が出来る	0				
〔学習	評価の)基準〕									
各試縣	負点数	の基準、	レポート	評価及授	業の取り約	且みを総合	:して、「5・	4 · 3 · 2	・1 」の 5 段階で表れ	つす。	
5: 格のŧ		X稹慢秀	なもの	4: 成績	艮のもの	3: 成績	普通のもの) 2:E	成績やや劣るもの 1	:成績特	に劣り、不合
		数の評価	iは 5:	90 ~10)0点 4		9点 3:	60 ~ 74	4点		
			6	0 点未清	動場合は		行う。尚、蔣	再試験後6	か評価は試験規程に	よる。	
レホ- る)	一トの語	半価は !	5 : 非符	引に優れく	いる 4:	優れている	る 3:普	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	日の必要かあ
	教科書	i∙教材等	等〕								
CAD	利用技	術者試	 験3時限	ーーー ŀガイドブック	フ、CATIA	1					
						業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
0	1	3DCAD	の概要が	及びCATI	A環境の影	 设定					
0	1	スケッチ(二次元	空間)の使	用法						
0	1	スケッチ፯	空間にお	ける拘束の)手法						
0	1	パッド (ま	押出しコ	マンド)の係		 3Dモデルの	の作成				
0	1	ポケット・	エッジフィ	ィレットコマン	ンドの使用	法					
0	1	パッド・ポ	『ケット・ エ	ニッジフィレッ		ー 」た3Dモ	デルの作成				
0	1	シャフトニ	コマンドの	使用法							
0	1	円形パタ	ターンのほ	 使用法							
0	1	ホールコ	マンドの信	 吏用法							
0	1	シャフト・	円形パタ	ターン・ホー	ルを利用し	ンた3Dモデ	いの作成				
0	1	長方形り	パターンの	D使用法							
0	1	複雑なる	スケッチの	作成法							
0	1	ボス・フラ	シジ形物	犬の作成法							
0	1	長穴・正	六角形	コマンドの化	 吏用法						
0	1	ポケットの	D応用法	(開放プロ	 ファイルの(使用)					

大教	科目	基本技術	小教科	CATIA-PD I	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01
7(3)		設計技術	目	CATIATOT	V130/liX	研究開発学科3年	開講期	<u>前期</u>
				授業計画表				No. 2
実務経験	標準時限			授業内容	(項目)			
0	1	穴基準のモデリン	/グ法					
0	1	3次元空間上に	おける平面	j·点·線の概要				
0	1	3次元空間上に	おける平面	ī·点·線の使用法				
0	1	パッドの応用法(ガイドの利	用)				
0	1	ソリッドのミラーリン	ングの使用	法				
0	1	ミラーリングの応月	用(複雑な	形状作成の効率化)				
0	1	ローテーションの作	使用法					
0	1	ボルトナットにおり	けるねじ切り	の適用				
0	1	楕円の使用法						
0	1	アセンブリワーク^	ベンチにおけ	る基本操作				
0	1	アセンブリにおける	る拘束の使	用法				
0	1	アセンブリ 展開	と操作の使	用法				
0	1	アセンブリ 拘束	における6	自由度の概要				
0	1	ENGモデル用パ	ーツ ソリッ	ドの作成				
0	1	ENGモデル アセ	2ンブリの作	成				
0	2	パート・アッセンブ	リ 総合演	習				
0	1	3次元空間上ワ	イヤーフレ-	-ム作成のための各コマンドの使	用法			
0	2	3次元空間上に	おけるワイ	ヤーフレームの作成方法				
0	5	3次元空間上に	おけるワイ	ヤーフレーム 演習				
0	2	PDⅡ 総合演習	2					
0	2	期末試験						

									作成月	1
教	科	基本技術	科目	C.	ATIA-PD	I	対象級	専門課程		25/04/01
		設計技術						研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>
教科:	担当	菊地 浩之(自	動車研究開	開発)	授業方	実習・実				
実務組	E験教員	損授業 該当								
〔授業	概要・	目的〕								
·CAT	IAのソ	リッドモデリング(こおける応用	形状の作	成法を習	得する。				
〔授業	の到達	[目標]								
·基本	的なコ	マンドでは作成	できない形料	犬の作成カ	出来る。					
·3次5	元的な	ライン・線・面を	使用した形	伏の作成が	が出来る。					
·形状	仕様0	文章指示から	3D形状をイ	メージし、 [:]	モデリングカ	が出来る。				
〔学習	評価の)基準〕								
各試験	食点数	の基準、レポー	卜評価及授	業の取り約	且みを総合	iして、 「 5・	4 · 3 · 2	・1 」の5段階で表れ	つす。	
5: 格のŧ	-	X頼慢秀なもの	4:成績	艮のもの	3: 成績	普通のもの) 2:5	成績やや劣るもの I	:成績特	に劣り、个合
		数の評価は 5	: 90 ~10	00点 4	: 75 ~ 8	9点 3:	60 ~ 74	 4点		
			6 0 点未清	あ場合は	再試験を	行う。尚、拝	再試験後の	の評価は試験規程に	よる。	
レホ- る)	一下の記	平価は 5:非	吊に優れく	いる 4:	優れている	る 3:普	迪 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	じの必要かあ
	教科書	書・教材等〕								
CAD	利用技		 限ガイドブック	ל, CATIA						
				授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
0	2	クローズサーフェ	スを利用し	たソリッドモ [・]	デル作成法	去				
0	1	分割の使用法								
0	1	リブの使用法								
0	2	ブーリアン演算	の使用法							
0	2	マルチセクション	ソリッドの使	用法						
0	2	シェルの使用法	.							
0	1	総合演習								
0	1	期末試験								

教	E ST	基本	技術	科目	C	ATIA-PD	ш	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01
77/	IT	設計	技術	1711	C/		ш	V139(4)X	研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>
教科	担当	菊地 浩	吉之(自動	動車研究開	月発)						
実務経	経験教員	授業	該当	総時限	20時限	授業方 法	実習・実 技	評価方法	期末試験	i .	
〔授業	概要・	目的〕									
·過去	に学習	したCA	トトトAIT	レーション能	も	複雑な形	状の部品の	3Dモデル	作成能力を習得する	· .	
〔授業	の到達	目標〕									
·CAD	利用	支術者語	式験におり	ける図面問	題相当の	複雑な形	状モデルを	作成できる) o		
〔学習	評価の)基準〕									
		-							・1 」の 5 段階で表れ		
5 : 格のも		又積優柔	きなもの	4:	艮のもの	3:成績	普通のもの) 2:5	双額やや劣るもの I	:成績特	に劣り、不合
		数の評値	価は 5 :	90 ~10	00点 4:	75 ~ 8	9点 3:	60 ~ 74	1点		
			ϵ	50点未清	あ場合は	再試験を	行う。尚、暮	再試験後0	D評価は試験規程に	よる。	
レホ- る)	- トの詞	半価は	5 : 非语	引に優れく	いる 4:	優れている	3:凿	迪 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	日の必要かあ
	教科書	₫·教材	等〕								
CAD₹	训用技	術者試	験3時限	けイドブック	7、CATIA						
					授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
0	2	ブラケッ	卜部品の	作成							
0	1	ドラフト	とシェルの	応用							
0	1	R形状化	作成の応	用							
0	2	ブーリア	ン演算の	応用							
0	13	3Dモデ	リング総合	合演習							
0	1	期末試	験								

±/-	I.N	基本技術	1N 🗆	6	ATIA CC	į	++454元	専門課程	作成月 日	25/04/01
教	科	設計技術	科目	C	ATIA-GS	טי	対象級	研究開発学科3年	開講期	<u>前期</u>
教科	担当	菊地 浩之(自	動車研究開	開発)			<u>I</u>		<u> </u>	
実務網	圣験教員	到授業 該当	総時限	20時限	授業方 法	美閣·実 技	評価方法	期末試験	パート評値	<u> </u>
〔授業	概要・	目的〕			. //.	1 10	•			
·CAT	IA ジ	「ネレーティブシェ	イプデザイン	を使用した	こサーフェス	モデルの作	成法を習	得する		
〔授業	の到達	[目標]								
·与え	られた	条件下におけるテ	クニカルイ	ラストの作品	成が出来る	5.				
·与え	られた	条件下におけるサ	ーフェスモラ	デルの作成	が出来る。)				
〔学習	評価の)基準〕								
								・1 」の 5 段階で表れ		
5: 格のŧ		X頼優秀なもの	4:成績	艮のもの	3:	普通のもの) 2:E	双績やや劣るもの I	:成績特	に劣り、个合
各註	は しゅうしゅう しゅうしゅう はいしゅう はいし はいし はい	数の評価は 5	: 90 ~10	00点 4	: 75 ~ 8	9点 3:	60 ~ 74	4点		
								の評価は試験規程に	よる。	
レホ [.] る)	一トの語	半価は 5:非済	引に優れて	いる 4:	優れている	5 3:普	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	日の必要かあ
	教科書	書・教材等〕								
CAD	利用技	術者試験3時限	見ガイドブック	ל, CATIA	ı					
				授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
0	1	ワイヤーフレームゲ	作成に使用	月するコマン	/ドの使用:	法				
0	1	ワイヤーフレーム	の作成							
0	1	サーフェス作成に	使用する	コマンドの何	開法					
0	1	サーフェスコマンド	で利用した	き簡易モデ	ルの作成					
0	2	ダイス形状の作品	戓							
0	2	ランチプレート形	状の作成							
0	2	スポーツタイマー	形状の作品	戈						
0	2	電卓アウター形料	犬の作成							
0	2	スイープを利用し	た曲面形	状モデルの	作成					
0	2	複数セクションサ	・ ーフェスを和	別用した複	雑な曲面	形状モデル	の作成			
0	2	板金部品形状の	の作成							
0	1	GSD 総合演習	!							
0	1	期末試験								
									_	

教	科	基本技術	析 科目	∃ C	ATIA総合	演習	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01
17	1-1	設計技術				/A E	NI SOUN	研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>
教科	担当	菊地 浩之	(自動車研							
実務組	圣験教員	授業 該								
〔授業	概要・	目的〕								
3D T.	デルをテ	元にした2D図	図面化、及	び要求仕様・	生技性を	加味した指え	示法の定権	着を行う。		
〔授業	の到達	を								
·CAT	IAにお	ける3Dモデ	いからの20)図面化オペ	ノーションが	行える。				
・図面	表現」	上の過不足を	を認識し、個	修正が行える	•					
·要求	と生技	性を加味し	た適切な指	旨示が行える 。						
〔学習	評価の)基準〕								
								・1 」の 5 段階で表れ		
5: 格の#		X頼優秀なも	50) 4 : <i>f</i>		3: 成績	真普通のもの) 2:)	成績やや劣るもの 1	:成績特	に劣り、个合
		数の評価は	5:90 /	~100点 4	: 75 ~	89点 3:	60 ~ 7	4点		
			60点	未満の場合	は再試験を	で行う。尚、戸	再試験後(の評価は試験規程に	よる。	
レホ [.] る)	一下の語	半価は 5:	:非吊に優	れ(いる 4	:優れくい	る 3:普	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提は	出の必要かあ
	教科書	書·教材等〕								
				授	業計	画 表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
0	4	3D→2D⊠	面化のオク	ペレーション						
0	2	初級レベル	工業製品の	か3Dモデル→	2D図面作	■成				
0	4	中級レベル	工業製品の	カ3Dモデル→	2D図面作	■成				
0	4	複雑な工業	美製品の30	Dモデル→2D	図面作成					
,										

教	科	実習	科目	C	ATIA-CA	\F	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
37.		総合技術		研究開発)					開講期	<u>後期</u>
実務経験教員授業 該当 総時限 24時限 授業方法 実習・実技 評価方法 期末試験・ポート評価 [授業概要・目的]										
〔授業	概要・	目的〕								
作成し	たCA	TIAモデルについ	て、使用環	境で発生	する応力・	変位、及び	/動作を解	析する手法を習得す	⁻ る	
〔授業	の到達	目標〕								
·解析	に必要	とな知識を習得す	する							
·単品	モデル	について、各種角	解析方法を	習得する						
・アッセ	ンブリ-	-モデルの拘束及	ひ各種解	析方法を	習得する					
〔学習	評価の)基準〕								
試験。	気数、し	ノポート評価、及	び授業の耳	切組み姿	勢を総合し	して、「5・	4 · 3 · 2	・1]の 5 段階で表わ	す	
5:特	に成績	優秀なもの 4:成	績良のもの	3:成績普遍		:成績やや劣	るもの 1:	成績特に劣り、不合格の	ちの	
試験,	点数の評	平価は 5:90~10	00点 4:75	5~89点 3	: 60~74 <u>£</u>	点 60点未満	の場合は再	試験を行う。尚、再試験	後の評価は試	験規程による。
レポー	トの評値	価は 5:非常に優れ	にいる 4:f	憂れている 3	3:普通 2	: やや劣る	1:劣る(要再提出)		
〔実務	経験の	かる教員による	授業〕							
		開発設計者として 的に指導し授業		有る教員が	、経験を活	かして解析	モテルの作品	成、境界条件の与え方	において、現	実的な条件設
		<u>でいて重奏の技業</u> 選定により、実務		る応用力を	 身につける					
〔使用	教科書	 書・教材等〕								
				授	業 計 画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)		ı	
0	1	導入·CAE基礎	生知識							
0	5	単品モデル解析	ŕ							
0	4	レポート作成(———— 単品モデル	解析)						
0	2	アッセンブリー解	———— 析							
0	2	振動解析								
0	4	レポート作成(アッセンブリ	 -解析、振	 動解析)					
0	2	3 Dワイヤリング	ì							
0	2	キネマティクス								
0	2	 レポート作成(3 Dワイヤ	 リング、キネ	ベマティクス)				

	: I M	基本技術	1N 🖂	,	/= #E\# >	<u> </u>	44 <i>6</i> 7.60	専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	制御技術	科目	1	信頼性工学	学	対象級	研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>
教科	担当	松永淳(自動車	■研究開発 ■研究開発	5)				I	<u> </u>	
実務網	圣験教員	見授業 該当	総時限	20時限	授業方法	講義	評価方法	期末試験	ポート評値	取組加減
授業	概要·	目的〕			•					
開発	時にお	こう おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	言頼性の影	設計反映□]ジックを習	得する。				
仕楨	の性能	じ・信頼性を解析	評価するロ]ジックを習	得する。					
授業	の到達	全目標〕								
製品	におけ	る品質の重要性	を理解し、	物造りをす	する上で品	質に対して	意識できる	5.		
性能	、信頼	質性の要求仕様を	検討できる	3 .						
仕椁	の性能	ドと信頼性の妥当	単及び物	理現象の	メカニズムな	を証明する	ための解析	f評価プロセスを理解	し、実行で	きる。
学習	評価の	D基準〕								
式験 ,	点数、l	レポート評価、及	び授業の耳	切組み姿	勢を総合	ل ر √ [5 •	4 · 3 · 2	・1 」の 5 段階で表れ) j	
5:特	持に成績	優秀なもの 4:成	績良のもの :	3:成績普遍	通のもの 2:	: 成績やや劣	Sるもの 1:	成績特に劣り、不合格の	もの	
試験	点数の診	平価は 5:90~10	00点 4:75	5~89点 3	: 60~74,	点 60点未満	あ場合は再	試験を行う。尚、再試験を	後の評価は試	験規程による。
レポー	トの評値	画は 5:非常に優れ	ている 4:何	憂れている 3	3:普通 2	: やや劣る	1:劣る(要再提出)		
実務	経験の	のある教員による打	· 会業 J							
			X X)							
自重	車開?	 発現場で実務経		対員が、開	発現場で	必要な作業	業方法・知	識について、		
		発現場で実務経 を活かしてより実趾	験のある教			必要な作業	業方法・知	識について、		
実務	S経験 [®]		験のある教			必要な作業	業方法・知	識について、		
実務	S経験 [®]	を活かしてより実置	験のある教			必要な作う	業方法・知	哉について、		
実務	S経験 [®]	を活かしてより実置	験のある教	注指導し授			業方法・知	哉について、		No. 1
使用	S経験 [®]	を活かしてより実置	験のある教	注指導し授	業を行う			哉について、		No. 1
使用	系経験 引教科書	を活かしてより実置	験のある教	注指導し授	業を行う	画 表		哉について、		No. 1
使用	系経験 引教科書	を活かしてより実践書・教材等〕	験のある教	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務 使用	系経験。 財教科書	を活かしてより実置書・教材等〕 書・教材等〕 授業概要解説	験のある教	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務 使用	系経験標準時限11	を活かしてより実置書・教材等〕 書・教材等〕 授業概要解説 FTA	験のある教	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務経験〇〇〇		を活かしてより実置 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践	験のある教	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務使用	所名を検える「根準時限」142	を活かしてより実置 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA	践的内容を	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務経験	所名 素 素 素 素 素 素 は ま も に は は は は は は は は は は は は は	を活かしてより実践 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA	験のある教養的内容を	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務経験〇〇〇〇〇	所経験 教科 1 1 4 2 4 2	を活かしてより実践 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA FMEA EMEA実践	験のある教養的内容を	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務経験 〇〇〇〇〇	所名を検えるお料できるお料できる1424211	を活かしてより実践 書・教材等) 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA FMEA実践 直列と並列のシ	験のある教 浅的内容を ステム 'ヒ	注指導し授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務経験 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	所名を検えるお料できるお料できる1424211	を活かしてより実践 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA FMEA実践 直列と並列のシ システムの構造イ フールプルーフ	験のある教 浅的内容を ステム ヒ	授	業を行う	画 表		識について、		No. 1
実務 使用	所名を検えるお名を持たるお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するお名を表するおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまるおとまる<li< td=""><td>を活かしてより実置 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA 「EMEA」 直列と並列のシ システムの構造イ フールプルーフ 故障と減衰曲約</td><td>験のある教 浅的内容を ステム ヒ</td><td>授</td><td>業を行う</td><td>画 表</td><td></td><td>識について、</td><td></td><td>No. 1</td></li<>	を活かしてより実置 書・教材等〕 授業概要解説 FTA FTA実践 FMEA 「EMEA」 直列と並列のシ システムの構造イ フールプルーフ 故障と減衰曲約	験のある教 浅的内容を ステム ヒ	授	業を行う	画 表		識について、		No. 1

±4-	IN.	基本	技術	±N □	æ	ケ雨フサ	T##	ነ ተ ረጉ (π	専門課程	作成月日	25/04/01
教	制御技術 教科担当 塚越琢也			科目	Ħ	気電子基	啶	対象級	研究開発学科3年	開講期	前期
教科	担当	塚越琢	也								
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限	22時限	授業方法	実習·実技	評価方法	期末試験		取組加減
授業	概要・	目的〕	•						•		
電気,	電子音	『品の構	造と機能	を講義と実	実習で理解	解する					
授業	の到達	を目標〕									
抵抗	、コンラ	デンサー、	コイル等	の線形部	品(受動	部品) の	構造、機能	(、特性を理	里解できる		
ダイオ	tード、	トランジス	スタ等の非	F線形部品	己(能動 音	部品)の構	講造、機能	、特性を理	解できる		
·LE	Dの点	对回路	ら、トランシ	ジスタのスイ	ッチ回路等	等の簡単な	回路設計	・製作がで	きる		
(学習	評価の)基準〕									
各試馬	検点数	の基準、	レポート	評価及授	業の取り糾	目みを総合	して、「5・	4 · 3 · 2	・1]の5段階で表稿	りす。	
5:	特に成	績優秀な	きの 4	:成績良の	もの 3:	成績普通の	かもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績特	まに劣り、不合	合格のもの
各試 馬	検点数	の評価は	t 5 : 9	90 ~100	点 4:	75 ~ 89	点 3:6	$50 \sim 74$ g	点		
60点	未満	の場合は	は再試験	を行う。尚	、再試験征	後の評価は	は試験規程	ピによる。			
使用	教科書	書・教材	等〕								
				う各種工具	具、電子部	品					
				う各種工具		品業計画	画 表				No. 1
プリント				う各種工具		業計画	画 表 授業内容	(項目)			No. 1
プリント I	資料 標準時限		付けに伴	う各種工具		業計画		(項目)			No. 1
プリント I	資料 標準時限 1	、はんだの	付けに伴	5各種工具	授	業計画	授業内容	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1	、はんだん 授業概 オームの はんだん	けけに伴 要説明 な法則、電けけ練習]圧、電流	授、抵抗、電	業計画	授業内容	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1	、はんだん 授業概 オームの はんだん	けけに伴 要説明 な法則、電けけ練習		授、抵抗、電	業計画	授業内容	(項目)			No. 1
プリント	資料標準時限11111	授業概 オームの はんだ付 電線、と カシメ、;	付けに伴 要説明 法則、電 けけ練習 ニューズ設 カシメ実習	記圧、電流 計、ヒュー)	授、抵抗、電	業計画	授業内容	(項目)			No. 1
プリント	資料標準時限11111	授業概 オームの はんだ付 電線、と カシメ、;	付けに伴 要説明 か法則、電けけ練習 ニューズ設	記圧、電流 計、ヒュー)	授、抵抗、電	業計画	授業内容	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 オームの はんだ作 電線、と カシメ、; ハーネス コンデン	付けに伴要説明 を対け練習 こユーズ設 かシメ実習 設計、防サ、抵抗	記圧、電流計、ヒュー:35水、ダイオート	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ [、] (LED、	業計画動力、電力	授業内容量	(項目)			No. 1
	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 オームの はんだ作 電線、と カシメ、; ハーネス コンデン LED点	付けに伴要説明を法則、電けけ練習にユーズ設かシメ実習を設計、防サ、抵抗りに関係	配圧、電流計、ヒュー当5水	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ [、] (LED、	業計画動力、電力	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 オームの はんだ付電線、と カシメ、; ハーネス コンデン LED元	付けに伴要説明を法則を受けれる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	記圧、電流計、ヒューう水、ダイオートF成、ブレッ	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ [、] (LED、	業計画動力、電力	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	資料標準時限11111111	授業概 オームの はんだれ 電線、と カシメ、、 ス コンデン LEDアル トランジ	付けに伴要説明。 要法則練ズまい。 か設計抵路が サ、回点が スタ、FET	③圧、電流 計、ヒュー: 当 う水 、ダイオート F成、ブレッ	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、(LED、 バボードの	業計画型力、電力 動限抵抗利用	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	資料標準時限11111111	授業概 オームの はんだれ 電線、と カシメ、、 ス コンデン LEDアル トランジ	付けに伴要説明。 要法則練ズまい。 か設計抵路が サ、回点が スタ、FET	記圧、電流計、ヒューう水、ダイオートF成、ブレッ	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、(LED、 バボードの	業計画型力、電力 動限抵抗利用	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	資料標準時限11111111	授業概 オームの はんだれ 電線、と カシメ、、 コンデン LED 戸に トランジ	付けに伴要説明。まは、まない。まないでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	③圧、電流 計、ヒュー: 当 う水 、ダイオート F成、ブレッ	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、(LED、 バボードの レIC、IMU	業計画 動力、電力 計限抵抗 利用	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 オームの はんだれ 電線、と カシメネス コンデ点 LEDアル シリレー 流 電	付けに伴要法がは、サリススンと源は、対は、アンドのでは、アンドのでは、アンドのでは、アロックでは、アロッでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロッでは、アロッでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロックでは、アロッではでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッではでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッでは、アロッではでは、アロッでは、アロッでは、アロッではでは、アロッではでは、アロッではでは、アロッではではないではではないではではないではではではではではではではではではではでは	記圧、電流 計、ヒュー 対水 、ダイオート F成、ブレッ 「 種(ホー) 間用したLE 電源	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、(LED、 バボードの レIC、IMU	業計画 動力、電力 計限抵抗 利用	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 オームの はんだれ 電線、と カシメネス コンデ点 LEDアル シリレー 流 電	付けに伴要説明。まは練えまり、回点がより、回点があり、回点があり、していますが、これは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	記圧、電流 計、ヒュー 対水 、ダイオート F成、ブレッ 「 種(ホー) 間用したLE 電源	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、(LED、 バボードの レIC、IMU	業計画 動力、電力 計限抵抗 利用	授業内容量	(項目)			No. 1
プリント	標準時限 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業概 はんだれ 電かシメネ コンデ点 LEDアル SW、は コイルと	付けに伴要法けてユシシサケイスンと源した。おいまれては、アンドのは、アランとででは、アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・アラン・	記圧、電流 計、ヒュー 対水 、ダイオート F成、ブレッ 「 種(ホー) 間用したLE 電源	授 、抵抗、電 ズ溶断デモ 、 (LED、 ルドボードの レIC、IMU ED点滅回	業計画 動力、電力 計限抵抗 利用	授業内容量	(項目)			No. 1

教	∓ N	基本技術	科目	命生命で甘林	対象級	専門課程	作成月日	25/04/	01
叙	Т 1	制御技術	竹井日	電気電子基礎	为以多个形义	研究開発学科3年	開講期	前期	
				授業計画表				Νo.	2
実務経験	標準時限			授業内	容(項目)				
	1	バッテリ(鉛、LI	B、構造、i	取扱)					
	1	モータの種類と特	推						
	1	モータの種類と特	推						
	1	電子部品の破壊	長モードと対	l策					
	2	期末試験前 振	り返り						

			1 1 1 7 15=												
教和	纠	基2	本技術	科目	アノ	レゴリズム基	基礎		対象級	専門課程	作成月日	25/04/01			
		制征	卸技術							研究開発学科3年	開講期	通期			
教科技	旦当	根本貢	Ī			_	•								
実務経	験教員	授業	非該当	総時限	48時限	授業方法	演	習	評価方法	期末試験	È	取組加減			
〔授業権	概要・	目的〕													
アルゴリ	Jズム ^を	理解し	ノ、フローチ	ヤートの作	成からC割	言語でのブ	゚ログラ.	ム作	成を行う事	₹ で					
プログラ	うムを化	作成する	るために必	要となる基	本を理解	する									
〔授業は	〔授業の到達目標〕 基本的な処理手順を理解したうえで、配列を利用したアルブリズムを理解できる														
基本的	基本的な処理手順を理解したうえで、配列を利用したアルゴリズムを理解できる 作成したフローチャートを基に、C 言語でプログラムが作成できる														
作成し	作成したフローチャートを基に、C言語でプログラムが作成できる														
状態遷	大態遷移図の考え方を理解できる														
〔学習	学習評価の基準)														
期末証	月末試験及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。														
	末試験及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、小合 3のもの														
〔使用	教科書	書・教材	 排 〕												
教科書	書:明	 快入門	ー 『C スーパ	ービギナー	編 教材	t : 「GCC	Deve	lop	er Lite」を	 :インストールした個人	パソコン				
					———— 授	業計画	画 表					No. 1			
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)						
	1	授業の	進め方、	広義でのア	ツルゴリズム	とは									
	3	普段の	生活の中	っでのアルゴ	リズムを考	える									
	2	コンピニ	1ータを意	哉したアルコ	ゴリズムをき	きえる									
	9	応用的	タなアルゴ	リズムを考え	 える										
	5	配列の		 知る											
	2	C言語	 吾の概要と	プログラミン											
	3	C言語	吾を使った	データの入っ	出力を伴う	ラプログラム	の作成								
	14	基本的	ーーーー りなプログ !		 する										
	2	関数の)使い方												
	3	C言語	吾での配列	 Jの扱い方 [;]	 を知る										
	4	状態透	圏移図の者	きえ方を知る	 る										

教	科	基本技術	科目	桦林	设計材料が	カ学 I		対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01				
3/	11	設計技術	711	1/20 1/2012	71 100 100	<i>,</i> , ,		VINOCEN.	研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>				
教科	担当	大柿政彦(自動	動車研究開	発)	+11/**										
実務網	圣験教員	授業 該当	総時限	20時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	ポート評価	5				
〔授業	概要・	目的〕													
・自動	車やオ	ートバイ、ロボット	等の基本	的な機械	要素を理解	解し、	材料	力学の基礎	楚である応力の概念を	を学ぶ。					
〔授業	授業の到達目標〕 機械要素の中のボルト、ナット、リンク、歯車等の基本的な原理・構造・設計上や使用上の注意などが理解できる。														
・機械	要素(つ中のボルト、ナッ	小、リンク、	歯車等の	基本的な	原理・	構造	・設計上や	ゆ使用上の注意などだ	「理解できる	3.				
・材料	材料にかかる応力の概念が理解でき、関数電卓を使って計算ができる。														
〔学習	学習評価の基準〕														
		数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 - 成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、小台													
5 : 格のŧ															
各証	試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点														
									D評価は試験規程に						
レホ る)	− ト の	平価は 5:非治	吊に優れし	いる 4:	慢れてい	ර 3	:晋		: やや劣る 1:劣	る(再提は	出の必要かめ				
〔使用	教科書	書·教材等〕													
配布。	ノート、	関数電卓													
				授	業計画	画 表					No. 1				
実務経験	標準時限					授業	内容	(項目)							
0	1	本授業の概略語	兑明とよく用	いられるキ	リシャ文字	Z									
0	1	関数電卓の使い	が方												
0	1	公差を含む計算													
0	1	軸													
0	1	+ -													
0	1	スプラインとセレ-	ーション												
0	2	軸受													
0	2	歯車													
0	1	荷重と応力													
0	1	せん断													
0	1	ひずみ													
0	1	キー設計													
0	2	チェーン													
0	1	ねじの強度													
0	1	軸強度													
0	2	縦弾性係数		<u></u>				<u> </u>		<u> </u>					

±2/-	1N	基本技術 料目 機械設計材料力学 1							→ + <i>6</i> 7. ¢π	専門課程	作成月 日	25/04/01			
教	什	設計	技術	竹日	饿灺。	支計材料人	J子 Ⅱ		対象級	研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>			
教科	担当	大柿政府	彦(自動	車研究開	発)										
実務約	圣験教員	授業	該当	総時限	20時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	ポート評価	5			
〔授業	概要・	目的〕													
・自動	車やオ	トバイー	、ロボット	等の基本	的な機械	要素を理角	罕し、木	才料:	力学の基礎	楚である応力の基本を	学ぶ。				
〔授業	〔授業の到達目標〕 ・機械要素の中のボルト、ナット、リンク、歯車等の基本的な原理・構造・設計上や使用上の注意などが理解できる。														
・機械															
・材料	・材料にかかる応力の概念が理解でき、関数電卓を使って計算ができる。														
	(学習=17年の甘港)														
〔学習	(学習評価の基準)														
	各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合														
	5:特に成績慢秀なもの 4:成績艮のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合 Aのもの														
各註	各のもの 各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~ 89点 3:60~ 74点														
1275	_ ► (∩≣					再試験を優れている				D評価は試験規程に :やや劣る 1:第		ヒハルス聖かる			
る)	1.07	тши	J . 7FH	っに後110	י ד נייט .	後生しいで	ر ر	· н			の (13)近に	U○元·安/J·0/			
〔使用	教科	≛·教材≨	等〕												
配布。	ノート、	関数電写	卓 ———								1				
					授 	業計画						No. 1			
実務経験	標準時限						授業	内容	(項目)						
0		表面性													
0			ノーキ計算	^算 											
0		位置決													
0		軸受の位		~ \23 											
0			ベアリング <i>0</i>)選正											
0		フレーキ													
0		荷重計算													
0		寿命計算軸受選別													
0 (THI DUDグ													
0 0			が選正 アールの選	定											
		ハイルン	— 70 00医												

			ī	1				1		//EEG 14				
教	私	基本技術	科目		金型 I			対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01			
扒	17	設計技術	140		<u>т</u> ± 1				研究開発学科3年	開講期	<u>前期</u>			
教科	担当	大柿政彦(自	動車研究開	発)										
実務網	圣験教員	損授業 該当	総時限	20時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	ポート評値	<u> </u>			
〔授業	概要・	目的〕												
・金型	の基本	概念を学ぶ												
・実際	に自動	車やオートバイ	、パワープロ	ダクツの部	品に使われ	てい	る例り	や種類、特	徴や注意点を学ぶ					
〔授業	の到達	目標〕												
·金型	の種類	質や特徴、注意	点が理解で	きる										
・実際	の部品	品を見れば、大ま	かな製法や	型割につい	ハて説明で	きる								
〔学習	評価の)基準〕												
5: 格の#		双績慢秀なもの 4:成績艮のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、个合												
		D 												
			6 0 点未清	ある場合は	再試験を	行う。	尚、Ā	再試験後0	D評価は試験規程に	よる。				
レホ· る)	一下の詞	平価は 5:非	吊に優れく	いる 4:	優れている	5 3	:普	迪 2	: やや劣る 1:劣	る(再提は	出の必要かあ			
	教科書	書・教材等〕												
配布ノ	ノート、	関数電卓												
				授	業計画	1 表					No. 1			
実務経験	標準時限					授業	内容	(項目)						
0	2	金型とは												
0	4	プレス加工												
0	3	鋳造加工												
0	3	鋳造加工												
0	3	ダイカスト型												
0	2	鍛造												
0	1	鋳造・鍛造・プ	ノス/押出	材										
0	1	プラスチック												
0	1	射出成形												

业		基本技術						専門課程	作成月	25/04/01
致	科	加工技術	科目	ŧ	幾械加工〕	I	対象級	研究開発学科3年	開講期	 通期
教科	担当	保家茂則 和泉		3歩(自動	加車研究開	発)				
実務網	圣験教員	具授業 該当	総時限	60時限	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験	レポート評値	取組加減
授業	概要・	目的〕	<u>I</u>			I				
機械	加工	去における安全作	業を体得す	する。						
加工	法の基	基本(切削、穴は	が、研磨、	切断等)	を体験す	る。				
機械	切削0	の基本理論を理解	解する。							
設計	図面値	作成の留意点と林	オ料特性の	理解を促	進する。					
ハンド	・ツール	則定器機や3次元	測定機を使	うた計測技	技術の体験を	を通じ、幾何	可公差や計	則の留意点の理解を促	足進する。	
授業	の到達	全目標〕								
基本	的な多	安全作業を理解し	J、自ら実行	うできるよう	うにする					
旋盤	の基本	ト操作が出来る	(段取り、コ	E具の取り	付け、精度	度を追求し	た外径旋筒	削、内径旋削)		
フライ	ノ盤の)基本操作が出来	たる (段取	り、工具の	D取り付け、	、精度を追	退求した凹と	3加工)		
NC.	プライス	盤、NC旋盤のプ	ログラムの基	基礎が理角	解出来る					
学習	評価の	の基準〕								
子試	験点数	の基準、レポート	評価及授	業の取り組	且みを総合	して、「5	.4.3.2	・1 」の5段階で表	わす。	
5:	特に成	績優秀なもの 4	:成績良の	もの 3:	成績普通の	のもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績特	寺に劣り、不合	合格のもの
各訂	大験点	*4の歌猫は 6								
	0.35 171113		$: 90 \sim 10$	0点 4	: 75 ~ 8	9点 3:	$60 \sim 74$	4点		
	V-32 (711)							4点 D評価は試験規程に	こよる。	
レポ-		(5 0 点未満	あ場合は	ままま はままま ままま ままま ままま はっぱい はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はいま はいま しゅう はいま しゅう はいま しゅう はいま しゅう はいま しゅう	行う。尚、	再試験後の			 ある)
	-トの評	(5 0 点未満	あ場合は	ままま はままま ままま ままま ままま はっぱい はっぱい はんしょう はんしょう はいしょう はいま	行う。尚、	再試験後の	の評価は試験規程は		53)
使用	-トの評 教科	(価は 5:非常に	5 0 点未満	あ場合は	ままま はままま ままま ままま ままま はっぱい はっぱい はんしょう はんしょう はいしょう はいま	行う。尚、	再試験後の	の評価は試験規程は		5 る)
使用	-トの評 教科	で価は 5:非常で 書・教材等〕	5 0 点未満	も : 優れ	ままま はままま ままま ままま ままま はっぱい はっぱい はんしょう はんしょう はいしょう はいま	行う。尚、:	再試験後の	の評価は試験規程は		5る) No. 1
使用记布。	-トの評 教科 リート、	で価は 5:非常で 書・教材等〕	5 0 点未満	も : 優れ	ま再試験を3にいる 3	行う。尚、:	再試験後(の評価は試験規程は		
使用 己布。	-トの評 教科 リート、	で価は 5:非常で 書・教材等〕	60点未満に優れている	も 4:優れ 授	で にいる 3 業計 画	行う。尚、 : 普 通 画 表 授業内容	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 合布 / 高級	一トの評別教科電	で価は 5:非常に 書・教材等〕 関数電卓	6 0 点未満 で優れている	が 4:優れ 授	注再試験を なている 3 業計 画 の配布、安	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 合	ートの評 引教科 リート、 標準時限 1 1	で価は 5:非常で 書・教材等) 関数電卓 実習授業の位置	6 0 点未満で優れている でいます できます できます できます できます できます できます ひまま ひまま ひまま ひまま しいた加工	が場合は 4:優れ 授 業準備物 (ノギス/ス	注再試験を なている 3 業計 画 の配布、安	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 记布 .	ートの評 引教科 リート、 標準時限 1 1	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置	6 0 点未満 で優れている 置付け、授動 いた加工 の安全教育	が場合は 4:優れ 授 業準備物の (ノギス/ス 育	注再試験を なている 3 業計 画 の配布、安	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用記布。	ートの評 別教科 リート、 標準時限 1 1 2	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置 ハンドツールを用 旋盤・フライス盤	6 0 点未満 優れている 置付け、授動 いた加工 の安全教育 取り扱い方	が場合は 4:優れ 授 業準備物の (ノギス/ス 育 法	ま再試験を れている 3 業計 画 の配布、安 ケール名育	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 记布。 〇 〇 〇	ートの評 対科 ボット、 標準時限 1 1 2 1	# (5 0 点未満 で優れている 置付け、授動 いた加工 の安全教育 取り扱い方 とフライス盤	が 4:優れ 投 業準備物 (ノギス/ス 育 法 の取り扱い	ま再試験を れている 3 業計 画 の配布、安 ケール名育	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 記布。 〇 〇 〇 〇 〇	ートの評 引教科書 ノート、 標準時限 1 1 2 1 1 2	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置 ハンドツールを用 旋盤・フライス盤 帯鋸盤・旋盤の バイス平行出しる	6 0 点未満 優れている 動け、授 いた加工 の安全教育 取り扱い方 とフライス盤 の取り扱い	が場合は 4:優れ 授 業準備物 (ノギス/ス 育 法 の取り扱い 方法	東武験を記ている 3 業計 画の配布、安ケール名前	行う。尚、 : 普 通 国 表 授業内容 で全教育の	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用记布。	ートの評 引教科書 ノート、 標準時限 1 1 2 1 1 2	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置 ハンドツールを用 旋盤・フライス盤 帯鋸盤・旋盤の バイス平行出しる 旋盤・フライス盤	6 0 点未満 優れている 電付け、授 いた加工 の安全教育 取り扱い方 とフライス盤 の取り扱い 面体加工方	が場合は 4:優れ 授 業準備物 (ノギス/ス 育 法 の取り扱い 方法 が法の説明	東武験を記ている 3 業計 画の配布、安ケール名前	行う。尚、 : 普 通 画 表 授業内容 で全教育の が書き)	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用。	ートの評 引教科書 ノート、 標準時限 1 1 2 1 1 2	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置 ハンドツールを用 旋盤・フライス盤 帯鋸盤・旋盤の バイス平行出しる 旋盤・フライス盤 ボルトナット・六面	60点未満 優れている 個付け、授証 いた加工 の安全教育 取り扱い方 とフライス盤 の取り扱い 面体加工方	# 1	東武験を にいる 3 業計 画 の配布、安 ケール名前 い方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	行う。尚、 :普 通 表 授業内容 で全教育の 前書き)	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		
使用 ②	ートの評 引教科書 ノート、 標準時限 1 1 2 1 1 2 16 16 4	#・教材等〕 関数電卓 実習授業の位置 ハンドツールを用 旋盤・フライス盤 ボルトナット・六面 軸・形状嵌めあり	60点未満で優れている で優れている では、授いたかが、では、 の安全教育を 取り扱い方 とフライス盤の取り扱い 面体かができる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	# の場合は 4 : 優和 授 学 # 備物 (ノギス/ス 育 活法の取り扱い 方法の説明 では、おいまでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	#再試験を はている 3 業計 画 の配布、安 ケール名前 か方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	行う。尚、 :普 通 授業 内容 (計書き)	再試験後(2:やや)	の評価は試験規程は		

教	科	基本技術	科目	機械加工 I	対象級	専門課程	作成月	25/04/0	1
		加工技術		授業計画表		研究開発学科3年	開講期	<u>通期</u> No. 2	2
実務経験	煙進時限				(頂目)			110. 2	
0		ドリル固定サイク	 ル	12A 10	(-)(1)				
0		CAM							
0	2	バイス平行出し	確認テス	<u> </u>					

*41	教科	基本	卜技術	科目	7.	(コン制御基	主 [林	计色织	専門課程		作成月日	25/04/01			
30.1	14	制御	即技術	竹田	Y 1	一コン市が出る	圣 (疋	対象級	研究開発学科	斗3年	開講期	後期			
教科	担当	塚越琢	他								•				
実務経	E 験教員	授業	非該当	総時限	30時限	授業方法	実習·実技	評価方法	斯	末試験		取組加減			
〔授業	概要・	目的〕													
・マイコン	ンの基準	本機能、	使い方を	理解させる											
・組み込	込みプロ]グラムに	こより、LED	の点灯制御	即やモーター	制御する									
〔授業	の到達	目標〕													
マイコン	マイコンの機能が理解でき、C 言語でプログラミングができる。 ポートの入出力、A/Dコンバーター、PWM制御、割り込み機能、シリアル通信機能を使ったプログラムを組めるようになる														
ポートの	ポートの入出力、A/Dコンバーター、PWM制御、割り込み機能、シリアル通信機能を使ったプログラムを組めるようになる 〔学習評価の基準〕														
〔学習評価の基準〕 各試験占数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。															
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの															
5:4	5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 各試験占数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点														
各試験	各試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点														
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。															
〔使用	教科書	書・教材	等〕												
ノートP	C、授美	業用マイ	コンボード												
1	授業計画表 No. 1														
実務経験							授業内容	(項目)							
				·環境構築											
				《一卜出力 			<u> </u>								
				Ⅴ状態読み)								
				っに応じたし											
				ホールIC、 に応じた条											
				と心した条件 &ADC&S		:11111									
				外部SW)		·1)/H1)									
			ル通信概要		'										
				ヹ ンリアルモニ	夕)										
				2C、SPI)	- /										
				画面へシリス	アル诵信で	·出力)									
	2			=====================================											
			゚ヷォッチの		· · · ·	•									
			タイマーの												
			向けた練												
		期末テ													

±4-	教科	基本	卜技術	4 N □	-	/コン 生は佐田ご		51 677	専門課程	作成月日	25/04/01
教	科	制御	即技術	科目	۲1	イコン制御点	心用	対象級	研究開発学科3年	開講期	後期
教科	担当	塚越琢	他								
実務網	圣験教員	授業	非該当	総時限	20時限	授業方法	実習·実技	評価方法	期末試		取組加減
〔授業	概要・	目的〕									
マンサ-	-の入力	りを元に	モータを駆	動制御する	プログラムを	作成し、ラ	イントレース	を行う事で制	制御を体得する		
授業	の到達	目標〕									
O-NC	FF制御	を使って	てライントレ	ースする							
制御	を使って	ライント	レースする								
PD制	御を使	うてライ	′ントレース	はする							
学習	評価の)基準〕									
各試馬	検点数	の基準	、レポート	評価及授	業の取り	且みを総合	·して、「 5 ·	4 · 3 · 2	・1 」の5段階で表		
5:	特に成	績優秀	なもの 4	:成績良の	もの 3:	成績普通の	のもの 2	:成績やや	劣るもの 1:成績	特に劣り、不合	合格のもの
各試馬	倹点数	の評価	は 5:9	90 ~100	点 4:	75 ~ 89	点 3:6	$50 \sim 74$	<u></u>		
60분	未満	の場合	は再試験	を行う。尚	、再試験征	後の評価は	は試験規程	 ここここ。			
使用	教科書	書・教材	等〕								
/- 	C、マイ	コンボー	・ド、ライント	レース実習	用車両、西	己布資料					
					授	業計画	画 表				No. 1
€務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
	1	マイコン	制御応用	月授業概要	要説明						
	1	Arduii	no開発環	環境構築、	プログラム	書き込み実	《行				
	1	各種A	rduino(Z	使用される	構文説明	月					
	2	シリアル	通信によ	るPCとのテ	一夕通信						
	1	PID制	御とは								
	2	Arduii	noモータ馬	沤動基板 1	説明、製作	乍					
	2	Arduii	noセンサ-	-入力基板	説明、	製作					
	1	フォトト	ランジスタ	を用いた白	黒判別原	理					
	1			よるライン	トレース						
	1		往復する								
				走行するブ							
				スに対応す							
	1	分岐と	交差を含	むコースに	対応するフ	プログラム					
				「イントレー)							
				:ライントレ·	-ス						
			ースタイム	アタック							
	1	確認テ	スト								

教	科	基本技術	私	斗目	部	品開発演	習		対象級	専門課程	作成月日	25/04/01		
		設計技術								研究開発学科3年	開講期	<u>後期</u>		
教科	担当	松永淳(自	動車研	究開発)	授業方	T		評価方					
	E験教員	200	当総	時限	72時限	法	演	習	法	期末試験	ポート評価	取組加減		
〔授業	概要・	目的〕												
部品開	乳発を	テーマに製造	業におけ	お製品	開発のた	めのフロー	・ロジ	ック・勧	見点の習得	景を行う				
〔授業	「授業の到達目標」 ・上位要求を元に製品化を行える													
·上位	・上位要求を元に製品化を行える 													
·根拠	・根拠,ロジックを元に仕様の検討及び妥当性の証明が行える 													
·生技	・生技性を加味した図面の作成が行える													
〔学習	学習評価の基準〕													
試験点	式験点数、レポート評価、及び授業の取り組み姿勢を総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす													
5:特	5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの													
試験。	5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの 試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。													
レポー	トの評値	西は 5:非常に	優れている	る 4:個	憂れている 3	3:普通 2	: ## ?	劣る	1:劣る(要再提出)				
〔実務	経験0	かある教員に	よる授業)										
自動	車開	発現場で実施	務経験の	ある教	(員が、開	発現場でよ	必要な	作業	f方法・知	識について、				
実務	経験	を活かしてより)実践的	内容を	指導し授	業を行う								
〔使用	教科書	書·教材等〕												
					授	業計画	画 表					No. 1		
実務経験	標準時限						授業	内容	(項目)		_			
0	1	授業概要解	幹説											
0	9	仕様検討												
0	12	詳細設計												
0	10	図面作成												
0	20	部品加工・	製作											
0	6	寸法検査・	組付け性	推認										
0	10	機能性評価	<u> </u>											
0	4	レポート作品												

教	科	一般 科目			Ę	思考法基礎	* E		対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
										研究開発学科3年	開講期	前期
教科		池田步	.			I			<u> </u>			
	Z験教員		非該当	総時限	16時限	授業方法	演	習	評価方法	期末試験	ポート評価	取組加減
	概要・											
概要	: Hon	daフィロ	コソフィの理	理解、問題	解決手法	(QC道具/	/ストー	-IJ—)の理解、2	及び実践		
目的	: 物事	の本質	にたどり着	くうえで必要	要な思考注	法を身に着	ける					
〔授業	の到達	目標〕										
Hond	laフィロ	ソフィを	理解でき	ている								
問題角	解決手	法を理	解し、実置	浅できる								
〔学習	評価の)基準〕										
単元記	式験、l	ノポート	評価、及	び取り組み	加減を総	合して、「5	5 · 4 ·	. 3 .	2・1 」の	5 段階で表わす。		
5 : 格の#		X 積優3	含なもの	4: 成績	艮のもの	3:	普通(りもの) 2:Б	又績やや劣るもの I	: 成績特(こ劣り、不合
<u>MAU)T</u>		点未満	を不合格	とし、再試	験を行う							
〔使用	教科書	書・教材	 等〕									
				C-Jコース・	 テキスト							
371112						業 計 画	表					No. 1
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)		1	
	2	教科書	第1章 i	品質の基本	たについて							
	2	教科書	 第2章 ·	仕事の基準	本について							
	2	教科書	 第3章 i	改善活動	講座につい	١٢						
	8	QC活動	動実践!	ブループワー	-ク							
			動実践 幸									

教	ESI	_	一般	科目		SPI			対象級	専門課程	作成月日	25/04/01		
30.4	 1		ガ又	竹日		5 7 1			刘参林	研究開発学科3年	開講期	後期		
教科	担当	根本員	Į											
実務経	験教員	授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講	義	評価方法	期末試験	Ì			
〔授業	概要・	目的〕												
就職試	は験で:	多〈利)	用されるS	P I の対	策を行う事	で一発内	定率「	句上	に努める					
〔授業	〔授業の到達目標〕													
SPI	SPIの出題傾向を理解することで、SPI受験時に迷わず解答できる													
個別に	個別に苦手な箇所を理解すると共に、同時に効率の良い解き方も覚える													
〔学習	(学習評価の基準)													
	期末試験及び授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。													
	明末試験及び授業の取り組みを総合して、 5・4・3・2・1]の5段階で表わす。 - 5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合 - *** ********************************													
	60,	点未満	を不合格	とし、再試	験を行う									
〔使用	教科書	를・教材	(等)											
教科書	引:史	上最強	館SPI&テス	ストセンター	超実践問	題集 教	材:	個人	パソコンで	『すらら』を利用				
					授	業計画	表					No. 1		
実務経験	標準時限						授業区	内容	(項目)					
				め方を理角	弾する									
			チェック用っ											
	8	『すらら	ら』を使用し	て各自で:	学習を進め	かる (オンラ	デマント	授美	業)					

教	₹N	一般	科目		OAソフト		対象級	専門課程		作成月日	25/04/	01
+X	IT	עניו	140		O A J J I ·		入了多的效	研究開発	学科3年	開講期	前期]
教科:	担当	佐久間 淳										
実務網	X験教員	負授業 非該当		総時限	30時限		授業方法	実習		評価方法	期末試験	È
〔授業	概要・	目的〕										
実務に	心要	な Excel、Word	l、Powerl	Point につ	いて学習し	·、テーマに	沿った課題	種を作成す	る。			
〔授業	の到達	目標〕										
Word	につい	ては一般ユーザー	-の平均レ	ベル、Exce	el、Power	Pointにつ	いては、技	術系業務	に携わる引	P均的ユー·	ザー	
レベル	の1段	階上のスキル習	得を目指す	す。 								
〔学習	評価の)基準〕 ————————————————————————————————————										
提出認	課題評	価、及び授業への	の取り組み	姿勢を評価	西し、それら 	jを総合し ⁻	<u></u> τΓ 5 · 4 ·	3 · 2 · 1]の5段階	皆で表わす。		
5:特	寺に成績	績優秀なもの 4	: 成績良	₹のもの 3	: 成績普	通のもの	2:成績	やや劣るも	5の 1 : J	成績特に劣	30、不合	格のも
60点	末満	を不合格とし、再	試験を行	う 								
		ቔ·教材等〕 ────										
プリント	、各演	真習シート(Pow	/erPoint、		-					-		
				授 	業計画		· .				No.	1
実務経験						授業内容	(項目)					
		PowerPoint :		説明と演習 								
		PowerPoint :										
		PowerPoint :										
		Excel: グラフ作		説明と演習	<u> </u>							
		Excelの課題(Excelの課題(
		Excel:関数機										
		Excelの課題(_/供日								
		Excel: その他(D説明と演	 223							
		Excel: その他(
		Excel:マクロ機			<u> </u>							
		Word:使い方										
	2	 Word:課題作	 :成テスト									
			-	-			-	-	-			

教	科	基本技術	科目	ŧ	幾械加工 Ⅱ	•	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
		加工技術						研究開発学科4年	開講期	<u>通期</u>
		保家茂則 和泉	秀治 池田		車研究開	発) ————				
実務網	圣験教員	授業 該当 - 該当	総時限	52	授業方法	実習·実技	評価方法	実習試験し	パート評値	取組加減
〔授業	概要・	目的〕								
・機械	加工法	法における安全作	業を体得る	する。 						
・加工	法の基	基本(切削、穴あ	が、研磨、	切断等)	を体験す	3 .				
・機械	切削0)基本理論を理解	解する。							
・設計	図面作	作成の留意点と材	材特性の	理解を促	進する。					
·NC(数值制	刂御)工作機械に	より機械加	1工を行う	ための,基	本的な考	え方と制御	データ作成の基礎を	習得する	
・自ら	の考え	た部品を製作する	るにあたり、;	加工を考え	えた図面作	成並びに	実加工が			
〔授業	の到達	[目標]								
・基本	的な多	定全作業を理解し	、自ら実行	っできるよう	うにする					
・旋盤	の基本	操作が出来る	(段取り、コ	C具の取り	付け、精度	を追求し	た外径旋門	削、内径旋削)		
・フライ	て盤の	基本操作が出来	とる (段取	り、工具の	取り付け、	精度を追	求した凹凸	5加工)		
・曲げ	、切断	作業が出来る								
·NC7	プログラ	ムの基本を理解し		プログラムな	を作成し、	数員の補助	かの下に加	工ができる		
〔学習	評価の)基準〕								
		の基準、レポート	·評価及授	業の取り	且みを総合	して、「5・	4 · 3 · 2	・1]の5段階で表材	つす。	
5:	特に成	 績優秀なもの 4	: 成績良の	もの 3:	成績普通の)もの 2	: 成績やや		に劣り、不合	合格のもの
各試	大験点数	数の評価は 5 :	: 90 ~10	0点 4	: 75 ~ 8	9点 3:	60 ~ 74			
		6	5 0 点未清	あ場合は	再試験を	テう。尚、拝	再試験後の	D評価は試験規程に	よる。	
レポー	-トの評	価は 5:非常に	優れている	4:優れ	7112 2	. 並	2 12-12-4	とス・1・坐ス(雨垾)		
〔使用	教科	型。数块关 空)			1000		2:12123		出の必要かあ	5る)
		直、狄内县)				· 日 .//	2:17173		出の必要かあ	53)
配布ノ	ノート、	雪·教術等」 ————— 関数電卓				· i	2:1773	1 . 250 (F1)Æ	出の必要かあ	53)
配布ノ	ノート、			授	業計画		2: 12123	1 . 20 CF 1 . GC	出の必要かあ	No. 1
配布之	ノート、 標準時限			授	業計画			1 . 20 (F1).E.	出の必要があ	
	標準時限		<u> </u>	授	業計画	表		1 . 20 (T)	出の必要かあ	
実務経験	標準時限	関数電卓		授	業計画	表		1 . 20 (F1).E	出の必要かあ	
実務経験	標準時限 1 3	関数電卓 安全教育の実施	ルの基礎		業計画	表		1 . 20 (F1).E.	出の必要かあ	
実務経験	標準時限 1 3 8	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク	ルの基礎	マ・ボーリン	業計画	ī 表 授業内容		1 . 20 (F1).E.	出の必要かあ	
実務経験	標準時限 1 3 8 4	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク 高精度穴加工2	ルの基礎	マ・ボーリン	業計画	ī 表 授業内容		1 . 20 C	出の必要かあ	
実務経験	標準時限 1 3 8 4 4	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク 高精度穴加エク 品質検証(3次	ルの基礎 方法(リー・ ス元測定)	マ・ボーリンと表面粗。	業 計 画 グ) さ計測方法	ī 表 授業内容		אנדו) הנכ ד הכ	出の必要かあ	
実務経験 O O O O	標準時限 1 3 8 4 4	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク 高精度穴加工7 品質検証(3次 NC旋盤加工	ルの基礎 方法(リー・ マ元測定) CAM+付	マ・ボーリンと表面粗る	業計画 グ) 対電加工	ī 表 授業内容		אנדו) הנל ד הנ	出の必要かあ	
実務経験 O O O O	標準時限 1 3 8 4 4 4	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク 高精度穴加工7 品質検証(3次 NC旋盤加工 NC応用加工(ルの基礎 方法(リー・ マ元測定) CAM+付	マ・ボーリンと表面粗る	業計画 グ) 対電加工	ī 表 授業内容			出の必要かあ	
実務経験	標準時限 1 3 8 4 4 4 4 2	関数電卓 安全教育の実施 ドリル固定サイク 高精度穴加工7 品質検証(3次 NC旋盤加工 NC応用加工(高精度穴加工7	ルの基礎 方法(リー・ マ元測定) CAM+付	マ・ボーリンと表面粗る	業計画 グ) 対電加工	ī 表 授業内容			出の必要かあ	

教	科	基本	技術	科目		音響基礎			対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01
3,		設計技術								研究開発学科4年	開講期	<u>後期</u>
教科	担当	大柿政	彦									
実務網	Z験教員	授業	非該当	総時限	12時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	ポート評値	Ti .
〔授業	概要・	目的〕										
·音の	基本、	性質、耳	徳こえ方を	学ぶ								
・自動	車やし	ろいろた	は乗り物の)騒音対策	を学ぶ							
〔授業	の到達	目標〕										
·音の	基礎的	な性質	が理解で	き、実際の	D騒音対策	気の手法に	ついて	説明	ができる			
〔学習	評価の)基準〕										
										・1 」の 5 段階で表れ		
5: 格の#		又積優柔	えなもの	4: 成績	艮のもの	3:成績	普通(かもの) 2:5	双額やや劣るもの 1	:成績特	に劣り、个合
		数の評価	五は 5:	90 ~10	00点 4:	: 75 ~ 8	9点	3:	60 ~ 74	1 点		
			6	5 0 点未清	あ場合は	再試験を	行う。	尚、ī	再試験後の	D評価は試験規程に	よる。	
レホ· る)	一下の詞	半価は	5 : 非沿	引に優れく	いる 4:	優れている	5 3	:普	迪 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	日の必要かあ
	教科書	書・教材	等〕									
配布ノ	ノート、	関数電	卓									
					授	業計画	彭表					No. 1
実務経験	標準時限						授業	内容	(項目)			
	1	音とは										
	1	音の性	質									
	1	共鳴										
	1	年代別	l聴力									
	1	ドップラ-	一効果、愉	骨伝導								
	2	騒音対	策									
	1	超音波	į									
	1	衝撃波	į									
	1	サンプリ	ング									
	1	量子化	,									
	1	C D と	t							·		

				1						/EEE		
教	科	応用技術設計	科目	機	械金型設	計		対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01	
,,,		演習										
教科	担当	大柿政彦(自	動車研究開	発)	+\\\	•						
実務網	Z験教員	授業 該当	総時限	20時限	授業方 法	講	義	評価方法	期末試験	ポート評価	T i	
〔授業	概要・	目的〕										
・金型	の基本	概念を学ぶと同	時に、金型	型の加工方	法や材料	につい	ても	学ぶ				
・実際	に自動	車やオートバイ	、パワープロ	ダクツの部	品に使われ	ている	る例か	や種類、特	徴や注意点を学ぶ			
〔授業	の到達	目標〕										
·金型	の種類	うで特徴、注意 がっこう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	点が理解で	きる								
・実際	の部品	3を見れば、大ま	かな製法や	型割につい	ハて説明で	きる						
〔学習	評価の)基準〕										
各試賜	食点数	の基準、レポー	評価及授	業の取り約	目みを総合	して、	۲5٠	4 · 3 · 2	・1 」の 5 段階で表れ	つす。		
5: 格の#		双領慢秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、个台										
		数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点										
		6 0 点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
レホ· る)	一下の詞	平価は 5:非	吊に優れく	いる 4:	優れている	5 3	:普	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提出	じの必要かあ	
	教科書	書・教材等〕										
配布ノ	ノート、											
				授	業計画	画 表					No. 1	
実務経験	標準時限					授業区	内容	(項目)				
0	1	金型の復習										
0	1	金型材料										
0	1	金型加工										
0	1	放電加工										
0	1	電子ビーム										
0	4	プレス加工										
0	4	プレス加工 II										
0	1	鋳造										
0	1	めっきと錆										
0	1	樹脂										
0	1	インジェクション原	龙形									
0	1	シールリング										
0	1	射出成形										
0	1	CFRP										

		 							市用=用40	<i>/</i> c++	25/04/04
教	科	基本技術	科目 部品開発演習 II				対象級	専門課程	作成月日	25/04/01	
教科			1		授業方	l		評価方			
	Z験教員		総時限	70時限	法	演	習	法	期末試験	ポート評値	取組加減
		目的〕									
部品原	発を	通じて製造業に	おける製品	開発のため	りのフロー・I	ロジック	ク・観	点の習得	を行う		
		[智標] 									
·上位	要求を	元に製品化を行	すえる。								
·根拠	,ロジッ	クを元に仕様の	検討及び妥	当性の証	明が行える	3 .					
·生技	性を加	1味した図面の作	成が行える	5.							
〔学習	評価の)基準〕									
試験。	点数、l	ノポート評価、及	び授業の耳	対組み姿	勢を総合し	して、	5 ·	4 · 3 · 2	・1 」の 5 段階で表れ)す	
5:特	た成績	優秀なもの 4:成	績良のもの 3	3:成績普)	通のもの 2:	成績	やや劣	るもの 1:/	成績特に劣り、不合格の	もの	
試験,	試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~89点 3:60~74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
レポー	レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(要再提出)										
〔実務	経験0	ある教員による	授業〕								
自動	車開	発現場で実務経	経験のある教	対員が、開	発現場でよ	必要な	作業	(方法・知	識について、		
実務	経験	を活かしてより実	践的内容を	指導し授	業を行う。						
〔使用	教科書	雪・ 教材等〕									
				授	業計画	画 表					No. 1
実務経験	標準時限					授業	内容	(項目)			
0	1	授業概要解説									
0	1	コンセプト検討									
0	8	要求仕様検討									
0	2	設計構想検討									
0	12	詳細設計・モデ	リング								
0	12	図面作成									
○ 12 部品加工·製作											
0	2	寸法検査・組付	け性確認								
0	10	機能性評価									
0	10	レポート作成									

										/	
教	基本技術 制御技術 物科担当 塚越		科目	E 7	デルベース厚	月発	対象級	専門課程	作成月 日	25/04/01	
3,7,		制御	即技術	i				7.3.23.412.4	研究開発科4年	開講期	前期
教科:	担当	塚越				+11/+					
実務組	E験教員	授業	非該当	総時限	18時限	授業方 法	実習·実技	評価方法	期末試験		取組加減
〔授業	概要・	目的〕									
MATL	AB,S	imulin	kを使用し	ノて、ブロッ ?	ク線図によ	るモデル作	■成・動作を	体得する			
MBD	開発に	使われ	ているソフ	トを使用し	、開発環境	境を実体	険する				
〔授業	の到達	目標〕									
1.MA	TLAB	、Simu	ulinkの基	本的な操作	作ができる	•					
2.MB	D開発	ミフロー0	の特徴やメ	リットを知る	3.						
3.制御	モデノ	レを作成	む、入出	力のあるシ	ステムにお	いて組み	込み制御が	できる。			
〔学習	評価の)基準〕									
レポー	卜評価	及授業	美の取り組	みを総合し	て、「5・	4 · 3 · 2	·1]の5月	段階で表わ	す。		
5 : 格のも		又積優多	秀なもの	4: 成稹	艮のもの	3:成績	普通のもの) 2:5	双額やや劣るもの 1	:成績特	に劣り、个台
<u>4H()()</u>	0)										
レホ- る)	- トの語	平価は	5:非智	引に慢れく	いる 4:	優れている	る 3:普	通 2	: やや劣る 1:劣	る(再提)	日の必要かあ
	教科書	小教材	 等〕								
自動車	車業界	MBD	エンジニア	のためのSi	mulink入	門、パソニ]ン、MATL	.AB,Simι	ılink		
					———— 授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
	1	MBD閉	開発とMA	TLAB,Sin	nulink						
	3	各種ブ	ロックの使	(い方							
	1	物理モ	デル作成	(自由落	下)						
	2	移動距	離、速度	、加速度の	の関係性	(微分積分	分)				
	3	車両モ	デルの作り			抵抗、勾	配抵抗)				
	1	モデルに	こよるプログ	グラミング導	入(制御	リモデル)					
	2	モデルに	こよるセン	サー入力値	5処理						
	2	モデルに	こよるアクラ	 チュエータ出	 出力処理						
	2	モデルは	こよるライン	ントレース制	御構築						
	1	期末試	 大験								

教	科	応月	用技術	科目		[°] ログラム開		対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
扒	47	制御	即演習	1711		П) Д (М)	76	V13/1/1/X	研究開発学科4年	開講期	前期
教科	担当	塚越琢	阤								
実務組	圣験教員	授業	非該当	総時限	20時限	授業方法	実習·実技	評価方法	期末試験		取組加減
〔授業	概要・	目的〕									
CANi	通信を使	使用して、	、車両の各	種情報を頂	双得するデー	-タロガーを4	作成し、CA	N通信の理	解を深める		
〔授業	の到達	目標〕									
マイコン	バード	を用いた	:データロガ-	ーを製作する	3						
CANi	通信によ	り、エン	ジン回転数	対や水温、吸	対温度な	ど各種セン!	サーの情報を	を取得する			
〔学習	学習評価の基準)										
各試馬	各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。										
5:	5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの										
各試	S試験点数の評価は 5:90~100点 4:75~ 89点 3:60~ 74点										
60点	60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
〔使用	教科	를・教材	持 〕								
オリジナ	トルテキ	スト、パ	ソコン、CAI	N通信機器	、マイコンボ	ドード					
					授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
	1	授業概	要説明								
	1	CANC	よる相互通	6							
	1	シリアル	通信とは								
	1	シリアル	通信による	液晶ディス	プレイの制役	卸					
	1	CANi	通信プロトコ	1ル							
	2	CAN通	6信デバイス	の作成							
	2	CANデ	ータの取得	方法							
	2	水温の	表示								
	2	エンジン	回転数の	表示							
	2 ボタンによる切替表示										
	2	シフトポ	ミジションの家	表示							
	2	ステアリ	ング舵角の	表示							
	1	期末試	· 験								

対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
713/11/2	研究開発学科4年	開講期	前期
評価方法			
者や社会を	理解し製品を開発す	する	
)プロセスを体	本得する		
段階で求め	かられる内容を理解し	実践する	
łにつける			
2:成績や	や劣るもの 1:成績	漬特に劣り、	不合格のもの
評価する			
する機会を	設定する		
ノント等を使	用。		
			No. 1
字(項目)			
	2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	評価方法 評価方法 記者や社会を理解し製品を開発する 記者で表を理解し製品を開発する 記録で求められる内容を理解しまたつける 2:成績やや劣るもの 1:成績 記評価する まる機会を設定する リント等を使用。	評価方法 記者や社会を理解し製品を開発する のプロセスを体得する の段階で求められる内容を理解し実践する 別につける 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、 が評価する Eする機会を設定する

			D 1-1-7-15							" "	
大教	科目		用技術	科目	卒	業研究(設	計)	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
			†演習						研究開発学科4年	開講期	前期
教科			· 塚越琢			授業方	実習・実	1			
実務網	X験教員	授業	非該当	総時限	30時限	法	技	評価方法	期末試験	È	取組加減
〔授業	概要・	目的〕									
Γ20	3 O £	Fに求め	かられる電	動製品の関	開発」という	ラテーマに基	きづき、他都	針や社会を	理解し製品を開発す	る	
製品開	開発フロ	引 一 [ある おうない あんりゅう あんりゅう かんしゅう かんしゅう あんしゅう あんしゅう かんしゅう かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	設計·製作	乍・テスト)	を実践し	、モノづくり	プロセスを依	本得する		
〔授業	の到達	目標)									
①製品	企业	から完	成に至るま	で、製品	開発フロー	について、	それぞれの	段階で求め	られる内容を理解し	実践する	
②開発	そフロー	-に沿っ	て製品の	製作を行い	、設計・製	製作・テスト	技術を身	こつける			
〔学習	評価の)基準〕									
各Gra	の取り	且みを終	総合して、	5.4.3.2	2・1」の5段	踏で表わ	す。				
5:特	に成績	責優秀/	なもの 4	:成績良の)もの 3:	成績普通	色のもの	2:成績や	や劣るもの 1:成績	責特に劣り	、不合格のもの
特に、	Grワー	・クに関	して各人の	の取り組み	方(積極	性・協調性	生) なども言	平価する			
企画	寺点で	立案し	た内容に治	公って実習	した成果を	以降の課	程で検証	する機会を	設定する		
一連の	開発	について	こレポートに	まとめ、報	告会におり	ハて発表す	る				
〔使用	教科書	書・教材	持 〕								
1年次	(から4:	年次ま	でに購入し	た教科書	·参考書の)他に、各	段階でプリ	ント等を使	用。		
					授	業計画	画 表				No. 1
実務経験	標準時限						授業内容	(項目)			
	2	設計構	構想書作 ₆								
	2	機能化	上様作成								
	4	レイアワ	 ント検討								
	14	パーツ	モデリング								
	8	パーツ	アッセンブリ	J							

大教	製本技術 科目 制御技術 科担当 池田歩・塚越琢也			科目	卒業	研究(制御基礎	<u>*</u>)	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
7 (3)		制御	肢術	11111	1 7.	717 0(117) 117 117 117	-/	7.32002	研究開発学科4年	開講期	後期
教科	担当	池田歩	塚越琢情	也							
実務紹	E験教員	授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	当・実 技	評価方法			
〔授業	概要・	目的〕									
Γ20	3 0 €	Fに求め	られる電	動製品の開	開発」という	ラテーマに基づき	き、他者	香や社会を	理解し製品を開発す	する	
製品開	開発フロ]—(商	品企画・	設計·製作	乍・テスト)	を実践し、モノ	/づくり]	プロセスを依	本得する		
〔授業	の到達	目標〕									
①製品	配金	から完成	戊に至るま	で、製品原	開発フロー	について、それる	ぞれの	没階で求め	られる内容を理解し	実践する	
②開発	Ě フロー	-に沿って	て製品の製	製作を行い	、設計・製	製作・テスト技術	版を身(こつける			
〔学習	評価の)基準〕									
各Gro	り取り	且みを終	洽して、「	5 · 4 · 3 · 2	2・1」の5段	と階で表わす。					
5 : 特	に成績	責優秀な	きの 4:	:成績良の	もの 3:	成績普通のも	iの :	2:成績や	や劣るもの 1:成	績特に劣り、	不合格のもの
特に、	Grワー	・クに関し	て各人の	取り組み	方(積極	性・協調性) カ	なども訳	平価する			
企画時	き点で:	立案した	た内容に浴	沿って実習し	した成果を	以降の課程で	検証	する機会を	設定する		
一連の	開発	について	レポートに	まとめ、報	告会にお	いて発表する					
〔使用	教科書	小教材	等〕								
1年次	から44	年次まで	で購入し	た教科書	·参考書0	D他に、各段階	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙	ント等を使	用。		
					授	業計画表	Ę				No. 1
実務経験	標準時限					授第	【内容	(項目)			
	4	制御回	路設計・	製作							
	8	ハーネス	(設計・製	操作							
	4	組付け									
	4	制御プ	ログラム製	偨							
	4	動作デ	スト								

大教科	Ī	応用技術	科目	卒業研究(制御応用)	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
八软件	†□	制御演習	1 1 11	华来训九(时仰心用)	为为公孙文	研究開発学科4年	開講期	後期
教科担	当	池田歩·塚越琢	也					
実務経験	験教員	授業 非該当	総時限	60時限 授業方法 実習・ 技	平 評価方法	<u>-</u>		
〔授業概	悪要・	目的〕						
Γ203	3 0 年	Fに求められる電	動製品の関	開発」というテーマに基づき、化	也者や社会を	理解し製品を開発す	する	
製品開	発フロ]-(商品企画・	·設計·製化	乍・テスト)を実践し、モノづく	りプロセスを作	本得する		
〔授業の)到達	目標〕						
①製品:	企画	から完成に至るま	で、製品	開発フローについて、それぞれの	の段階で求め	かられる内容を理解し	実践する	
②開発:	フロー	に沿って製品の	製作を行い	い、設計・製作・テスト技術を!	身につける			
〔学習評	平価の)基準〕						
各Grの	取り約	目みを総合して、	Γ5·4·3·2	2・1」の5段階で表わす。				
5:特亿	こ成績	長優秀なもの 4	:成績良の	のもの 3:成績普通のもの	2:成績や	やか劣るもの 1:成績	績特に劣り、	不合格のもの
特に、G	irワ-	クに関して各人の	の取り組み	方(積極性・協調性)なども	評価する			
企画時	点で	立案した内容に流	台って実習	した成果を以降の課程で検討	正する機会を	設定する		
一連の	開発(こついてレポートに	こまとめ、報	告会において発表する				
〔使用教	效科書	・教材等〕						
1年次为) ら44	下次までに購入し	た教科書	・参考書の他に、各段階でフ	リント等を使	用。		
				授業計画表				No. 1
実務経験標	準時限			授業内容	容(項目)			
	14	制御回路設計・	製作					
	16	ハーネス設計・製	操作					
	8	組付け						
	14	制御プログラム集	製作					
	8	動作テスト						

大教	科目	研究	科目	卒	業研究(制作	乍)	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
		課題研究						研究開発学科4年	開講期	通期
教科:	担当	池田歩·塚越琢	也							
実務紹	E験教員	損授業 非該当	総時限	200時 限	授業方法	実習・実 <u>技</u>	評価方法	期末試験	ŧ	取組加減
〔授業	概要・	目的〕								
Γ20	3 O £	Fに求められる電	動製品の	開発」という	テーマに基	づき、他都	首や社会を	理解し製品を開発す	する	
製品開	見発フロ]- (商品企画	・設計・製作	乍・テスト)	を実践し、	モノづくりこ	プロセスを依	本得する		
〔授業	の到達	目標〕								
①製品	配金品	から完成に至る	まで、製品	開発フロー	について、そ	れぞれの	没階で求め	りられる内容を理解し	実践する	
②開発	そフロー	-に沿って製品の	製作を行し	、設計・製	製作・テスト	支術を身(こつける			
〔学習	評価の)基準〕								
各Gro	り取り	且みを総合して、	Γ5·4·3·2	2・1」の5段	踏で表わる	r.				
5:特	に成績	も優秀なもの 4	:成績良の)もの 3:	成績普通	のもの :	2:成績や	や劣るもの 1:成績	漬特に劣り、	不合格のもの
特に、	Grワー	·クに関して各人	の取り組み	方(積極	性・協調性) なども言	平価する			
企画時	き点で	立案した内容に	沿って実習	した成果を	以降の課程	呈で検証す	する機会を	設定する		
一連の	開発	こついてレポート	にまとめ、報	告会にお	いて発表する	3				
〔使用	教科書	·教材等〕								
1年次	から4:	年次までに購入	した教科書	・参考書の)他に、各段	と階でプリ:	ント等を使	用。		
				授	業計画	表				No. 1
実務経験	標準時限				į	受業内容	(項目)			
	42	部品図面製作	•検図							
	4	製作方法検討								
	30	加工図面製作								
	10	報告資料作成								
	4	レイアウト完了韓	股告会							
	8	鋼材見積・手酉	2							
	8	購入部品見積	・手配							
	50	部品製作								
	16	寸法検査								
	28	組立								

_							1	T	1	
大教	科目	実習	科目	卒業	研究(実験	評価)	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
		総合技術						研究開発学科4年	開講期	後期
教科	担当	池田歩・塚越琢	也		1	THE STATE OF	1			
実務終	圣験教員	負授業 非該当	総時限	66時限	授業方法	美智·美 技	評価方法	.		
〔授業	概要・	目的〕								
Γ20	3 O £	Fに求められる電	動製品の	開発」とい	ラテーマに基	びき、他を	皆や社会を	理解し製品を開発す	する	
製品	開発フロ]-(商品企画	・設計・製作	乍・テスト)	を実践し、	モノづくり	プロセスを付	本得する		
〔授業	の到達	目標〕								
①製品	品企画	から完成に至る	まで、製品	開発フロー	について、そ	それぞれの	段階で求め	かられる内容を理解し	実践する	
②開	発フロー	・に沿って製品の	製作を行い	、設計・製	製作・テスト	技術を身	につける			
〔学習	評価の)基準〕								
各Gro	の取り	且みを総合して、	Γ5·4·3·2	2・1」の5科	没階で表わ	す。				
5:特	まに成績 しんしん かいしん かいしん しんしん かいしん かいしん かいしん かいしん	長優秀なもの 4	:成績良の)もの 3:	成績普通	のもの	2:成績や	や劣るもの 1:成約	漬特に劣り、	不合格のもの
特に、	Grワー	・クに関して各人の	の取り組み	方(積極	性・協調性	三) なども言	平価する			
企画	時点で.	立案した内容に	沿って実習	した成果を	以降の課	程で検証	する機会を	設定する		
一連の	D開発	こついてレポート	こまとめ、報	告会にお	いて発表す	る				
〔使用	教科	書·教材等〕								
1年次	てから4:	年次までに購入し	た教科書	•参考書(D他に、各国	没階でプリ	ント等を使	用。		
				授	業計画	表				No. 1
実務経験	標準時限					授業内容	(項目)			
	6	テスト計画立案								
	6	テスト準備								
	4	テスト実施								
	4	テスト結果分析	・まとめ							
	10	テスト結果に基	づく改善方:	法検討						
	6	改善結果確認	テスト計画	立案						
	6	改善結果確認	テスト準備							
	4	改善結果確認	テスト実施							
	4	改善結果確認	テスト分析・	・まとめ						
	8	最終報告資料	作成							
	4	最終報告会 事	前練習							
	4	最終報告会								